

片品村国民健康保険  
第3期 データヘルス計画  
第4期 特定健康診査等実施計画

令和6年度（2024年）～令和11年度（2029年）

令和6年3月  
群馬県片品村

# 目次

第1章 基本的事項	1
1 計画の趣旨	1
2 計画の位置づけ	2
3 標準化の推進	3
4 計画期間	3
5 実施体制・関係者連携	3
第2章 現状の整理	4
1 片品村の特性	4
(1) 人口動態	4
(2) 平均余命・平均自立期間	5
(3) 産業構成	6
(4) 医療サービス（病院数・診療所数・病床数・医師数）	6
(5) 被保険者構成	6
2 前期計画等に係る考察	7
(1) 第2期データヘルス計画の目標評価・考察	7
(2) 第2期データヘルス計画の個別事業評価・考察	8
3 保険者努力支援制度	13
(1) 保険者努力支援制度の得点状況	13
第3章 健康・医療情報等の分析と分析結果に基づく健康課題の抽出	14
1 死亡の状況	15
(1) 死因別の死亡者数・割合	15
(2) 死因別の標準化死亡比（SMR）	16
2 介護の状況	18
(1) 要介護（要支援）認定者数・割合	18
(2) 介護給付費	18
(3) 要介護・要支援認定者の有病状況	19
3 医療の状況	20
(1) 医療費の3要素	20
(2) 疾病分類別入院医療費及び受診率	22
(3) 疾病分類別外来医療費及び受診率	26
(4) 生活習慣病（重篤な疾患・基礎疾患）における受診率	29
(5) 生活習慣病の重篤な疾患患者における基礎疾患の有病状況	31
(6) 高額なレセプトの状況	32
(7) 長期入院レセプトの状況	33
4 特定健診・特定保健指導・生活習慣の状況	34
(1) 特定健診受診率	34
(2) 有所見者の状況	36
(3) メタボリックシンドロームの状況	38
(4) 特定保健指導実施率	41
(5) 特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率	42
(6) 受診勧奨対象者の状況	43
(7) 質問票の状況	47

5	一体的実施に係る介護及び高齢者の状況	49
(1)	保険種別（国民健康保険及び後期高齢者医療制度）の被保険者構成	49
(2)	年代別の要介護（要支援）認定者の有病状況	49
(3)	保険種別の医療費の状況	50
(4)	前期高齢者における骨折及び骨粗しょう症の受診率	51
(5)	後期高齢者の健診受診状況	51
(6)	後期高齢者における質問票の回答状況	52
6	その他の状況	53
(1)	重複服薬の状況	53
(2)	多剤服薬の状況	53
(3)	後発医薬品の使用状況	54
(4)	5がん（胃がん・肺がん・大腸がん・子宮頸がん・乳がん）検診の受診率	54
7	健康課題の整理	55
(1)	健康課題の全体像の整理	55
(2)	わがまちの生活習慣病に関する健康課題	57
(3)	一体的実施及び社会環境・体制整備に関する課題	58
第4章 データヘルス計画の目的・目標		59
第5章 保健事業の内容		61
1	保健事業の整理	61
(1)	重症化予防	61
(2)	生活習慣病発症予防・保健指導	64
(3)	早期発見・特定健診	65
(4)	社会環境・体制整備	66
第6章 計画の評価・見直し		67
1	評価の時期	67
(1)	個別事業計画の評価・見直し	67
(2)	データヘルス計画の評価・見直し	67
2	評価方法・体制	67
第7章 計画の公表・周知		67
第8章 個人情報の取扱い		67
第9章 地域包括ケアに係る取組及びその他の留意事項		68
第10章 第4期 特定健康診査等実施計画		69
1	計画の背景・趣旨	69
(1)	計画策定の背景・趣旨	69
(2)	特定健診・特定保健指導を巡る国の動向	70
(3)	計画期間	70
2	第3期計画における目標達成状況	71
(1)	全国の状況	71
(2)	片品村の状況	72
(3)	国の示す目標	77
(4)	片品村の目標	77

3 特定健診・特定保健指導の実施方法 .....	78
(1) 特定健診 .....	78
(2) 特定保健指導 .....	80
4 特定健診受診率・特定保健指導実施率向上に向けた主な取組 .....	82
(1) 特定健診 .....	82
(2) 特定保健指導 .....	82
5 その他 .....	83
(1) 計画の公表・周知 .....	83
(2) 個人情報の保護 .....	83
(3) 実施計画の評価・見直し .....	83
参考資料 用語集 .....	84

## 第1章 基本的事項

### 1 計画の趣旨

平成25年6月に閣議決定された「日本再興戦略」において、「全ての健康保険組合に対し、レセプト等のデータの分析、それに基づく加入者の健康保持増進のための事業計画として「データヘルス計画」の作成・公表、事業実施、評価等の取組を求めるとともに、市町村国保が同様の取組を行うことを推進する。」ことが示された。これを踏まえ、平成26年3月に「国民健康保険法に基づく保健事業の実施等に関する指針」において、保険者は、「健康・医療情報を活用してPDCAサイクルに沿った効果的かつ効率的な保健事業の実施を図るための保健事業の実施計画（データヘルス計画）を策定したうえで、保健事業の実施・評価・改善等を行う」ものとされた。

その後、平成30年4月から都道府県が財政運営の責任主体として共同保険者となり、また、令和2年7月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2020（骨太方針2020）」において、「保険者のデータヘルス計画の標準化等の取組の推進」が掲げられ、令和4年12月に経済財政諮問会議における「新経済・財政再生計画改革工程表2022」において、「保険者が策定するデータヘルス計画の手引きの改訂等を行うとともに、当該計画の標準化の進展にあたり、保険者共通の評価指標やアウトカムベースでの適切なKPIの設定を推進する。」と示された。

こうした背景を踏まえ、片品村では、被保険者の健康課題を的確に捉え、課題に応じた保健事業を実施することにより、健康の保持増進、生活の質（QOL）の維持及び向上を図り、結果として医療費の適正化にも資することを目的とし、データヘルス計画を策定し保健事業の実施、評価、改善等を行うこととする。

## 2 計画の位置づけ

データヘルス計画とは、「被保険者の健康の保持増進に資することを目的として、保険者が効果的・効率的な保健事業の実施を図るため、特定健康診査・特定保健指導の結果、レセプトデータ等の健康・医療情報を活用して、PDCAサイクルに沿って運用するもの」とデータヘルス計画策定の手引きにおいて定義されている。（以下、特定健康診査を「特定健診」という。）

また、同手引きにおいて、「計画は、健康増進法（平成14年法律第103号）に基づく基本方針を踏まえるとともに、都道府県健康増進計画、都道府県医療費適正化計画、介護保険事業（支援）計画、高齢者保健事業の実施計画（以下「後期高齢者データヘルス計画」という。）、国民健康保険運営方針、特定健康診査等実施計画と調和のとれたものとする」ことが求められており、その際に、「他計画の計画期間、目的、目標を把握し、データヘルス計画との関連事項・関連目標を確認するプロセスが重要」とされている。

片品村においても、他の計画における関連事項及び関連目標を踏まえ、データヘルス計画において推進、強化する取組等について検討していく。

年度	H30	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
国保	第2期データヘルス計画						第3期データヘルス計画					
	第3期特定健康診査等実施計画						第4期特定健康診査等実施計画					
村	片品村健康増進計画（第2次）						片品村健康増進計画（第3次）					
	第7期 介護保険事業計画			第8期 介護保険事業計画			第9期 介護保険事業計画					
県	群馬県健康増進計画 元気県ぐんま21（第2次）						群馬県健康増進計画 元気県ぐんま21（第3次）					
	群馬県医療費適正化計画（第3期）						群馬県医療費適正化計画（第4期）					
	群馬県国民健康保険運営方針			第2期 群馬県国民健康保険運営方針			第3期 群馬県国民健康保険運営方針					
後期	群馬県後期高齢者医療広域連合 保健事業実施計画（第2期データヘルス計画）						群馬県後期高齢者医療広域連合 保健事業実施計画（第3期データヘルス計画）					

### 3 標準化の推進

データヘルス計画が都道府県レベルで標準化されることにより、共通の評価指標による域内保険者の経年的なモニタリングができるようになるほか、地域の健康状況や健康課題の分析方法、計画策定、評価等の一連の流れを共通化することで、これらの業務負担が軽減されることが期待されている。片品村では、群馬県等の方針を踏まえ、データヘルス計画を運用することとする。

### 4 計画期間

本計画の期間は、令和6年度（2024年）から令和11年度（2029年）までの6年間である。

### 5 実施体制・関係者連携

片品村では、被保険者の健康の保持増進を図り、病気の予防や早期回復を図るために、国保部局が中心となって、関係部局や関係機関の協力を得て、保険者の健康課題を分析し、計画を策定する。計画策定後は、計画に基づき効果的・効率的な保健事業を実施して、個別の保健事業の評価や計画の評価をし、必要に応じて計画の見直しや次期計画に反映させる。また、後期高齢者医療部局や介護保険部局、生活保護部局（福祉事務所等）と連携してそれぞれの健康課題を共有するとともに、後期高齢者や生活保護受給者の健康課題も踏まえて保健事業を展開する。

計画の策定等に当たっては、共同保険者である都道府県のほか、国保連や国保連に設置される保健事業支援・評価委員会、地域の医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、栄養士会等の保健医療関係者等、保険者協議会、後期高齢者医療広域連合、健康保険組合等の他の医療保険者、地域の医療機関や大学等の社会資源等と連携、協力する。

本計画は、被保険者の健康の保持増進が最終的な目的であり、その実効性を高める上では、被保険者自身が主体的かつ積極的に健康増進に取り組むことが重要である。

## 第2章 現状の整理

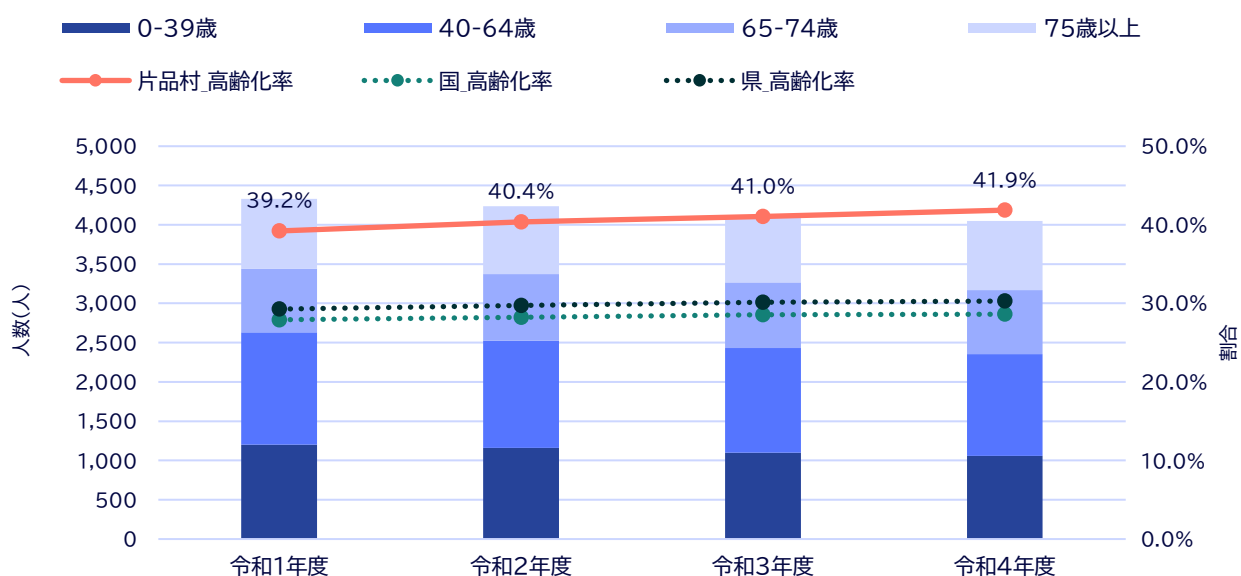
### 1 片品村の特性

#### (1) 人口動態

片品村の人口をみると（図表2-1-1-1）、令和4年度の人口は4,049人で、令和1年度（4,330人）以降281人減少している。

令和4年度の65歳以上人口の占める割合（高齢化率）は41.9%で、令和1年度の割合（39.2%）と比較して、2.7ポイント上昇している。国や県と比較すると、高齢化率は高い。

図表2-1-1-1：人口の変化と高齢化率



	令和1年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合
0-39歳	1,203	27.8%	1,162	27.4%	1,098	26.6%	1,058	26.1%
40-64歳	1,429	33.0%	1,364	32.2%	1,333	32.3%	1,296	32.0%
65-74歳	809	18.7%	845	19.9%	836	20.3%	813	20.1%
75歳以上	889	20.5%	865	20.4%	856	20.8%	882	21.8%
合計	4,330	-	4,236	-	4,123	-	4,049	-
片品村_高齢化率	39.2%		40.4%		41.0%		41.9%	
国_高齢化率	27.9%		28.2%		28.5%		28.6%	
県_高齢化率	29.3%		29.7%		30.1%		30.3%	

【出典】住民基本台帳 令和1年度から令和4年度

※片品村に係る数値は、各年度の3月末時点の人口を使用し、国及び県に係る数値は、総務省が公表している住民基本台帳を参照しているため各年度の1月1日の人口を使用している（住民基本台帳を用いた分析においては以下同様）



## (2) 平均余命・平均自立期間

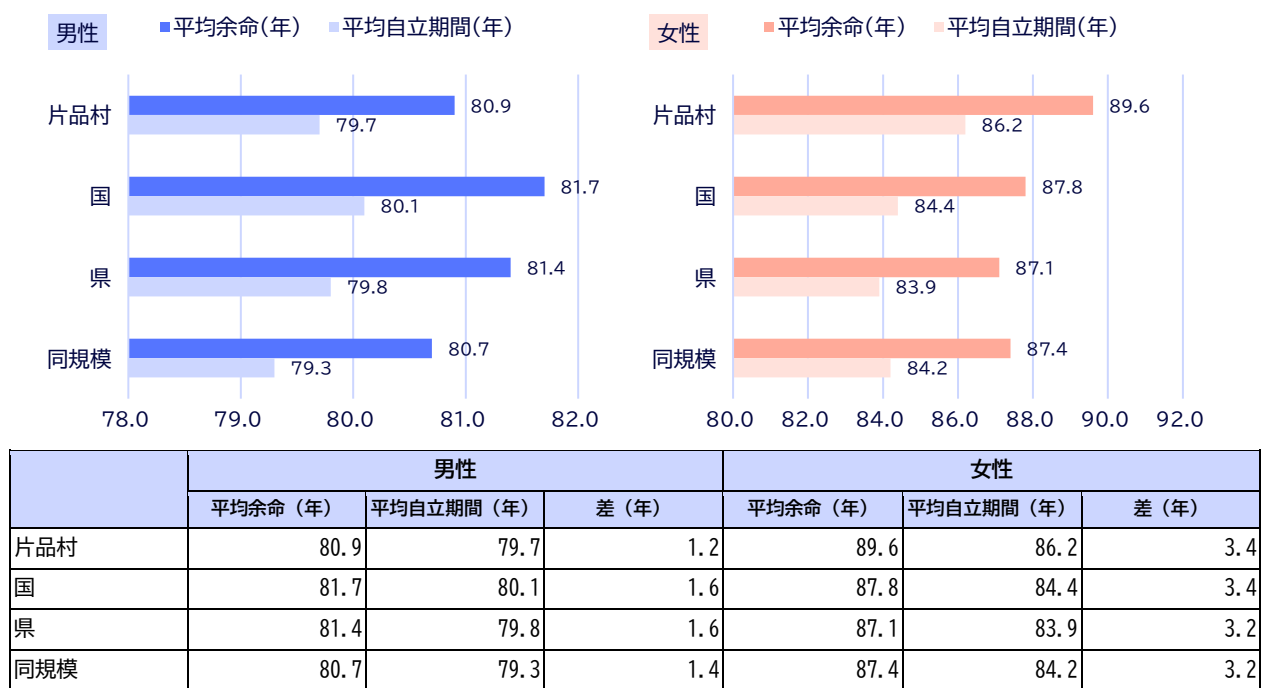
男女別に平均余命（図表2-1-2-1）をみると、男性の平均余命は80.9年で、国・県より短い。国と比較すると、-0.8年である。女性の平均余命は89.6年で、国・県より長い。国と比較すると、+1.8年である。

男女別に平均自立期間（図表2-1-2-1）をみると、男性の平均自立期間は79.7年で、国・県より短い。国と比較すると、-0.4年である。女性の平均自立期間は86.2年で、国・県より長い。国と比較すると、+1.8年である。

令和4年度における平均余命と平均自立期間の推移（図表2-1-2-2）をみると、男性ではその差は1.2年で、令和1年度以降縮小している。女性ではその差は3.4年で、令和1年度以降拡大している。

※平均余命：ある年齢の人々が、その後何年生きられるかの期待値であり、下表では0歳での平均余命を示している  
 ※平均自立期間：0歳の人が要介護2の状態になるまでの期間

図表2-1-2-1：平均余命・平均自立期間



【出典】KDB帳票 S21\_001-地域の全体像の把握 令和4年度 累計

※表内の「国」とは、市町村国保全体を指す（KDB帳票を用いた分析においては以下同様）  
 ※表内の「同規模」とは、人口規模が同程度の市町村を指す

図表2-1-2-2：平均余命と平均自立期間の推移

	男性			女性		
	平均余命(年)	平均自立期間(年)	差(年)	平均余命(年)	平均自立期間(年)	差(年)
令和1年度	83.5	81.9	1.6	84.3	81.8	2.5
令和2年度	82.0	80.4	1.6	85.8	83.0	2.8
令和3年度	80.6	79.5	1.1	87.8	84.7	3.1
令和4年度	80.9	79.7	1.2	89.6	86.2	3.4

【出典】KDB帳票 S21\_001-地域の全体像の把握 令和1年度から令和4年度 累計

### (3) 産業構成

産業構成の割合（図表2-1-3-1）をみると、国と比較して第一次産業比率が高く、県と比較して第一次産業比率が高い。

図表2-1-3-1：産業構成

	片品村	国	県	同規模
一次産業	21.1%	4.0%	5.1%	22.3%
二次産業	18.2%	25.0%	31.8%	20.6%
三次産業	60.7%	71.0%	63.1%	57.2%

【出典】KDB帳票 S21\_003-健診・医療・介護データからみる地域の健康課題 令和4年度 累計

※KDBシステムでは国勢調査をもとに集計している

### (4) 医療サービス（病院数・診療所数・病床数・医師数）

被保険者千人当たりの医療サービスの状況（図表2-1-4-1）をみると、国と比較していずれも少なく、県と比較していずれも少ない。

図表2-1-4-1：医療サービスの状況

（千人当たり）	片品村	国	県	同規模
病院数	0.0	0.3	0.3	0.3
診療所数	1.3	4.0	3.7	3.5
病床数	0.0	59.4	56.2	21.4
医師数	1.3	13.4	11.3	3.2

【出典】KDB帳票 S21\_001-地域の全体像の把握 令和4年度 累計

※病院数・診療所数・病床数・医師数を各月ごとの被保険者数から算出する年間平均被保険者数で割ったものである

※KDBシステムでは医療施設（動態）調査及び医師・歯科医師・薬剤師統計をもとに集計している

### (5) 被保険者構成

被保険者構成をみると（図表2-1-5-1）、令和4年度における国保加入者数は1,451人で、令和1年度の人数（1,658人）と比較して207人減少している。国保加入率は35.8%で、国・県より高い。

65歳以上の被保険者の割合は42.0%で、令和1年度の割合（38.4%）と比較して3.6ポイント増加している。

図表2-1-5-1：被保険者構成

	令和1年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	人数（人）	割合	人数（人）	割合	人数（人）	割合	人数（人）	割合
0-39歳	415	25.0%	377	23.6%	348	22.6%	319	22.0%
40-64歳	607	36.6%	572	35.8%	544	35.3%	522	36.0%
65-74歳	636	38.4%	649	40.6%	649	42.1%	610	42.0%
国保加入者数	1,658	100.0%	1,598	100.0%	1,541	100.0%	1,451	100.0%
片品村_総人口	4,330		4,236		4,123		4,049	
片品村_国保加入率	38.3%		37.7%		37.4%		35.8%	
国_国保加入率	21.3%		21.0%		20.5%		19.7%	
県_国保加入率	23.1%		22.8%		22.1%		21.1%	

【出典】住民基本台帳 令和1年度から令和4年度

KDB帳票 S21\_006-被保険者構成 令和1年から令和4年 年次

※加入率は、KDB帳票における年度毎の国保加入者数を住民基本台帳における年毎の人口で割って算出している

## 2 前期計画等に係る考察

### (1) 第2期データヘルス計画の目標評価・考察

第2期データヘルス計画の中長期目標及び短期目標について、下表のとおり評価した。

【評価の凡例】									
○「指標評価」欄：5段階									
A：目標達成 B：目標達成はできていないが改善傾向 C：変わらない D：悪化傾向 E：評価困難									

	項目名	開始時	目標値	実績値						指標評価
				平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中長期目標	虚血性心疾患の減少	69.7%	15%減	73.5%	71.3%	70.3%	71.0%	72.8%		D
	糖尿病性腎症の減少	23.3%	15%減	21.1%	22.0%	20.1%	19.8%	21.1%		C
	メタボ該当率の減少	19.2%	15%減	18.7%	17.2%	19.1%	20.6%	21.6%		D
短期目標	特定健診受診率向上	60.0%	60%	58.5%	60.8%	58.8%	60.8%	60.7%		C
	特定保健指導実施率	1.9%	45%	7.0%	42.2%	47.2%	30.7%	31.6%		A
<b>振り返り① データヘルス計画全体の指標評価の振り返り</b>										
<p>虚血性心疾患は数値が増えており、減少の傾向にはなっていない。            糖尿病性腎症は横ばいの数値となっている。            メタボ該当者は微増傾向である。            特定健診受診率については横ばいの数値となっている。            特定保健指導実施率は令和1年度より大幅な向上が見られた。</p>										
<b>振り返り② 第2期計画全体をとおしてうまくできていた点</b>										
<p>令和1年度より特定保健指導を健康づくり財団に委託し、健診当日の初回面談分割実施を導入したことにより、住民の利便性が向上したため、実施率の大幅な向上が見られた。            特定健診の受診率は60%前後で推移しており、実施体制の整備や受診勧奨により受診率は維持できている。            人間ドック費用助成は利用者が定着しており、制度が被保険者に認知されてきている。</p>										
<b>振り返り③ 第2期計画全体をとおしてうまくできていなかった点</b>										
<p>虚血性心疾患については、計画策定時より上昇しており、主軸としている保健事業が効果的に機能していないことが考えられる。            糖尿病性腎症については、計画策定時より若干減少しているが、大幅な減少には至っていない。受診勧奨事業を実施しているが、通知での勧奨がメインとなっており、電話または訪問による勧奨が必要と考える。            特定健診医療受診勧奨対象者の受診状況の確認ができていない。</p>										
<b>振り返り④ 第3期計画への考察</b>										
<p>糖尿病性腎症減少へ向けての対策として糖尿病重症化予防受診勧奨事業において、より効果的な勧奨を実施する。            特定健診受診率を維持できていることから、新規受診者を確保できるよう未受診者へのアプローチを強化していく。            今後はストラクチャー、プロセス、アウトプットの具体的な目標値を設定し、計画に組み込んでいく。            総合健診で血圧・脂質・肝機能の数値が基準値を超えていた者に対し、緊急連絡の対応だけでなく受診勧奨の方法を検討する。</p>										

## (2) 第2期データヘルス計画の個別事業評価・考察

第2期データヘルス計画における個別事業について、下表のとおり評価をした。

<p>【評価の凡例】</p> <p>○「事業評価」欄：5段階  A：うまくいっている B：まあうまくいっている C：あまりうまくいっていない D：まったくうまくいっていない E：わからない</p> <p>○「指標評価」欄：5段階  A：目標達成 B：目標達成はできていないが改善傾向 C：変わらない D：悪化傾向 E：評価困難</p>
---

### ① 重症化予防

事業タイトル		事業評価							
糖尿病重症化予防事業		E							
事業目的									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・糖尿病が重症化するリスクの高い未受診者などを適切な治療に結びつける</li> <li>・糖尿病性腎症等で通院している重症化リスクの高い者に対し、保健指導を実施することで重症化を防止、人工透析等への移行を防止する。</li> </ul>									
事業概要									
<p>&lt;対象者&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・群馬県糖尿病性腎臓病重症化予防プログラムに準ずる。 利根沼田地域における対象者抽出基準に準ずる。</li> </ul> <p>&lt;実施内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沼田利根医師会に協力を依頼。</li> <li>・当年度特定健診受診者のうち基準値を上回り、結果送付後医療機関未受診者をKDBにより抽出。</li> <li>・医療機関未受診者に対しては、受診勧奨通知を発送し、主治医宛の受診勧奨連絡票と、受診結果連絡票を同封。結果連絡票の返信をもって受診を確認する。</li> <li>・保健指導は医師が必要と判断した者に対し、医師の指示を仰ぎながら実施。</li> </ul>									
アウトプット									
評価指標	開始時		平成 30 年度	令和 1 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	評価 指標
受診勧奨実施率	—	目標値	—	—	—	—	—	—	B
		実績値	100%	100%	9.1%	100%	100%	—	
アウトカム									
評価指標	開始時		平成 30 年度	令和 1 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	評価 指標
受診勧奨対象者の受診率	—	目標値	—	—	—	—	—	100%	B
		実績値	44.4%	55.0%	100%	66.7%	66.7%	—	
振り返り									
<p>受診勧奨対象者への勧奨はほぼ実施できているが、受診率に関しては100%を達成できておらず、更なる勧奨が必要である。保健指導は医師会からの紹介が無かったため、事業実施はほぼ無かった。</p>									
第3期計画への考察及び補足事項									
<p>対象者抽出を年間数回実施し、受診勧奨につなげたい。</p> <p>保健指導に関しては、村が対象者を抽出し、指導の体制を整えることで、少ない件数からでも取り組んでいきたい。</p>									

## ② 生活習慣病発症予防・保健指導

事業タイトル									事業評価
特定保健指導									E
事業目的									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 疾病等の重症化予防</li> <li>・ 特定健診結果に基づき、疾病等の発症を予防する。</li> </ul>									
事業概要									
<p>&lt;対象者&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国の定めた特定保健指導の基準を満たす者</li> </ul> <p>&lt;実施内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業は健康づくり財団に委託。</li> <li>・ 集団健診実施当日に、初回面談分割実施を行い、それ以降の支援は電話及び通知にて実施している。</li> <li>・ 修了者へのインセンティブとして、フィットネスジム、スパの利用券やヘルシー志向のレストランの食事券を配布している。</li> </ul>									
アウトプット									
評価指標	開始時		平成 30 年度	令和 1 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	評価 指標
特定保健指導実施率	1.9%	目標値	—	—	—	—	—	45%	B
		実績値	7.0%	42.2%	47.2%	30.7%	31.6%		
アウトカム									
評価指標	開始時		平成 30 年度	令和 1 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	評価 指標
メタボ該当率の減少	19.2%	目標値	—	—	—	—	—	15%減	D
		実績値	18.7%	17.2%	19.1%	20.6%	21.6%		
振り返り									
令和1年度より特定保健指導を健康づくり財団に委託し、健診当日の初回面談分割実施を導入したことにより、住民の利便性が向上したため、実施率の大幅な向上が見られた。個別健診における対象者へのアプローチができていない。									
第3期計画への考察及び補足事項									
第2期計画に明確な目標値などが定められていないため、目標を設定し毎年評価を実施していきたい。また、個別健診受診者の対象者へのアプローチを行っていきたい。									

### ③ 早期発見・特定健診

事業タイトル									事業評価
特定健康診査									E
事業目的									
疾病の早期発見 例年決まった時期に実施。被保険者の健康状態を確認、疾病等の早期発見を目指す。									
事業概要									
<b>【集団健診】</b> <対象者> ・国民健康保険に加入している40歳以上75歳未満の方 <実施期間> ・年2回6月と11月に実施。 <実施内容> ・6月は3日間村内2カ所で実施。11月は村内1カ所で3日間実施。									
<b>【個別健診】</b> <対象者> ・国民健康保険に加入している40歳以上75歳未満の方 <実施内容> ・個別健診受診希望者に役場窓口で受診票を発行する。 ・利根沼田管内の医療機関にて実施。									
アウトプット・アウトカム									
評価指標	開始時		平成 30 年度	令和 1 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	評価 指標
特定健診受診率	60.0%	目標値	—	—	—	—	—	60%	C
		実績値	58.5%	60.8%	58.8%	60.8%	60.7%		
アウトカム									
評価指標	開始時		平成 30 年度	令和 1 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	評価 指標
受診勧奨者医療機関受診率	50.6%	目標値	—	—	—	—	—	—	C
		実績値	50.3%	57.0%	59.6%	55.7%	52.7%		
振り返り									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団健診受診者は定着しており、全体の受診率は60%前後で維持できている。</li> <li>・具体的な目標値が設定されていない。</li> <li>・個別健診受診を希望する方は、役場窓口への申し出が必要であることが、住民の利便性を低下させている可能性がある。</li> </ul>									
第3期計画への考察及び補足事項									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受診率は伸び悩んでいるため、目標を設定する際は国が示す目標値と現状を鑑みて設定する。</li> <li>・個別健診の受診のしやすさを確保するため、窓口への申し出の必要をなくす等利便性を高め、受診率向上のための工夫を検討していく。</li> </ul>									

事業タイトル		事業評価							
特定健診勸奨ハガキ送付		C							
事業目的									
前年度未受診者等への勸奨を行い、受診率向上を目指す。									
事業概要									
<p>&lt;対象者&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過去3年間に健診の受診がない方、不定期受診の方</li> </ul> <p>&lt;実施内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>受診履歴や問診票の回答結果等のデータを人工知能を用いて解析し、精度の高い優先順位づけを用いた勸奨を行う。</li> <li>一律の勸奨通知ではなく、データ分析から得た健康特性に基づき、対象者ごとの個別の未受診理由に応じた効果的なメッセージの送り分けを行う。</li> <li>片品村のデータに加え、委託予定事業者との連携の中で近隣市町村および全国市町村と比較した効果検証を行い、客観的な課題抽出を行う。</li> <li>前年度末に1回委託先（株式会社キャンサーキャン）との事業内容の打ち合わせを実施。その後過去の受診履歴や質問票等のデータを元に、通知発送対象者を選定し、年3回勸奨通知を発送する。</li> </ul> <p>送付スケジュール</p> <p>1回目：6月 2回目：9月 3回目：11月</p> <p>【事業の流れ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年2回の報告会議（期中報告、期末報告）を実施。事業に関する効果検証を行い、次年度に向けた課題を抽出する。</li> </ul>									
アウトプット									
評価指標	開始時		平成 30 年度	令和 1 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	評価 指標
通知物カバー率（対象者の何%に通知物を送付したか）	—	目標値			60%	60%	100%	100%	B
		実績値			100%	46%	100%		
アウトカム									
評価指標	開始時		平成 30 年度	令和 1 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	評価 指標
特定健診受診率	60.0%	目標値	60%	60%	60%	60%	60%	60%	C
		実績値	58.5%	60.8%	58.8%	60.8%	60.7%		
振り返り									
<ul style="list-style-type: none"> <li>事業委託を行うことにより、勸奨を効率的に行うことができた。</li> <li>若年層の受診率の向上が課題である。</li> </ul>									
第3期計画への考察及び補足事項									
<ul style="list-style-type: none"> <li>未受診者及び不定期受診者への勸奨を引き続き実施。</li> <li>50代後半以上の方の受診者は定着しているものの、若年層の受診率は低い状態が続いている。</li> <li>40歳になる被保険者の取り込みと未受診者及び不定期受診者の受診率の向上が今後の課題となる。</li> </ul>									

#### ④ 健康づくり

事業タイトル		事業評価							
健康教室（運動教室）		E							
事業目的									
被保険者の健康状態及び運動機能の維持・改善を目指す。									
事業概要									
<対象者> ・40歳以上の住民 <実施期間> ・12月～2月までの全9回 <実施内容> ・例年秋から冬にかけ健康運動指導士等を招き教室を開催する。 ・事業は株式会社現代けんこう出版に委託。 ・初日と最終日にインボディ測定を行い、効果を検証している。									
アウトプット・アウトカム									
評価指標	開始時		平成 30 年度	令和 1 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	評価 指標
参加人数	—	目標値	—	—	—	—	—	—	E
		実績値	57人	39人	27人	36人	41人		
振り返り 成功・促進要因、課題・阻害要因									
令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で参加人数が減少していたが、実践的な運動指導・効果検証ができているため一定数の参加者を確保できている。									
第3期計画への考察及び補足事項									
会場の関係もあり、現在の人数が上限となっている。 運動習慣の普及のためにも、今後も健康増進事業として継続して実施していきたい。									



### 3 保険者努力支援制度

#### (1) 保険者努力支援制度の得点状況

国民健康保険の保険者努力支援制度は、保険者の取組状況に応じて交付金を交付する制度であり、計画に基づく保健事業の実施及び計画策定に係る費用の一部に対して助成がなされる。片品村においても、同制度を有効に活用しながら、より質の高い保健事業に取り組めるように計画の策定をすすめる。

令和5年度の得点状況（図表2-3-1-1）をみると、合計点数は516で、達成割合は54.9%となっており、全国順位は第1,121位となっている。

項目別にみると、いずれの項目もプラスとなっている一方、国平均と比較して「生活習慣病の発症予防・重症化予防」「個人インセンティブ・情報提供」「重複多剤」「収納率」「地域包括ケア・一体的実施」「第三者求償」「適正化かつ健全な事業運営」の得点が低く、県平均と比較して「生活習慣病の発症予防・重症化予防」「個人インセンティブ・情報提供」「重複多剤」「収納率」「地域包括ケア・一体的実施」「第三者求償」「適正化かつ健全な事業運営」の得点が低い。

図表2-3-1-1：保険者努力支援制度の得点状況

		令和 1年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和5年度		
						片品村	国平均	県平均
点数	総点数（満点）	880点	995点	1000点	960点	940点		
	合計点数	543	578	439	567	516	556	542
	達成割合	61.7%	58.1%	43.9%	59.1%	54.9%	59.1%	57.7%
	全国順位	657	725	1,452	851	1,121	-	-
共通	①特定健診・特定保健指導・メタボ	95	65	10	135	135	54	38
	②がん検診・歯科健診	55	35	50	70	75	40	40
	③生活習慣病の発症予防・重症化予防	100	120	50	65	45	84	76
	④個人インセンティブ・情報提供	20	20	10	15	15	50	49
	⑤重複多剤	0	50	40	20	20	42	37
	⑥後発医薬品促進の取組・使用割合	105	50	110	125	90	62	78
国保	①収納率	45	60	5	5	5	52	50
	②データヘルス計画	34	40	40	30	25	23	21
	③医療費通知	25	25	25	20	15	15	15
	④地域包括ケア・一体的実施	10	20	0	0	0	26	27
	⑤第三者求償	24	27	27	29	36	40	41
	⑥適正化かつ健全な事業運営	30	66	72	53	55	69	69

【出典】厚生労働省 国民健康保険制度の保険者努力支援制度の集計結果について

### 第3章 健康・医療情報等の分析と分析結果に基づく健康課題の抽出

第3章においては、死亡、介護、医療、健診などの関連データを分析し、地域における健康課題を抽出する。

社会全体の健康や病気の進行は、しばしば、川の流れに例えられる。厚生労働省は、生活習慣病の進行を川の上流から下流まで5段階に分け、レベルが進むごとに下流に流され、流された先には生活機能の低下や要介護状態が待っていることを図で示している。

第3章では、より多くの方が川の上流で健やかに生活できるよう課題を抽出し、施策の検討につなげるため、川のどの位置にどのくらいの方がいて、どのような疾病構造になっているか等について、死亡、介護、医療、健診の順に川の下流から上流に向かって関連データを分析する。また、データ分析に際しては、保健事業における介入によって予防可能な疾患という観点から生活習慣病に着目し、川の下流に位置する重篤な疾患として主に国民健康保険法に基づく保健事業の実施等に関する指針にもあげられている「虚血性心疾患」「脳血管疾患」「慢性腎臓病（透析あり）」に、川の上流に位置する基礎疾患として「糖尿病」「高血圧症」「脂質異常症」に焦点をあてる。

まず、第1節では死亡に関するデータを分析する。

第2節では介護に関するデータを分析する。

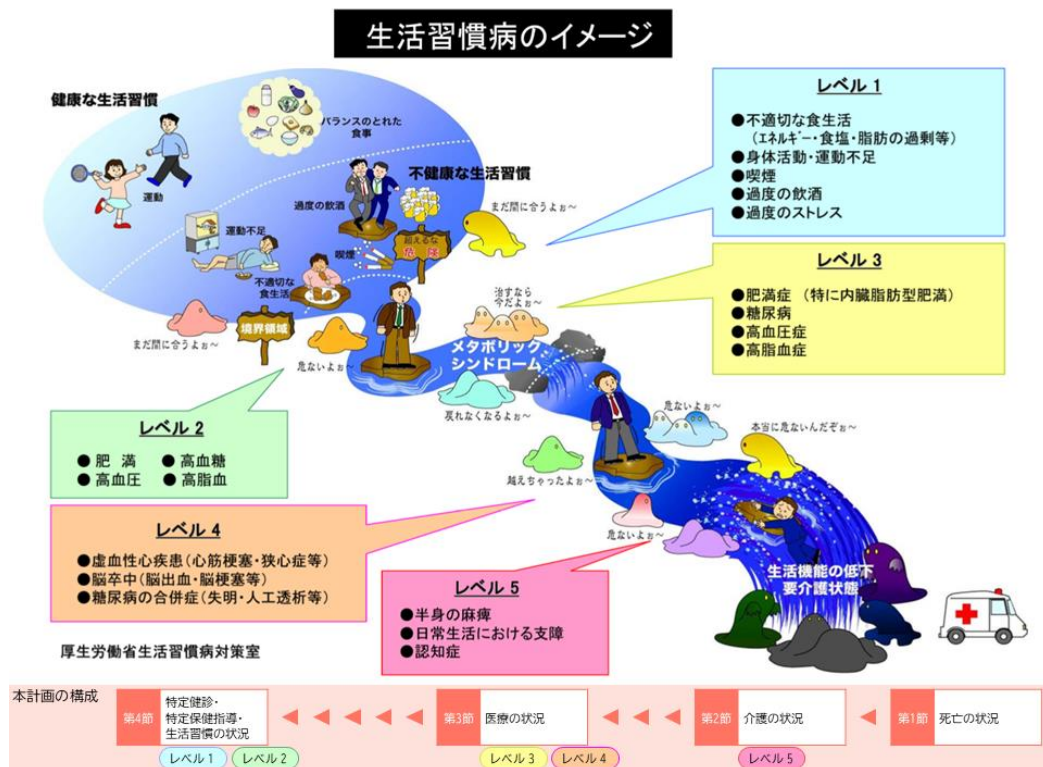
第3節では入院と外来に分けて医療費について医療費の3要素に分解して分析した後、保健事業により予防可能な疾患における健康課題を抽出するという観点で、生活習慣病に焦点をあて、前述の重篤な疾患と基礎疾患に分けてデータを分析する。

第4節では、さらに上流に遡り、特定健診や特定保健指導に関するデータと医療に関するデータを組み合わせて分析する。

第5節では、後期高齢者医療制度との接続を踏まえ、介護データと後期高齢者データを分析する。

第6節では、重複服薬や多剤服薬、後発医薬品などの分析を行う。

これを踏まえ、第7節において、地域における健康課題の全体像を整理した後、生活習慣病に関する健康課題とその他の健康課題について長期的評価指標及び短期的評価指標を設定する。



【出典】厚生労働省 新たな健診・保健指導と生活習慣病対策 一部改変

※生活習慣病とは、「食習慣、運動習慣、休養、喫煙、飲酒等の生活習慣が、その発症と進行に関与する疾患群」を指す

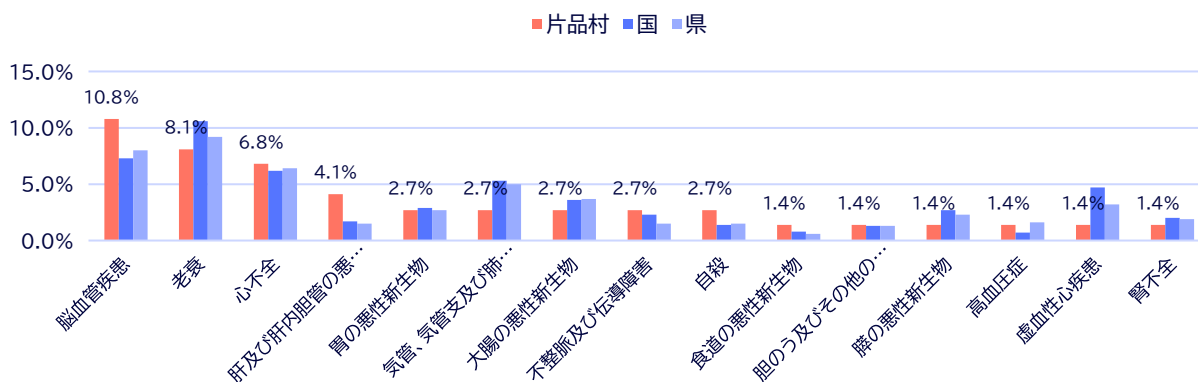
# 1 死亡の状況

## (1) 死因別の死亡者数・割合

まず、死亡の状況について概観する。令和3年の人口動態調査から、国保被保険者以外も含む全住民の死因別の死亡者数を死因順位別にみると（図表3-1-1-1）、死因第1位は「脳血管疾患」で全死亡者の10.8%を占めている。次いで「老衰」（8.1%）、「心不全」（6.8%）となっている。死亡者数の多い上位15死因について、全死亡者に占める死因別の死亡者数の割合を国や県と比較すると、「脳血管疾患」「心不全」「肝及び肝内胆管の悪性新生物」「不整脈及び伝導障害」「自殺」「食道の悪性新生物」「胆のう及びその他の胆道の悪性新生物」の割合が高い。

保健事業により予防可能な疾患における健康課題を抽出するという観点で、生活習慣病の重篤な疾患に焦点をあてて死因別の順位と割合をみると、「脳血管疾患」は第1位（10.8%）、「虚血性心疾患」は第10位（1.4%）、「腎不全」は第10位（1.4%）で死因の上位に位置している。

図表3-1-1-1：死因別の死亡者数・割合



順位	死因	片品村		国	県
		死亡者数 (人)	割合		
1位	脳血管疾患	8	10.8%	7.3%	8.0%
2位	老衰	6	8.1%	10.6%	9.2%
3位	心不全	5	6.8%	6.2%	6.4%
4位	肝及び肝内胆管の悪性新生物	3	4.1%	1.7%	1.5%
5位	胃の悪性新生物	2	2.7%	2.9%	2.7%
5位	気管、気管支及び肺の悪性新生物	2	2.7%	5.3%	5.0%
5位	大腸の悪性新生物	2	2.7%	3.6%	3.7%
5位	不整脈及び伝導障害	2	2.7%	2.3%	1.5%
5位	自殺	2	2.7%	1.4%	1.5%
10位	食道の悪性新生物	1	1.4%	0.8%	0.6%
10位	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物	1	1.4%	1.3%	1.3%
10位	膵の悪性新生物	1	1.4%	2.7%	2.3%
10位	高血圧症	1	1.4%	0.7%	1.6%
10位	虚血性心疾患	1	1.4%	4.7%	3.2%
10位	腎不全	1	1.4%	2.0%	1.9%
-	その他	36	48.6%	46.5%	49.6%
-	死亡総数	74	-	-	-

【出典】厚生労働省 人口動態調査 令和3年

## (2) 死因別の標準化死亡比 (SMR)

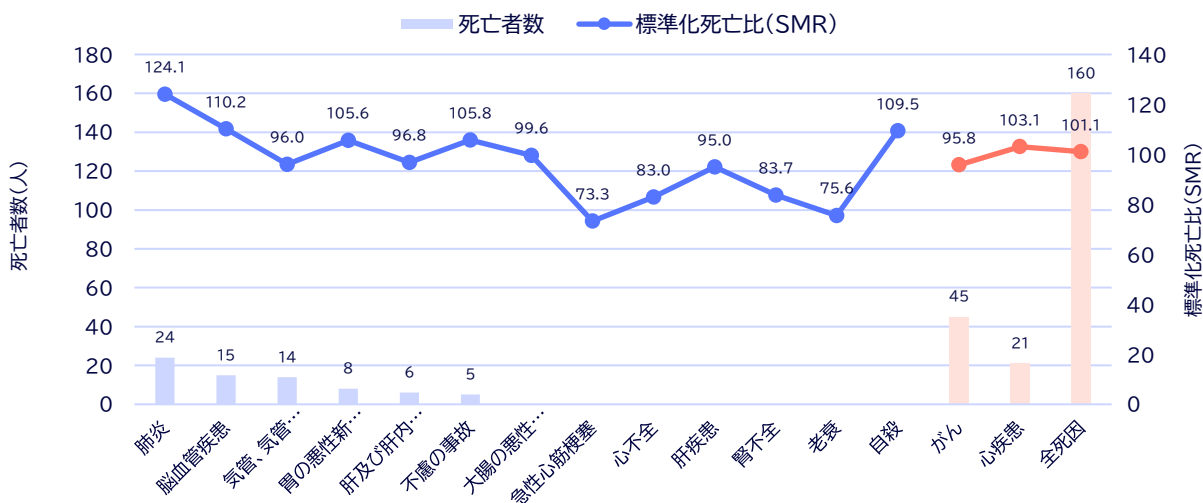
平成25年から平成29年までの累積疾病別死亡者数（図表3-1-2-1・図表3-1-2-2）をみると、男性の死因第1位は「肺炎」、第2位は「脳血管疾患」、第3位は「気管、気管支及び肺の悪性新生物」となっている。女性の死因第1位は「肺炎」、第2位は「不慮の事故」、第3位は「脳血管疾患」となっている。

国・県と死亡状況を比較するため年齢調整を行った標準化死亡比（SMR）を求めると、男性では、「肺炎」（124.1）「脳血管疾患」（110.2）「不慮の事故」（105.8）が高くなっている。女性では、「不慮の事故」（176.0）「肺炎」（128.0）「胃の悪性新生物」（110.5）が高くなっている。

保健事業により予防可能な疾患に焦点をあててSMRをみると、男性では「急性心筋梗塞」は73.3、「脳血管疾患」は110.2、「腎不全」は83.7となっており、女性では「急性心筋梗塞」は74.1、「脳血管疾患」は106.9、「腎不全」は77.9となっている。

※標準化死亡比（SMR）：基準死亡率（人口10万対の死亡者数）を対象地域に当てはめた場合に、計算により求められる期待される死亡者数と実際に観察された死亡者数を比較するものである。国の平均を100としており、標準化死亡比が100以上の場合は国の平均より死亡率が高いと判断され、100以下の場合は死亡率が低いと判断される

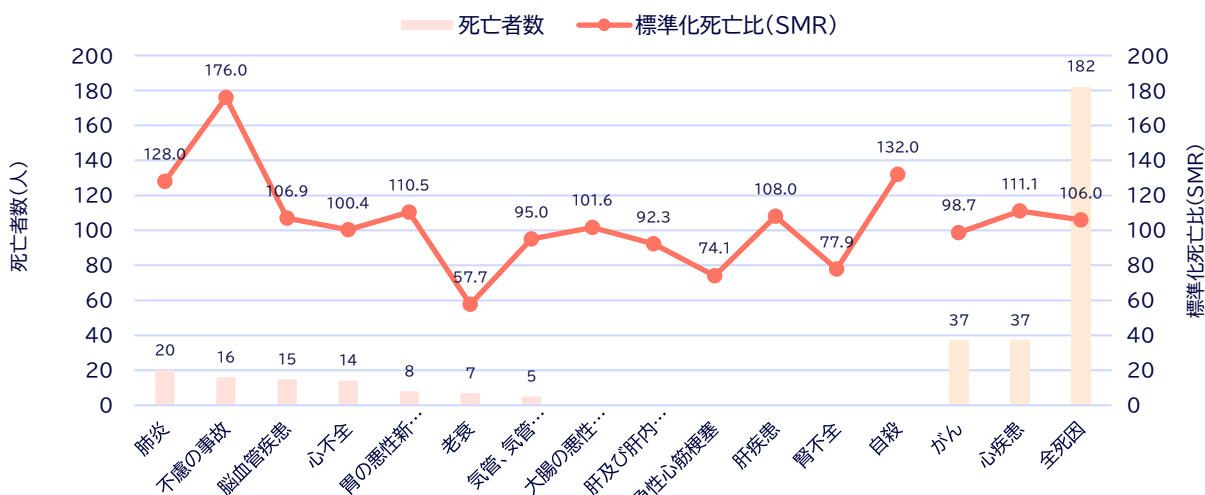
図表3-1-2-1：平成25年から平成29年までの死因別の死亡者数とSMR\_男性



順位	死因	死亡者数 (人)	標準化死亡比 (SMR)		
			片品村	県	国
1位	肺炎	24	124.1	110.6	100
2位	脳血管疾患	15	110.2	109.5	
3位	気管、気管支及び肺の悪性新生物	14	96.0	94.6	
4位	胃の悪性新生物	8	105.6	105.0	
5位	肝及び肝内胆管の悪性新生物	6	96.8	91.0	
6位	不慮の事故	5	105.8	107.6	
-	大腸の悪性新生物	-	99.6	106.2	
-	急性心筋梗塞	-	73.3	77.1	

順位	死因	死亡者数 (人)	標準化死亡比 (SMR)		
			片品村	県	国
-	心不全	-	83.0	90.0	100
-	肝疾患	-	95.0	89.7	
-	腎不全	-	83.7	98.0	
-	老衰	-	75.6	89.6	
-	自殺	-	109.5	110.6	
参考	がん	45	95.8	97.8	
参考	心疾患	21	103.1	106.8	
参考	全死因	160	101.1	102.2	

図表3-1-2-2：平成25年から平成29年までの死因別の死亡者数とSMR\_女性



順位	死因	死亡者数 (人)	標準化死亡比 (SMR)		
			片品村	県	国
1位	肺炎	20	128.0	118.1	100
2位	不慮の事故	16	176.0	111.9	
3位	脳血管疾患	15	106.9	110.1	
4位	心不全	14	100.4	96.7	
5位	胃の悪性新生物	8	110.5	101.1	
6位	老衰	7	57.7	94.5	
7位	気管、気管支及び肺の悪性新生物	5	95.0	94.8	
-	大腸の悪性新生物	-	101.6	105.6	
-	肝及び肝内胆管の悪性新生物	-	92.3	94.5	100
-	急性心筋梗塞	-	74.1	80.5	
-	肝疾患	-	108.0	111.3	
-	腎不全	-	77.9	86.6	
-	自殺	-	132.0	121.3	
参考	がん	37	98.7	98.4	
参考	心疾患	37	111.1	103.6	
参考	全死因	182	106.0	102.9	

【出典】厚生労働省 平成25～29年 人口動態保健所・市区町村別統計

※死亡者数が5人未満の場合、人数が公開されないため、空欄になる

※SMRの算出に際してはバイズ推定の手法が適用されている

※「がん」は、表内の「がん」を含むICD-10死因简单分類における「悪性新生物」による死亡者数の合計

※「心疾患」は、表内の「急性心筋梗塞」「心不全」を含むICD-10死因简单分類における「心疾患」による死亡者数の合計

## 2 介護の状況

### (1) 要介護（要支援）認定者数・割合

次に介護の状況について概観する。要介護または要支援の認定を受けた人の数・割合（図表3-2-1-1）をみると、令和4年度の認定者数は352人（要支援1-2、要介護1-2、及び要介護3-5の合計）で、「要介護3-5」の人数が最も多くなっている。

第1号被保険者における要介護認定率は20.5%で、国・県より高い。第1号被保険者のうち65-74歳の前期高齢者の要介護認定率は3.3%、75歳以上の後期高齢者では36.4%となっている。

第2号被保険者における要介護認定率は0.3%となっており、国・県より低い。

図表3-2-1-1：令和4年度における要介護（要支援）認定区分別の認定者数・割合

	被保険者数 (人)	要支援1-2		要介護1-2		要介護3-5		片品村 認定率	国 認定率	県 認定率
		認定者数(人)	認定率	認定者数(人)	認定率	認定者数(人)	認定率			
1号										
65-74歳	813	12	1.5%	8	1.0%	7	0.9%	3.3%	-	-
75歳以上	882	81	9.2%	104	11.8%	136	15.4%	36.4%	-	-
計	1,695	93	5.5%	112	6.6%	143	8.4%	20.5%	18.7%	17.8%
2号										
40-64歳	1,296	2	0.2%	1	0.1%	1	0.1%	0.3%	0.4%	0.4%
総計	2,991	95	3.2%	113	3.8%	144	4.8%	-	-	-

【出典】住民基本台帳 令和4年度

KDB帳票 S21\_001-地域の全体像の把握 令和4年度 累計

KDB帳票 S24\_001-要介護（支援）者認定状況 令和4年度 累計

※認定率は、KDB帳票における年度毎の介護認定者数を住民基本台帳における年毎の人口で割って算出している

### (2) 介護給付費

介護レセプト一件当たりの介護給付費（図表3-2-2-1）をみると、居宅サービス・施設サービスいずれの給付費も国・県より多くなっている。

図表3-2-2-1：介護レセプト一件当たりの介護給付費

	片品村	国	県	同規模
計_一件当たり給付費(円)	80,646	59,662	66,393	80,543
(居宅) 一件当たり給付費(円)	46,509	41,272	44,770	42,864
(施設) 一件当たり給付費(円)	306,890	296,364	291,622	288,059

【出典】KDB帳票 S25\_004-医療・介護の突合の経年比較 令和4年度 年次



### (3) 要介護・要支援認定者の有病状況

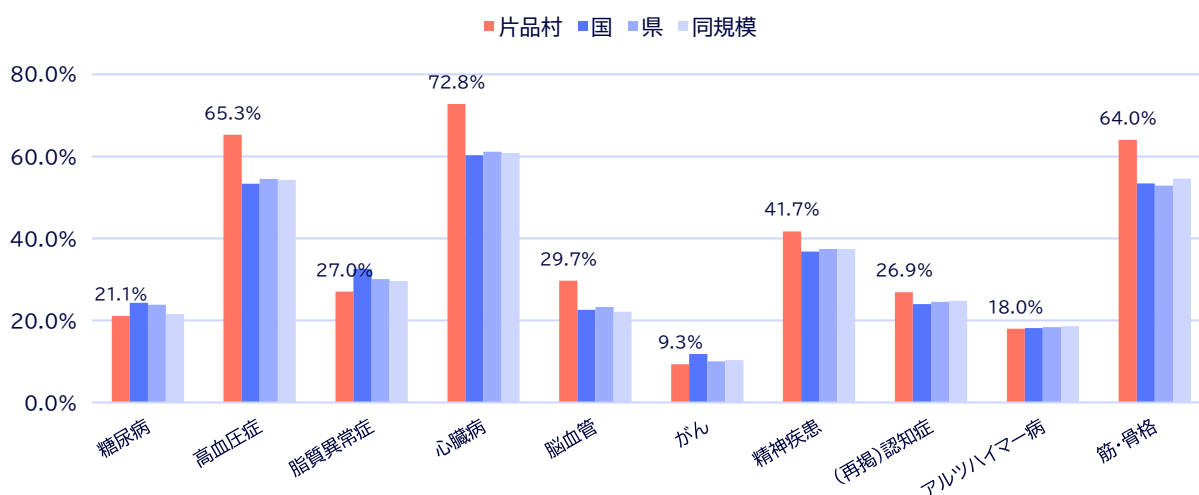
要介護または要支援の認定を受けた人の有病割合（図表3-2-3-1）をみると、「心臓病」（72.8%）が最も高く、次いで「高血圧症」（65.3%）、「筋・骨格関連疾患」（64.0%）となっている。

国と比較すると、「高血圧症」「心臓病」「脳血管疾患」「精神疾患」「認知症」「筋・骨格関連疾患」の有病割合が高い。

県と比較すると、「高血圧症」「心臓病」「脳血管疾患」「精神疾患」「認知症」「筋・骨格関連疾患」の有病割合が高い。

保健事業により予防可能な疾患に焦点をあて、介護認定者における重篤な疾患の有病割合をみると、「心臓病」は72.8%、「脳血管疾患」は29.7%となっている。また、重篤な疾患に進行する可能性のある基礎疾患の有病割合をみると、「糖尿病」は21.1%、「高血圧症」は65.3%、「脂質異常症」は27.0%となっている。

図表3-2-3-1：要介護・要支援認定者の有病状況



疾病名	要介護・要支援認定者（1・2号被保険者）		国	県	同規模
	該当者数（人）	割合			
糖尿病	77	21.1%	24.3%	23.8%	21.6%
高血圧症	231	65.3%	53.3%	54.5%	54.3%
脂質異常症	95	27.0%	32.6%	30.1%	29.6%
心臓病	257	72.8%	60.3%	61.1%	60.8%
脳血管疾患	102	29.7%	22.6%	23.3%	22.1%
がん	32	9.3%	11.8%	10.0%	10.3%
精神疾患	150	41.7%	36.8%	37.4%	37.4%
うち_認知症	96	26.9%	24.0%	24.5%	24.8%
アルツハイマー病	61	18.0%	18.1%	18.4%	18.6%
筋・骨格関連疾患	218	64.0%	53.4%	52.9%	54.6%

【出典】 KDB帳票 S21\_001-地域の全体像の把握 令和4年度 累計

### 3 医療の状況

#### (1) 医療費の3要素

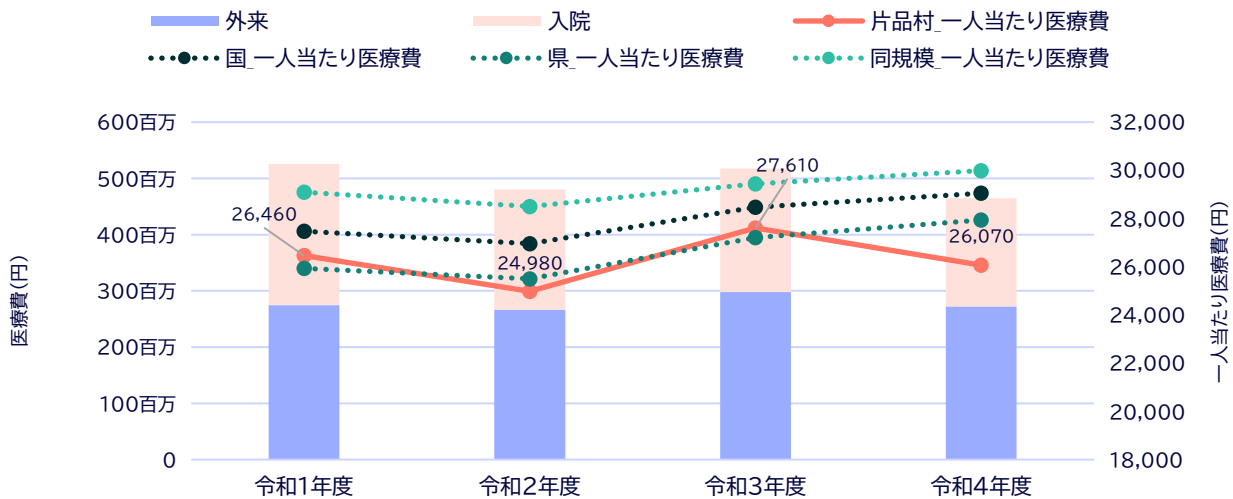
##### ① 総医療費及び一人当たり医療費の推移

ここからは、医療の状況について概観する。令和4年度の総医療費は4億6,400万円で（図表3-3-1-1）、令和1年度と比較して11.6%減少している。令和4年度の総医療費に占める入院医療費の割合は41.4%、外来医療費の割合は58.6%となっている。

令和4年度の1か月当たりの一人当たり医療費は26,070円で、令和1年度と比較して1.5%減少している。国や県と比較すると一人当たり医療費は国・県より低い。

医療費を集団や経年で比較する際には、総医療費を加入者数で割った一人当たり医療費が用いられる。一人当たり医療費は、受診率、レセプト一件当たり日数、及び一日当たり医療費を乗じて算出できることから、次頁以降は、一人当たり医療費をこれらの3要素に分解して分析する。

図表3-3-1-1：総医療費・一人当たりの医療費



		令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	割合	令和1年度からの変化率 (%)
医療費 (円)	総額	525,714,560	480,363,550	517,499,200	464,486,810	-	-11.6
	入院	251,129,880	213,635,380	219,815,090	192,291,670	41.4%	-23.4
	外来	274,584,680	266,728,170	297,684,110	272,195,140	58.6%	-0.9
一人当たり月額医療費 (円)	片品村	26,460	24,980	27,610	26,070	-	-1.5
	国	27,470	26,960	28,470	29,050	-	5.8
	県	25,940	25,500	27,210	27,940	-	7.7
	同規模	29,090	28,500	29,440	29,990	-	3.1

【出典】 KDB帳票 S21\_001-地域の全体像の把握 令和1年度から令和4年度 累計

※一人当たり医療費は、月平均を算出



## ② 入院外来別医療費の3要素

前頁の一人当たり月額医療費を入院別及び外来別に国や県と比較する。

令和4年度の一人当たり月額医療費（図表3-3-1-2）は、入院が10,790円で、国の一人当たり月額医療費11,650円と比較すると860円少ない。これは一件当たり日数が国の値を下回っているためである。県の一人当たり月額医療費11,540円と比較すると750円少ない。これは一件当たり日数が県の値を下回っているためである。

外来の一人当たり月額医療費は15,280円で、国の一人当たり月額医療費17,400円と比較すると2,120円少ない。これは受診率、一件当たり日数が国の値を下回っているためである。県の一人当たり月額医療費16,400円と比較すると1,120円少なくなっており、これは受診率、一件当たり日数が県の値を下回っているためである。

図表3-3-1-2：入院外来別医療費の3要素

入院	片品村	国	県	同規模
一人当たり月額医療費（円）	10,790	11,650	11,540	13,460
受診率（件/千人）	19.4	18.8	19.2	22.9
一件当たり日数（日）	12.5	16.0	16.5	16.2
一日当たり医療費（円）	44,660	38,730	36,430	36,390

外来	片品村	国	県	同規模
一人当たり月額医療費（円）	15,280	17,400	16,400	16,530
受診率（件/千人）	664.4	709.6	710.1	653.6
一件当たり日数（日）	1.3	1.5	1.5	1.4
一日当たり医療費（円）	17,140	16,500	15,850	18,540

【出典】KDB帳票 S21\_001-地域の全体像の把握 令和4年度 累計

- ※一人当たり医療費は、月平均を算出
- ※受診率：被保険者千人当たりのレセプト件数
- ※一件当たり日数：受診した日数/レセプト件数
- ※一日当たり医療費：総医療費/受診した日数

## (2) 疾病分類別入院医療費及び受診率

### ① 疾病分類（大分類）別入院医療費

入院医療費について疾病19分類（大分類）別の構成をみる（図表3-3-2-1）。統計の制約上、医療費の3要素のうち、一日当たり医療費及び一件当たり日数が把握できないため、レセプト一件当たり医療費で代替する。なお、一枚のレセプトに複数の傷病名がある場合は、最も点数が高い疾病で集計している。

入院医療費が最も高い疾病は「新生物」で、年間医療費は4,900万円、入院総医療費に占める割合は25.3%である。次いで高いのは「循環器系の疾患」で3,200万円（16.4%）であり、これらの疾病で入院総医療費の41.7%を占めている。

保健事業により予防可能な疾患についてみると、「循環器系の疾患」の受診率及びレセプト一件当たり医療費は、いずれも他の疾病と比較して高い傾向にあり、「循環器系の疾患」の入院医療費が高額な原因となっている。

図表3-3-2-1：疾病分類（大分類）別入院医療費（男女合計）

順位	疾病分類（大分類）	医療費（円）	割合		受診率	割合（受診率）	レセプト一件当たり医療費（円）
			一人当たり医療費（円）				
1位	新生物	48,664,790	32,771	25.3%	45.8	19.7%	715,659
2位	循環器系の疾患	31,628,310	21,299	16.4%	26.3	11.3%	810,982
3位	神経系の疾患	21,375,980	14,395	11.1%	26.3	11.3%	548,102
4位	筋骨格系及び結合組織の疾患	16,000,340	10,775	8.3%	13.5	5.8%	800,017
5位	精神及び行動の障害	13,403,230	9,026	7.0%	24.2	10.4%	372,312
6位	消化器系の疾患	11,770,260	7,926	6.1%	24.9	10.7%	318,115
7位	尿路性器系の疾患	11,126,870	7,493	5.8%	14.1	6.1%	529,851
8位	損傷、中毒及びその他の外因の影響	9,802,440	6,601	5.1%	13.5	5.8%	490,122
9位	呼吸器系の疾患	4,679,480	3,151	2.4%	6.1	2.6%	519,942
10位	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	4,627,570	3,116	2.4%	4.0	1.7%	771,262
11位	周産期に発生した病態	3,128,120	2,106	1.6%	1.3	0.6%	1,564,060
12位	妊娠、分娩及び産じょく	3,105,680	2,091	1.6%	3.4	1.4%	621,136
13位	皮膚及び皮下組織の疾患	2,518,740	1,696	1.3%	2.7	1.2%	629,685
14位	眼及び付属器の疾患	2,281,430	1,536	1.2%	6.1	2.6%	253,492
15位	感染症及び寄生虫症	1,873,550	1,262	1.0%	2.0	0.9%	624,517
16位	症状、徴候及び異常臨床検査所見で他に分類されないもの	1,651,210	1,112	0.9%	1.3	0.6%	825,605
17位	内分泌、栄養及び代謝疾患	1,242,290	837	0.6%	3.4	1.4%	248,458
18位	耳及び乳様突起の疾患	810,870	546	0.4%	1.3	0.6%	405,435
19位	先天奇形、変形及び染色体異常	0	0	0.0%	0.0	0.0%	0
-	その他	2,600,510	1,751	1.4%	12.1	5.2%	144,473
-	総計	192,291,670	-	-	-	-	-

【出典】KDB帳票 S23\_003-疾病別医療費分析（大分類）令和4年度 累計

※疾病分類別の一人当たり医療費は、該当疾病分類における年間の医療費を各年度の各月毎の被保険者数から算出する年間平均被保険者数で割ったものである（以下同様）

※KDBシステムにて設定されている疾病分類（大分類）区分のうち、特殊目的用コード、傷病及び死亡の外因、健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用、その他（上記以外のもの）を「その他」にまとめている

## ② 疾病分類（中分類）別入院医療費

入院医療費を疾病中分類別にみると（図表3-3-2-2）、「結腸の悪性新生物」の医療費が最も高く1,900万円で、9.8%を占めている。

循環器系疾患の入院医療費をみると、「その他の脳血管疾患」が8位（3.8%）、「その他の循環器系の疾患」が16位（1.9%）、「虚血性心疾患」が17位（1.8%）となっている。

これらの上位20疾病で、入院総医療費の75.0%を占めている。

図表3-3-2-2：疾病分類（中分類）別\_入院医療費\_上位20疾病（男女合計）

順位	疾病分類（中分類）	医療費（円）						レセプト 一件当たり 医療費（円）
			一人当たり 医療費（円）	割合	受診率	割合 （受診率）		
1位	結腸の悪性新生物	18,789,260	12,653	9.8%	16.8	7.2%	751,570	
2位	その他の悪性新生物	14,938,190	10,059	7.8%	14.8	6.4%	679,009	
3位	その他の心疾患	13,142,610	8,850	6.8%	12.1	5.2%	730,145	
4位	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	11,319,550	7,623	5.9%	20.2	8.7%	377,318	
5位	関節症	8,856,550	5,964	4.6%	4.0	1.7%	1,476,092	
6位	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	8,191,260	5,516	4.3%	8.1	3.5%	682,605	
7位	その他の神経系の疾患	7,419,490	4,996	3.9%	8.8	3.8%	570,730	
8位	その他の脳血管疾患	7,297,490	4,914	3.8%	3.4	1.4%	1,459,498	
9位	その他の消化器系の疾患	6,845,210	4,610	3.6%	17.5	7.5%	263,277	
10位	腎不全	6,829,290	4,599	3.6%	4.7	2.0%	975,613	
11位	骨折	5,955,170	4,010	3.1%	6.7	2.9%	595,517	
12位	アルツハイマー病	4,902,900	3,302	2.5%	8.1	3.5%	408,575	
13位	気管、気管支及び肺の悪性新生物	4,402,170	2,964	2.3%	3.4	1.4%	880,434	
14位	その他の呼吸器系の疾患	4,319,590	2,909	2.2%	4.7	2.0%	617,084	
15位	脊椎障害（脊椎症を含む）	3,722,990	2,507	1.9%	2.0	0.9%	1,240,997	
16位	その他の循環器系の疾患	3,708,510	2,497	1.9%	2.0	0.9%	1,236,170	
17位	虚血性心疾患	3,463,260	2,332	1.8%	3.4	1.4%	692,652	
18位	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	3,420,700	2,304	1.8%	6.7	2.9%	342,070	
19位	その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	3,384,620	2,279	1.8%	2.0	0.9%	1,128,207	
20位	その他損傷及びその他外因の影響	3,343,340	2,251	1.7%	5.4	2.3%	417,918	

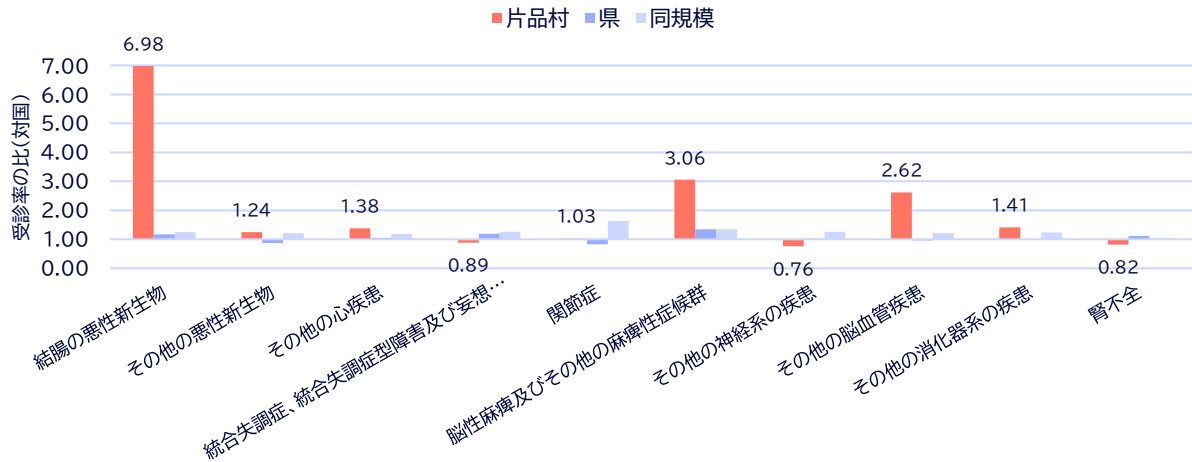
【出典】KDB帳票 S23\_004-疾病別医療費分析（中分類） 令和4年度 累計

### ③ 疾病分類（中分類）別入院受診率の比較

入院医療費が上位の疾病について、国と受診率を比較する（図表3-3-2-3）。国との比が1を超えているものは国よりも受診率が高い疾病、すなわち医療機関を受診している人が国平均よりも多い疾病である。国と比較して受診率が特に高い疾病は「結腸の悪性新生物」「アルツハイマー病」「脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群」である。

また、前述した循環器系疾患について受診率をみると、「その他の脳血管疾患」が国の2.6倍、「その他の循環器系の疾患」が国の1.1倍、「虚血性心疾患」が国の0.7倍となっている。

図表3-3-2-3：疾病分類（中分類）別入院受診率比較\_上位の疾病（男女合計）



順位	疾病分類（中分類）	受診率						
		片品村	国	県	同規模	国との比		
						片品村	県	同規模
1位	結腸の悪性新生物	16.8	2.4	2.8	3.0	6.98	1.17	1.25
2位	その他の悪性新生物	14.8	11.9	10.3	14.5	1.24	0.87	1.22
3位	その他の心疾患	12.1	8.8	9.2	10.4	1.38	1.05	1.19
4位	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	20.2	22.8	27.3	28.8	0.89	1.19	1.26
5位	関節症	4.0	3.9	3.2	6.4	1.03	0.83	1.63
6位	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	8.1	2.6	3.6	3.5	3.06	1.35	1.34
7位	その他の神経系の疾患	8.8	11.5	11.6	14.5	0.76	1.01	1.26
8位	その他の脳血管疾患	3.4	1.3	1.2	1.6	2.62	0.96	1.21
9位	その他の消化器系の疾患	17.5	12.4	12.4	15.4	1.41	1.00	1.24
10位	腎不全	4.7	5.8	6.4	6.1	0.82	1.11	1.05
11位	骨折	6.7	7.7	6.8	8.5	0.88	0.89	1.11
12位	アルツハイマー病	8.1	1.3	0.9	1.5	6.42	0.75	1.20
13位	気管、気管支及び肺の悪性新生物	3.4	3.9	3.8	5.7	0.86	0.96	1.44
14位	その他の呼吸器系の疾患	4.7	6.8	7.2	8.6	0.69	1.05	1.26
15位	脊椎障害（脊椎症を含む）	2.0	3.0	2.6	4.4	0.68	0.88	1.48
16位	その他の循環器系の疾患	2.0	1.9	2.0	2.2	1.08	1.06	1.20
17位	虚血性心疾患	3.4	4.7	5.8	5.3	0.72	1.24	1.14
18位	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	6.7	5.1	5.4	6.0	1.31	1.05	1.17
19位	その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	2.0	0.9	1.1	1.3	2.13	1.19	1.41
20位	その他損傷及びその他外因の影響	5.4	3.6	3.7	5.4	1.50	1.02	1.50

【出典】KDB帳票 S23\_004-疾病別医療費分析（中分類） 令和4年度 累計

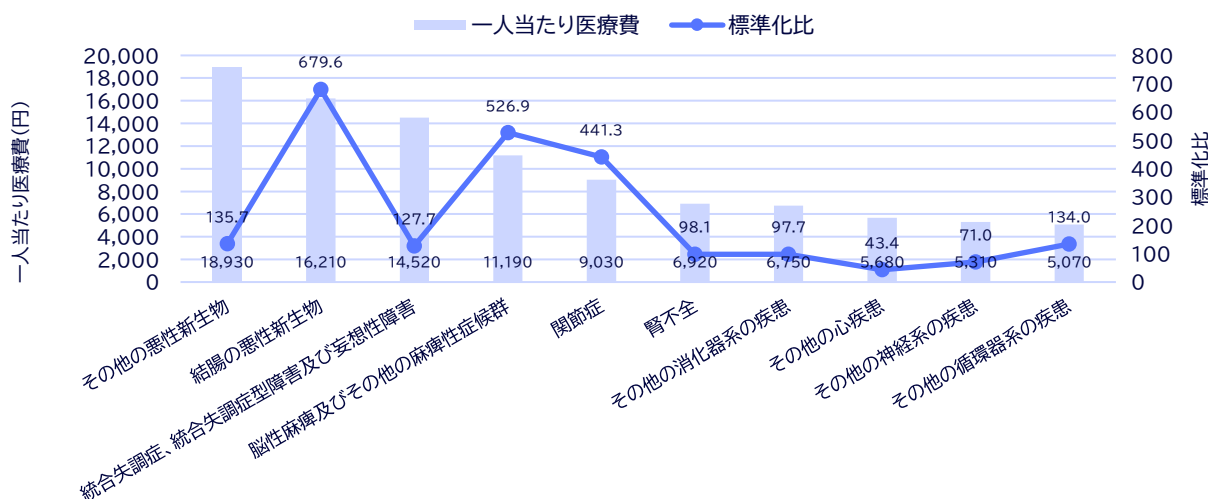
#### ④ 疾病分類（中分類）別入院に係る一人当たり医療費と標準化比

疾病別の入院医療費について、国の一人当たり医療費を100とした標準化比を国立保健医療科学院のツールを使って算出し、国と比較する。医療費の地域差要因としては人口構成、医療提供体制、健康意識、受診行動、生活習慣、診療パターンなどが指摘されているが、標準化比を算出することで、これらの要因のうち人口構成による影響を取り除いた上で一人当たり医療費を比較することが可能となる。

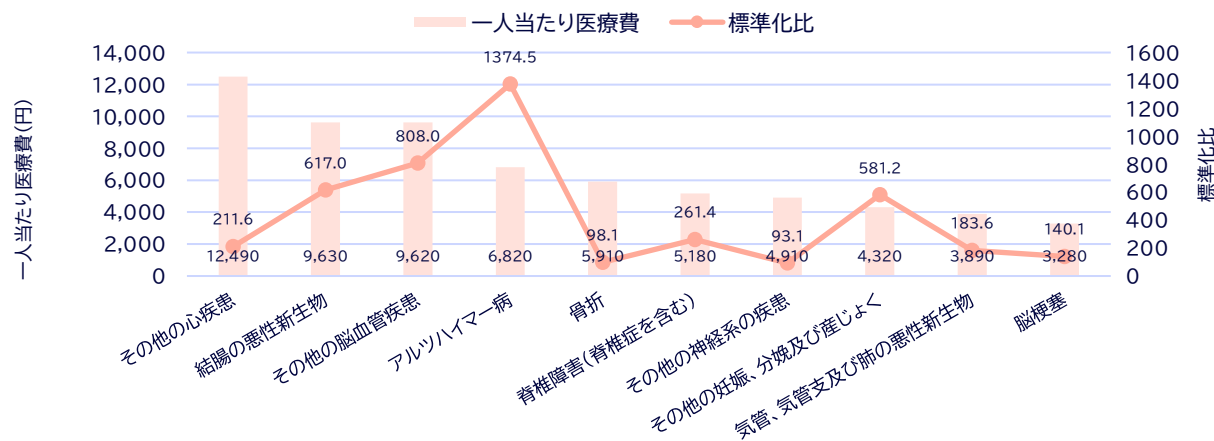
男性においては（図表3-3-2-4）、一人当たり入院医療費は「その他の悪性新生物」「結腸の悪性新生物」「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」の順に高く、標準化比は「結腸の悪性新生物」「脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群」「関節症」の順に高くなっている。また、循環器系疾患についてみると、「その他の循環器系の疾患」が第10位（標準化比134.0）となっている。

女性においては（図表3-3-2-5）、一人当たり入院医療費は「その他の心疾患」「結腸の悪性新生物」「その他の脳血管疾患」の順に高く、標準化比は「アルツハイマー病」「その他の脳血管疾患」「結腸の悪性新生物」の順に高くなっている。循環器系疾患についてみると、「その他の脳血管疾患」が第3位（標準化比808.0）、「脳梗塞」が第10位（標準化比140.1）となっている。

図表3-3-2-4：疾病分類（中分類）別\_入院医療費・標準化比\_一人当たり医療費上位10疾病\_男性



図表3-3-2-5：疾病分類（中分類）別\_入院医療費・標準化比\_一人当たり医療費上位10疾病\_女性



【出典】KDB帳票 S23\_004-疾病別医療費分析（中分類） 令和4年度 累計

### (3) 疾病分類別外来医療費及び受診率

#### ① 疾病分類（中分類）別外来医療費

入院医療費に続き外来医療費について、疾病別医療費、受診率、一人当たり医療費をみる。

疾病別の外来医療費をみると（図表3-3-3-1）、「糖尿病」の医療費が最も高く2,600万円で、外来総医療費の9.6%を占めている。受診率とレセプト一件当たり医療費をみると、受診率が他の疾病と比較して高く、「糖尿病」の外来医療費が高額な原因となっている。

次いで外来医療費が高いのは「腎不全」で2,400万円（8.8%）、「高血圧症」で1,700万円（6.2%）となっており、上位20疾病で外来総医療費の71.0%を占めている。

保健事業により予防可能な疾患という観点で重篤な疾患についてみると、「腎不全」が外来医療費の上位に入っている。

一方で、重篤な疾患に進行する可能性のある基礎疾患については、「糖尿病」「高血圧症」「脂質異常症」が外来医療費の上位に入っている。

図表3-3-3-1：疾病分類（中分類）別\_外来医療費\_上位20疾病（男女合計）

順位	疾病分類（中分類）	医療費（円）	割合				
			一人当たり医療費（円）	割合	受診率	割合（受診率）	レセプト一件当たり医療費（円）
1位	糖尿病	25,976,140	17,492	9.6%	698.3	8.8%	25,049
2位	腎不全	23,850,090	16,061	8.8%	71.4	0.9%	225,001
3位	高血圧症	16,750,060	11,280	6.2%	1162.3	14.6%	9,705
4位	その他の心疾患	13,122,710	8,837	4.9%	270.7	3.4%	32,644
5位	その他の悪性新生物	12,436,510	8,375	4.6%	72.1	0.9%	116,229
6位	その他の眼及び付属器の疾患	11,907,080	8,018	4.4%	368.4	4.6%	21,768
7位	その他の神経系の疾患	11,188,470	7,534	4.1%	344.1	4.3%	21,895
8位	その他の消化器系の疾患	10,296,070	6,933	3.8%	271.4	3.4%	25,549
9位	脂質異常症	10,215,700	6,879	3.8%	628.3	7.9%	10,949
10位	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	6,892,390	4,641	2.5%	77.4	1.0%	59,934
11位	白血病	6,813,050	4,588	2.5%	6.1	0.1%	757,006
12位	炎症性多発性関節障害	5,686,900	3,830	2.1%	62.0	0.8%	61,814
13位	乳房の悪性新生物	5,661,740	3,813	2.1%	53.9	0.7%	70,772
14位	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物	5,422,480	3,652	2.0%	16.8	0.2%	216,899
15位	気管、気管支及び肺の悪性新生物	5,243,560	3,531	1.9%	18.2	0.2%	194,206
16位	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	4,759,740	3,205	1.8%	78.1	1.0%	41,032
17位	骨の密度及び構造の障害	4,026,050	2,711	1.5%	105.1	1.3%	25,808
18位	胃の悪性新生物	4,025,630	2,711	1.5%	35.0	0.4%	77,416
19位	気分（感情）障害（躁うつ病を含む）	3,908,390	2,632	1.4%	156.2	2.0%	16,847
20位	症状、徴候及び異常臨床所見・異常、検査所見で他に分類されないもの	3,776,270	2,543	1.4%	138.7	1.7%	18,331

【出典】KDB帳票 S23\_004-疾病別医療費分析（中分類） 令和4年度 累計

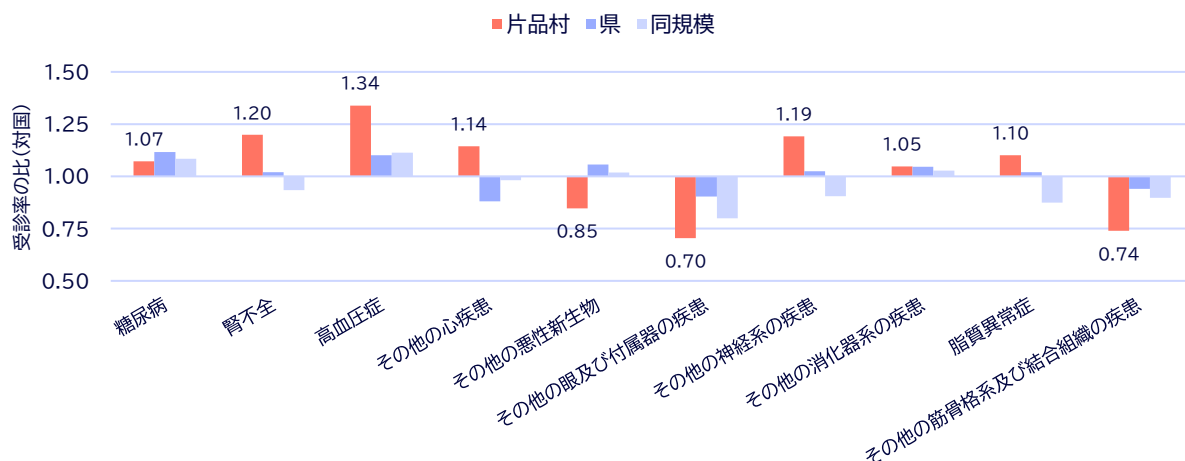


## ② 疾病分類（中分類）別外来受診率の比較

外来医療費が上位の疾病について、国と受診率を比較する（図表3-3-3-2）。国との比が1を超えているものは、国よりも受診率が高い疾病、すなわち医療機関を受診している人が国平均よりも多い疾病である。国と比較して受診率が特に高い疾病は「胃の悪性新生物」「直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物」「白血病」である。

重篤な疾患について国との受診率の比をみると、「腎不全」（1.2）となっている。基礎疾患については「糖尿病」（1.1）、「高血圧症」（1.3）、「脂質異常症」（1.1）となっている。

図表3-3-3-2：疾病分類（中分類）別 外来受診率比較\_上位の疾病（男女合計）



順位	疾病分類（中分類）	受診率						
		片品村	国	県	同規模	国との比		
						片品村	県	同規模
1位	糖尿病	698.3	651.2	727.5	705.8	1.07	1.12	1.08
2位	腎不全	71.4	59.5	60.8	55.6	1.20	1.02	0.93
3位	高血圧症	1162.3	868.1	955.5	966.2	1.34	1.10	1.11
4位	その他の心疾患	270.7	236.5	208.1	232.2	1.14	0.88	0.98
5位	その他の悪性新生物	72.1	85.0	89.8	86.6	0.85	1.06	1.02
6位	その他の眼及び付属器の疾患	368.4	522.7	472.2	417.5	0.70	0.90	0.80
7位	その他の神経系の疾患	344.1	288.9	296.1	261.6	1.19	1.02	0.91
8位	その他の消化器系の疾患	271.4	259.2	270.9	266.4	1.05	1.05	1.03
9位	脂質異常症	628.3	570.5	582.1	498.9	1.10	1.02	0.87
10位	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	77.4	104.7	98.5	93.9	0.74	0.94	0.90
11位	白血病	6.1	3.4	3.5	3.6	1.80	1.04	1.07
12位	炎症性多発性関節障害	62.0	100.5	104.9	97.4	0.62	1.04	0.97
13位	乳房の悪性新生物	53.9	44.6	39.7	36.1	1.21	0.89	0.81
14位	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物	16.8	9.3	9.5	9.1	1.81	1.03	0.98
15位	気管、気管支及び肺の悪性新生物	18.2	20.4	18.1	22.2	0.89	0.89	1.09
16位	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	78.1	132.0	136.3	131.8	0.59	1.03	1.00
17位	骨の密度及び構造の障害	105.1	171.3	159.0	123.6	0.61	0.93	0.72
18位	胃の悪性新生物	35.0	13.9	12.5	15.1	2.53	0.90	1.09
19位	気分（感情）障害（躁うつ病を含む）	156.2	223.8	218.4	152.5	0.70	0.98	0.68
20位	症状、徴候及び異常臨床所見・異常、検査所見で他に分類されないもの	138.7	136.9	148.5	134.1	1.01	1.09	0.98

【出典】KDB帳票 S23\_004-疾病別医療費分析（中分類） 令和4年度 累計

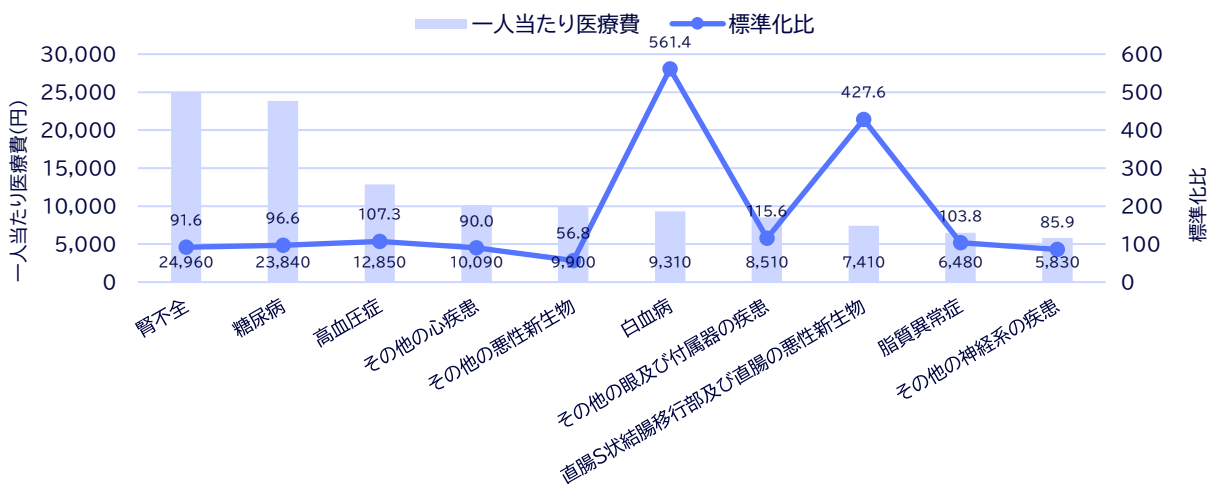
### ③ 疾病分類（中分類）別外来に係る一人当たり医療費と標準化比

疾病別の一人当たり外来医療費について、国の一人当たり医療費を100とした標準化比を求め、人口構成による影響を取り除いた上で国と比較する。

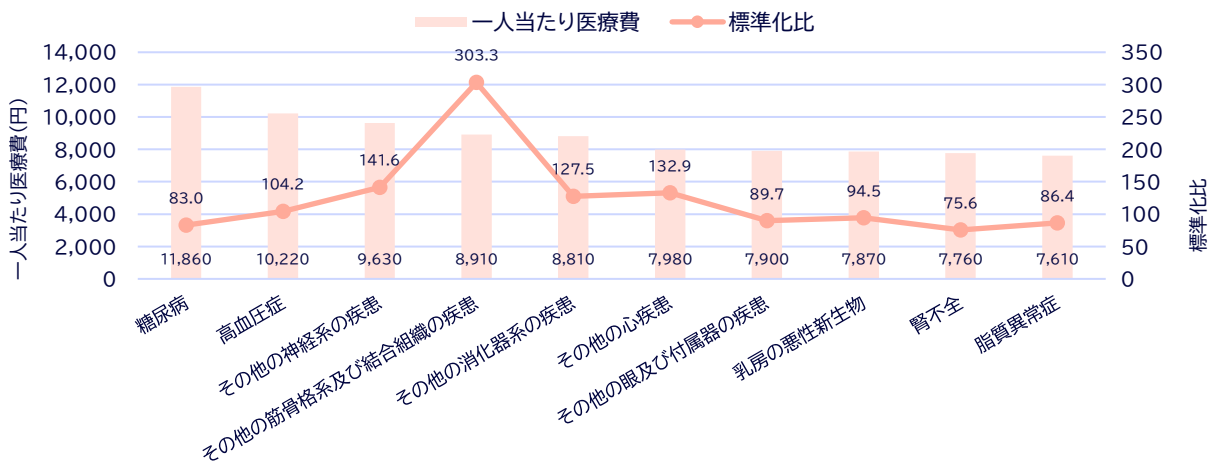
男性においては（図表3-3-3-3）、一人当たり外来医療費は「腎不全」「糖尿病」「高血圧症」の順に高く、標準化比は「白血病」「直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物」「その他の眼及び付属器の疾患」の順に高くなっている。重篤な疾患である「腎不全」は1位（標準化比91.6）、基礎疾患である「糖尿病」は2位（標準化比96.6）、「高血圧症」は3位（標準化比107.3）、「脂質異常症」は9位（標準化比103.8）となっている。

女性においては（図表3-3-3-4）、一人当たり外来医療費は「糖尿病」「高血圧症」「その他の神経系の疾患」の順に高く、標準化比は「その他の筋骨格系及び結合組織の疾患」「その他の神経系の疾患」「その他の心疾患」の順に高くなっている。重篤な疾患である「腎不全」は9位（標準化比75.6）、基礎疾患である「糖尿病」は1位（標準化比83.0）、「高血圧症」は2位（標準化比104.2）、「脂質異常症」は10位（標準化比86.4）となっている。

図表3-3-3-3：疾病分類（中分類）別\_外来医療費・標準化比\_一人当たり医療費上位10疾病\_男性



図表3-3-3-4：疾病分類（中分類）別\_外来医療費・標準化比\_一人当たり医療費上位10疾病\_女性



【出典】KDB帳票 S23\_004-疾病別医療費分析（中分類） 令和4年度 累計



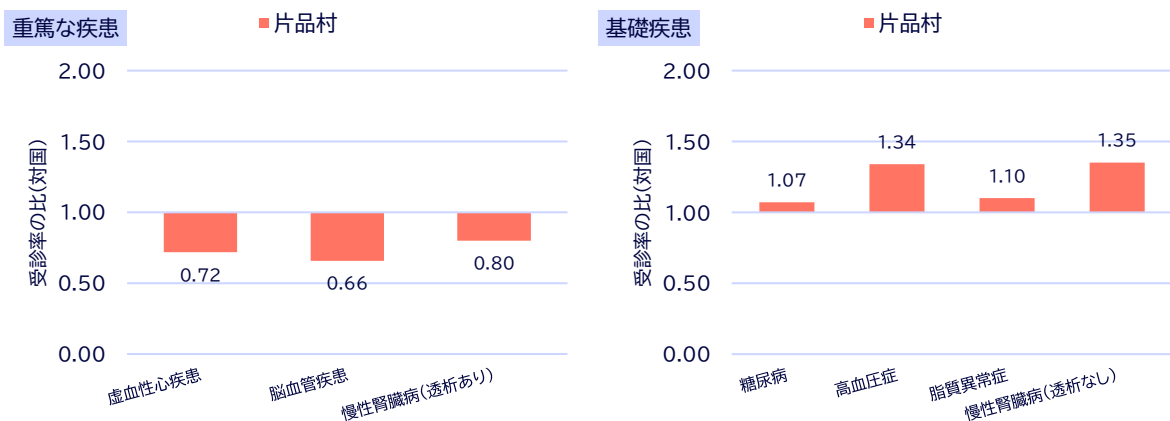
#### (4) 生活習慣病（重篤な疾患・基礎疾患）における受診率

##### ① 生活習慣病における重篤な疾患と基礎疾患の受診率

ここでは、保健事業により予防可能な疾患における健康課題を抽出するという観点で生活習慣病に焦点をあて、重篤な疾患、基礎疾患及び人工透析が必要になる前段階の「慢性腎臓病（透析なし）」に絞り、受診率や有病状況の推移について概観する。

国との比が1を超えている場合、その疾患における受診率は国より高い、すなわちその疾患において医療機関にかかっている人が国平均よりも多いことを意味している。国との比が1を下回る場合には、該当する人が国平均よりも少ないことを意味する。重篤な疾患の受診率をみると（図表3-3-4-1）、いずれも国より低い。基礎疾患及び「慢性腎臓病（透析なし）」の受診率は、いずれも国より高い。

図表3-3-4-1：生活習慣病における重篤な疾患と基礎疾患の受診率



重篤な疾患	受診率						
	片品村	国	県	同規模	国との比		
					片品村	県	同規模
虚血性心疾患	3.4	4.7	5.8	5.3	0.72	1.24	1.14
脳血管疾患	6.7	10.2	10.6	11.3	0.66	1.03	1.10
慢性腎臓病（透析あり）	24.2	30.3	30.9	22.7	0.80	1.02	0.75

基礎疾患及び 慢性腎臓病（透析なし）	受診率						
	片品村	国	県	同規模	国との比		
					片品村	県	同規模
糖尿病	698.3	651.2	727.5	705.8	1.07	1.12	1.08
高血圧症	1162.3	868.1	955.5	966.2	1.34	1.10	1.11
脂質異常症	628.3	570.5	582.1	498.9	1.10	1.02	0.87
慢性腎臓病（透析なし）	19.5	14.4	13.2	16.4	1.35	0.91	1.13

【出典】KDB帳票 S23\_004-疾病別医療費分析（中分類） 令和4年度 累計  
KDB帳票 S23\_005-疾病別医療費分析（細小（82）分類） 令和4年度 累計

※表内の脳血管疾患は、KDBシステムにて設定されている疾病分類（中分類）区分のうち「くも膜下出血」「脳内出血」「脳梗塞」「脳動脈硬化（症）」「その他の脳血管疾患」をまとめている  
※表内の「糖尿病」「高血圧症」「脂質異常症」は、KDBシステムにて設定されている疾病分類（中分類）区分を集計している  
※表内の「虚血性心疾患」「脳血管疾患」は入院、それ以外の疾病分類は外来を集計している

## ② 生活習慣病における重篤な疾患の受診率の推移

重篤な疾患における受診率の推移（図表3-3-4-2）をみると、令和4年度の「虚血性心疾患」の受診率は、令和1年度と比較して-19.0%で減少率は国・県より大きい。「脳血管疾患」の受診率は、令和1年度と比較して-26.4%で減少率は国より大きい。「慢性腎臓病（透析あり）」の受診率は、令和1年度と比較して-18.2%で国・県が増加している中、減少している。

図表3-3-4-2：生活習慣病における重篤な疾患の受診率

虚血性心疾患	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和1年度と令和4年度 の変化率 (%)
片品村	4.2	5.0	2.6	3.4	-19.0
国	5.7	5.0	5.0	4.7	-17.5
県	7.0	6.2	6.2	5.8	-17.1
同規模	6.2	5.6	4.9	5.3	-14.5

脳血管疾患	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和1年度と令和4年度 の変化率 (%)
片品村	9.1	11.9	9.0	6.7	-26.4
国	10.6	10.4	10.6	10.2	-3.8
県	10.4	9.9	10.4	10.6	1.9
同規模	11.8	11.3	11.5	11.3	-4.2

慢性腎臓病 (透析あり)	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和1年度と令和4年度 の変化率 (%)
片品村	29.6	29.3	23.7	24.2	-18.2
国	28.6	29.1	29.8	30.3	5.9
県	29.3	29.5	30.6	30.9	5.5
同規模	22.6	22.9	23.0	22.7	0.4

【出典】KDB帳票 S23\_004-疾病別医療費分析（中分類） 令和1年度から令和4年度 累計  
KDB帳票 S23\_005-疾病別医療費分析（細小（82）分類） 令和1年度から令和4年度 累計

※表内の「虚血性心疾患」と「脳血管疾患」は入院、「慢性腎臓病（透析あり）」は外来を集計している

## ③ 人工透析患者数の推移

人工透析患者数の推移（図表3-3-4-3）をみると、令和4年度の患者数は4人で、令和1年度の5人と比較して1人減少している。

令和4年度における新規の人工透析患者数は令和1年度と比較して増加しており、令和4年度においては男性3人、女性0人となっている。

図表3-3-4-3：人工透析患者数

		令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人工透析患者数	男性（人）	2	3	3	3
	女性（人）	3	2	1	1
	合計（人）	5	5	4	4
	男性_新規（人）	0	0	0	3
	女性_新規（人）	0	0	0	0

【出典】KDB帳票 S23\_001-医療費分析（1）細小分類 令和1年から令和5年 各月

※表内の「男性」「女性」「合計」は、各月の患者数から平均患者数を集計している

※表内の「男性\_新規」「女性\_新規」は、各年度内の新規の人工透析患者数を集計している

## (5) 生活習慣病の重篤な疾患患者における基礎疾患の有病状況

### ① 生活習慣病の重篤な疾患患者における基礎疾患の有病状況

生活習慣病の重篤な疾患患者において、基礎疾患のレセプトが同時に出ている人の割合をみる。令和4年度3月時点の「虚血性心疾患」の患者51人のうち（図表3-3-5-1）、「糖尿病」は43.1%、「高血圧症」は80.4%、「脂質異常症」は66.7%である。「脳血管疾患」の患者69人では、「糖尿病」は36.2%、「高血圧症」は81.2%、「脂質異常症」は62.3%となっている。人工透析の患者4人では、「糖尿病」は50.0%、「高血圧症」は100.0%、「脂質異常症」は50.0%となっている。

図表3-3-5-1：生活習慣病の重篤な疾患患者における基礎疾患の有病状況

	男性		女性		合計		
	人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合	
虚血性心疾患	34	-	17	-	51	-	
基礎疾患	糖尿病	18	52.9%	4	23.5%	22	43.1%
	高血圧症	28	82.4%	13	76.5%	41	80.4%
	脂質異常症	23	67.6%	11	64.7%	34	66.7%

	男性		女性		合計		
	人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合	
脳血管疾患	41	-	28	-	69	-	
基礎疾患	糖尿病	15	36.6%	10	35.7%	25	36.2%
	高血圧症	34	82.9%	22	78.6%	56	81.2%
	脂質異常症	26	63.4%	17	60.7%	43	62.3%

	男性		女性		合計		
	人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合	
人工透析	3	-	1	-	4	-	
基礎疾患	糖尿病	1	33.3%	1	100.0%	2	50.0%
	高血圧症	3	100.0%	1	100.0%	4	100.0%
	脂質異常症	1	33.3%	1	100.0%	2	50.0%

【出典】 KDB帳票 S21\_018-厚生労働省様式（様式3-5） 令和5年5月  
 KDB帳票 S21\_019-厚生労働省様式（様式3-6） 令和5年5月  
 KDB帳票 S21\_020-厚生労働省様式（様式3-7） 令和5年5月

### ② 基礎疾患の有病状況

また、令和4年度3月時点での被保険者における基礎疾患の有病者数及びその割合は（図表3-3-5-2）、「糖尿病」が169人（11.6%）、「高血圧症」が378人（26.1%）、「脂質異常症」が269人（18.5%）となっている。

図表3-3-5-2：基礎疾患の有病状況

	男性		女性		合計		
	人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合	
被保険者数	732	-	719	-	1,451	-	
基礎疾患	糖尿病	102	13.9%	67	9.3%	169	11.6%
	高血圧症	205	28.0%	173	24.1%	378	26.1%
	脂質異常症	132	18.0%	137	19.1%	269	18.5%

【出典】 KDB帳票 S21\_014-厚生労働省様式（様式3-1） 令和5年5月

## (6) 高額なレセプトの状況

医療費のうち、1か月当たり30万円以上のレセプト（以下、高額なレセプトという。）についてみる（図表3-3-6-1）。

令和4年度のレセプトのうち、高額なレセプトは2億3,500万円、347件で、総医療費の50.6%、総レセプト件数の2.8%を占めており、上位10疾病で高額なレセプトの56.6%を占めている。

保健事業により予防可能な疾患という観点で、重篤な疾患についてみると、「腎不全」が上位に入っている。

図表3-3-6-1：疾病分類（中分類）別\_1か月当たり30万円以上のレセプトの状況

	医療費（円）	総医療費に占める割合	レセプト件数（累計）（件）	レセプト件数に占める割合
令和4年度_総数	464,486,810	-	12,184	-
高額なレセプトの合計	234,949,800	50.6%	347	2.8%

内訳（上位の疾病）

順位	疾病分類（中分類）	医療費（円）	高額なレセプトの医療費に占める割合	件数（累計）（件）	高額なレセプトのレセプト件数に占める割合
1位	腎不全	28,299,990	12.0%	60	17.3%
2位	その他の悪性新生物	22,201,860	9.4%	35	10.1%
3位	結腸の悪性新生物	18,343,110	7.8%	23	6.6%
4位	その他の心疾患	12,042,340	5.1%	12	3.5%
5位	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	11,185,210	4.8%	29	8.4%
6位	気管、気管支及び肺の悪性新生物	8,893,860	3.8%	15	4.3%
7位	関節症	8,856,550	3.8%	6	1.7%
8位	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	8,191,260	3.5%	12	3.5%
9位	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	7,757,580	3.3%	10	2.9%
10位	白血病	7,352,130	3.1%	5	1.4%

【出典】KDB帳票 S21\_001-地域の全体像の把握 令和4年度 累計  
KDB帳票 S21\_011-厚生労働省様式（様式1-1） 令和4年6月から令和5年5月

## (7) 長期入院レセプトの状況

医療費のうち、6か月以上の入院患者のレセプト（以下、長期入院レセプトという。）についてみる（図表3-3-7-1）。

令和4年度のレセプトのうち、長期入院レセプトは3,000万円、60件で、総医療費の6.4%、総レセプト件数の0.5%を占めている。

保健事業により予防可能な疾患という観点で、重篤な疾患についてみると、いずれの疾患も上位には入っていない。

図表3-3-7-1：疾病分類（中分類）別\_6か月以上の入院レセプトの状況

	医療費（円）	総医療費に占める割合	レセプト件数（累計）（件）	レセプト件数に占める割合
令和4年度_総数	464,486,810	-	12,184	-
長期入院レセプトの合計	29,525,120	6.4%	60	0.5%

内訳（上位の疾病）

順位	疾病分類（中分類）	医療費（円）	長期入院レセプトの医療費に占める割合	件数（累計）（件）	長期入院レセプトのレセプト件数に占める割合
1位	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	9,229,670	31.3%	24	40.0%
2位	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	8,191,260	27.7%	12	20.0%
3位	アルツハイマー病	4,902,900	16.6%	12	20.0%
4位	その他の神経系の疾患	2,588,140	8.8%	4	6.7%
5位	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	1,899,610	6.4%	3	5.0%
6位	その他の消化器系の疾患	1,886,770	6.4%	3	5.0%
7位	皮膚炎及び湿疹	619,130	2.1%	1	1.7%
8位	結膜炎	207,640	0.7%	1	1.7%

【出典】KDB帳票 S21\_001-地域の全体像の把握 令和4年度 累計  
KDB帳票 S21\_012-厚生労働省様式（様式2-1） 令和4年6月から令和5年5月

## 4 特定健診・特定保健指導・生活習慣の状況

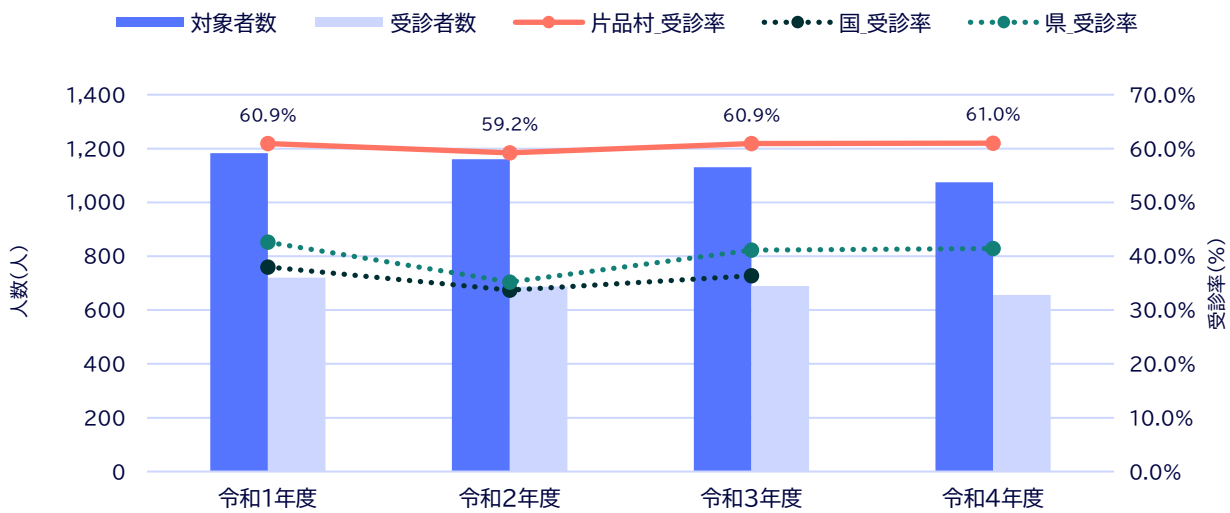
### (1) 特定健診受診率

#### ① 特定健診受診率の推移

以降では、生活習慣病の発症及び重症化予防を目的に実施している、特定健診、特定保健指導及び生活習慣病の治療状況に関連するデータを概観する。

まず、特定健診（人間ドック受検者を含む）の実施状況を見ると（図表3-4-1-1）、令和4年度の特定健診受診率（速報値）は61.0%であり、令和1年度と比較して0.1ポイント上昇している。令和3年度までの受診率で見ると国・県より高い。年齢階層別にみると（図表3-4-1-2）、特に40-44歳の特定健診受診率が低下している。

図表3-4-1-1：特定健診受診率（法定報告値）



		令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和1年度と令和4年度の差
特定健診対象者数 (人)		1,183	1,160	1,131	1,075	-108
特定健診受診者数 (人)		720	687	689	656	-64
特定健診受診率	片品村	60.9%	59.2%	60.9%	61.0%	0.1
	国	38.0%	33.7%	36.4%	-	-
	県	42.6%	35.2%	41.1%	41.4%	-1.2

【出典】厚生労働省 2019年度から2021年度 特定健診・特定保健指導の実施状況（保険者別）

公益社団法人 国民健康保険中央会 市町村国保特定健康診査・特定保健指導実施状況報告書 令和元年度から令和3年度

※法定報告値に係る図表における令和4年度の数値は速報値である（以下同様）

図表3-4-1-2：年齢階層別\_特定健診受診率

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
令和1年度	45.8%	48.2%	52.7%	58.0%	56.1%	69.5%	65.0%
令和2年度	36.6%	51.9%	55.6%	54.8%	55.9%	65.5%	62.9%
令和3年度	36.7%	45.2%	53.8%	52.6%	64.4%	64.3%	68.6%
令和4年度	34.4%	44.0%	43.6%	56.4%	65.5%	65.4%	69.0%

【出典】KDB帳票 S21\_008-健診の状況 令和1年度から令和4年度 累計

※KDB帳票と法定報告値は、データの登録時期が異なるため値がずれる（以下同様）

## ② 特定健診の受診状況と生活習慣病の治療状況

特定健診受診者と特定健診未受診者における生活習慣病のレセプト保有割合の差は、健康意識の差によるものとも考え得るし、健診受診が医療機関受診につながっている可能性もある。

特定健診を受診した人のうち、生活習慣病のレセプトが出ている人、すなわち生活習慣病を治療中の人は495人で、特定健診対象者の45.8%、特定健診受診者の75.5%を占めている。他方、特定健診未受診者のうち、生活習慣病のレセプトが出ている人は259人で、特定健診対象者の24.0%、特定健診未受診者の61.1%を占めている（図表3-4-1-3）。

特定健診未受診者のうち、生活習慣病のレセプトが出ていない人は165人で、特定健診対象者の15.3%であり、これらの人の健康状態を把握するのは難しい状況にある。

※この項における生活習慣病とは、KDBが定める生活習慣病（糖尿病、高血圧症、脂質異常症、高尿酸血症、脂肪肝、動脈硬化症、脳出血、脳梗塞、狭心症、心筋梗塞、がん、筋・骨格関連疾患、及び精神疾患）を指す

図表3-4-1-3：特定健診の受診状況と生活習慣病の治療状況

	40-64歳		65-74歳		合計		
	人数（人）	対象者に占める割合	人数（人）	対象者に占める割合	人数（人）	対象者に占める割合	特定健診受診者・未受診者に占める割合
対象者数	488	-	592	-	1,080	-	-
特定健診受診者数	257	-	399	-	656	-	-
生活習慣病_治療なし	97	19.9%	64	10.8%	161	14.9%	24.5%
生活習慣病_治療中	160	32.8%	335	56.6%	495	45.8%	75.5%
特定健診未受診者数	231	-	193	-	424	-	-
生活習慣病_治療なし	118	24.2%	47	7.9%	165	15.3%	38.9%
生活習慣病_治療中	113	23.2%	146	24.7%	259	24.0%	61.1%

【出典】KDB帳票 S21\_027-厚生労働省様式（様式5-5） 令和4年度 年次

## (2) 有所見者の状況

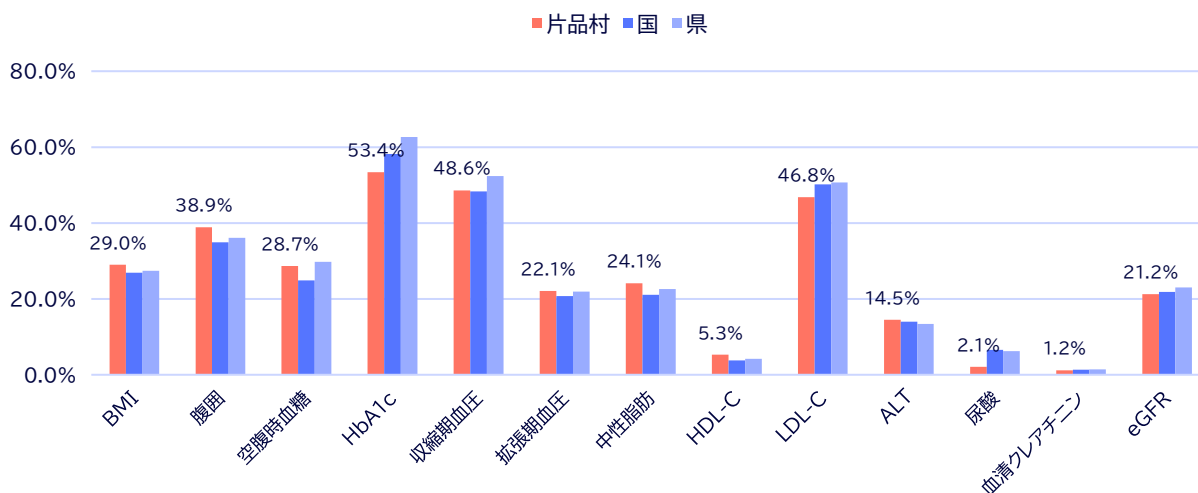
### ① 特定健診受診者における有所見者の割合

ここでは、特定健診受診者における検査項目ごとの有所見者の割合から、片品村の特定健診受診者において、どの検査項目で有所見者の割合が高いのか、その傾向を概観する。

令和4年度の特定健診受診者における有所見者の割合をみると（図表3-4-2-1）、国や県と比較して「BMI」「腹囲」「拡張期血圧」「中性脂肪」「HDL-C」「ALT」の有所見率が高い。

※有所見とは、医師の診断が異常なし、要精密検査、要治療等のうち、異常なし以外のものを指す

図表3-4-2-1：特定健診受診者における有所見者の割合



	BMI	腹囲	空腹時血糖	HbA1c	収縮期血圧	拡張期血圧	中性脂肪	HDL-C	LDL-C	ALT	尿酸	血清クレアチニン	eGFR
片品村	29.0%	38.9%	28.7%	53.4%	48.6%	22.1%	24.1%	5.3%	46.8%	14.5%	2.1%	1.2%	21.2%
国	26.9%	34.9%	24.9%	58.2%	48.3%	20.7%	21.1%	3.8%	50.2%	14.0%	6.6%	1.3%	21.8%
県	27.4%	36.1%	29.8%	62.7%	52.4%	21.9%	22.6%	4.2%	50.7%	13.4%	6.2%	1.4%	23.0%

【出典】 KDB帳票 S21\_024-厚生労働省様式（様式5-2） 令和4年度 年次

### 参考：検査項目ごとの有所見定義

BMI	25kg/m <sup>2</sup> 以上	中性脂肪	150mg/dL以上
腹囲	男性：85cm以上、女性：90cm以上 (内臓脂肪面積の場合：100cm <sup>2</sup> 以上)	HDL-C	40mg/dL未満
		LDL-C	120mg/dL以上
空腹時血糖	100mg/dL以上	ALT	31U/L以上
HbA1c	5.6%以上	尿酸	7.0mg/dL超過
収縮期血圧	130mmHg以上	血清クレアチニン	1.3mg/dL以上
拡張期血圧	85mmHg以上	eGFR	60ml/分/1.73m <sup>2</sup> 未満

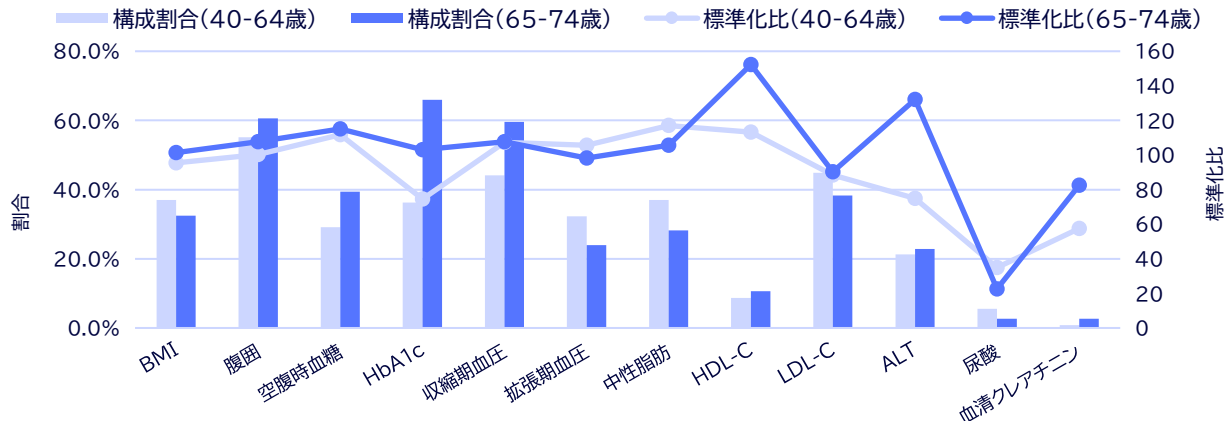
【出典】 KDBシステム 各帳票等の項目にかかる集計要件



## ② 特定健診受診者における年代別有所見者の割合と標準化比

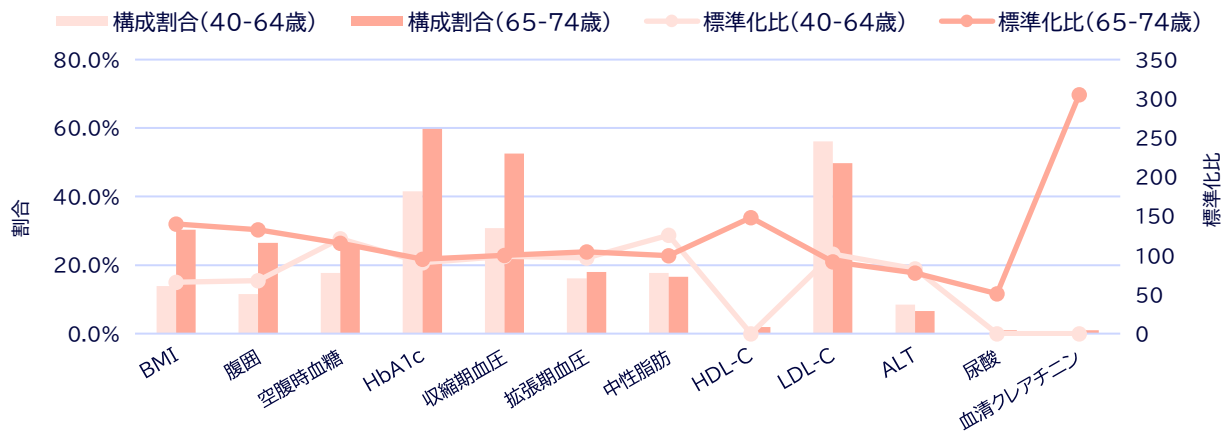
さらに、年代別の有所見者の割合について、国における有所見者の割合を100とした標準化比を国立保健医療科学院のツールを使って算出し国と比較すると（図表3-4-2-2・図表3-4-2-3）、男性では「腹囲」「空腹時血糖」「収縮期血圧」「中性脂肪」「HDL-C」の標準化比がいずれの年代においても100を超えている。女性では「空腹時血糖」の標準化比がいずれの年代においても100を超えている。

図表3-4-2-2：特定健診受診者における年代別有所見者の割合・標準化比\_男性



		BMI	腹囲	空腹時血糖	HbA1c	収縮期血圧	拡張期血圧	中性脂肪	HDL-C	LDL-C	ALT	尿酸	血清クレアチニン
40-64歳	構成割合	37.0%	55.1%	29.1%	36.2%	44.1%	32.3%	37.0%	8.7%	44.9%	21.3%	5.5%	0.8%
	標準化比	95.5	100.3	111.8	74.6	107.2	105.6	117.0	113.2	88.5	74.9	34.9	57.4
65-74歳	構成割合	32.4%	60.6%	39.4%	66.0%	59.6%	23.9%	28.2%	10.6%	38.3%	22.9%	2.7%	2.7%
	標準化比	101.3	107.6	115.0	103.1	107.7	98.3	105.6	152.3	90.3	132.0	22.6	82.6

図表3-4-2-3：特定健診受診者における年代別有所見者の割合・標準化比\_女性



		BMI	腹囲	空腹時血糖	HbA1c	収縮期血圧	拡張期血圧	中性脂肪	HDL-C	LDL-C	ALT	尿酸	血清クレアチニン
40-64歳	構成割合	13.8%	11.5%	17.7%	41.5%	30.8%	16.2%	17.7%	0.0%	56.2%	8.5%	0.0%	0.0%
	標準化比	65.6	67.7	121.4	90.8	98.6	96.6	125.6	0.0	101.5	82.8	0.0	0.0
65-74歳	構成割合	30.3%	26.5%	25.6%	59.7%	52.6%	18.0%	16.6%	1.9%	49.8%	6.6%	0.9%	0.9%
	標準化比	139.9	132.9	115.6	95.2	100.1	104.3	99.5	148.2	91.8	77.6	51.0	305.0

【出典】KDB帳票 S21\_024-厚生労働省様式（様式5-2） 令和4年度 年次

### (3) メタボリックシンドロームの状況

#### ① 特定健診受診者におけるメタボ該当者数とメタボ予備群該当者数

ここでは、特定健診受診者におけるメタボリックシンドローム該当者（以下、メタボ該当者という。）及びメタボリックシンドローム予備群該当者（以下、メタボ予備群該当者という。）のデータを概観する。メタボリックシンドロームとは、「内臓肥満に高血圧・高血糖・脂質代謝異常が組み合わさることにより、心臓病や脳卒中などになりやすい病態」（厚生労働省 生活習慣病予防のための健康情報サイトより引用）を指している。ここでは片品村のメタボ該当者及びメタボ予備群該当者の割合及び高血圧、高血糖及び脂質代謝異常リスクの該当状況を見る。

令和4年度の特定健診受診者におけるメタボリックシンドロームの状況を見ると（図表3-4-3-1）、メタボ該当者は142人で特定健診受診者（656人）における該当者割合は21.6%で、該当者割合は国・県より高い。男女別にみると、男性では特定健診受診者の31.7%が、女性では12.3%がメタボ該当者となっている。

メタボ予備群該当者は91人で特定健診受診者における該当者割合は13.9%となっており、該当者割合は国・県より高い。男女別にみると、男性では特定健診受診者の21.0%が、女性では7.3%がメタボ予備群該当者となっている。

なお、メタボ該当者及びメタボ予備群該当者の定義は、下表（メタボリックシンドローム判定値の定義）のとおりである。

図表3-4-3-1：特定健診受診者におけるメタボ該当者数・メタボ予備群該当者数

	片品村		国	県	同規模
	対象者数（人）	割合	割合	割合	割合
メタボ該当者	142	21.6%	20.6%	21.5%	22.2%
男性	100	31.7%	32.9%	33.3%	32.4%
女性	42	12.3%	11.3%	12.1%	12.8%
メタボ予備群該当者	91	13.9%	11.1%	11.6%	12.4%
男性	66	21.0%	17.8%	18.1%	18.3%
女性	25	7.3%	6.0%	6.3%	6.9%

【出典】KDB帳票 S21\_001-地域の全体像の把握 令和4年度 累計

#### 参考：メタボリックシンドローム判定値の定義

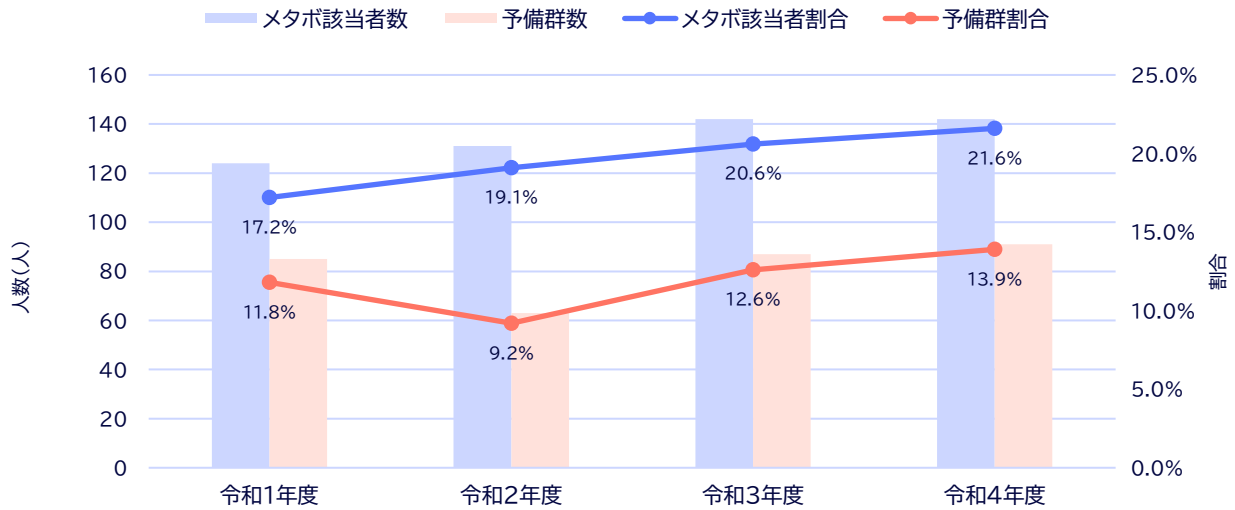
メタボ該当者	腹囲 85cm（男性）	以下の追加リスクのうち2つ以上該当
メタボ予備群該当者	90cm（女性）以上	
追加リスク	血糖	空腹時血糖110mg/dL以上（空腹時血糖の結果値が存在しない場合、HbA1c 6.0%以上）
	血圧	収縮期血圧130mmHg以上、または拡張期血圧85mmHg以上
	脂質	中性脂肪150mg/dL以上、またはHDLコレステロール40mg/dL未満

【出典】厚生労働省 メタボリックシンドロームの診断基準

## ② メタボ該当者数とメタボ予備群該当者数の推移

令和4年度と令和1年度の該当者割合を比較すると（図表3-4-3-2）、特定健診受診者のうちメタボ該当者の割合は4.4ポイント増加しており、メタボ予備群該当者の割合は2.1ポイント増加している。

図表3-4-3-2：メタボ該当者数・メタボ予備群該当者数の推移



	令和1年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和1年度と令和4年度の割合の差
	対象者（人）	割合	対象者（人）	割合	対象者（人）	割合	対象者（人）	割合	
メタボ該当者	124	17.2%	131	19.1%	142	20.6%	142	21.6%	4.4
メタボ予備群該当者	85	11.8%	63	9.2%	87	12.6%	91	13.9%	2.1

【出典】KDB帳票 S21\_001-地域の全体像の把握 令和1年度から令和4年度 累計

### ③ メタボ該当者とメタボ予備群該当者における追加リスクの重複状況

メタボ該当者及びメタボ予備群該当者における追加リスクの重複状況をみる（図表3-4-3-3）。

メタボ該当者においては「高血圧・脂質異常該当者」が多く、142人中74人が該当しており、特定健診受診者数の11.3%を占めている。

メタボ予備群該当者では「高血圧該当者」が多く、91人中72人が該当しており、特定健診受診者数の11.0%を占めている。

図表3-4-3-3：メタボ該当者・メタボ予備群該当者における追加リスクの重複状況

	男性		女性		合計	
	人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合
特定健診受診者数	315	-	341	-	656	-
腹囲基準値以上	184	58.4%	71	20.8%	255	38.9%
メタボ該当者	100	31.7%	42	12.3%	142	21.6%
高血糖・高血圧該当者	12	3.8%	4	1.2%	16	2.4%
高血糖・脂質異常該当者	9	2.9%	1	0.3%	10	1.5%
高血圧・脂質異常該当者	51	16.2%	23	6.7%	74	11.3%
高血糖・高血圧・脂質異常該当者	28	8.9%	14	4.1%	42	6.4%
メタボ予備群該当者	66	21.0%	25	7.3%	91	13.9%
高血糖該当者	1	0.3%	2	0.6%	3	0.5%
高血圧該当者	51	16.2%	21	6.2%	72	11.0%
脂質異常該当者	14	4.4%	2	0.6%	16	2.4%
腹囲のみ該当者	18	5.7%	4	1.2%	22	3.4%

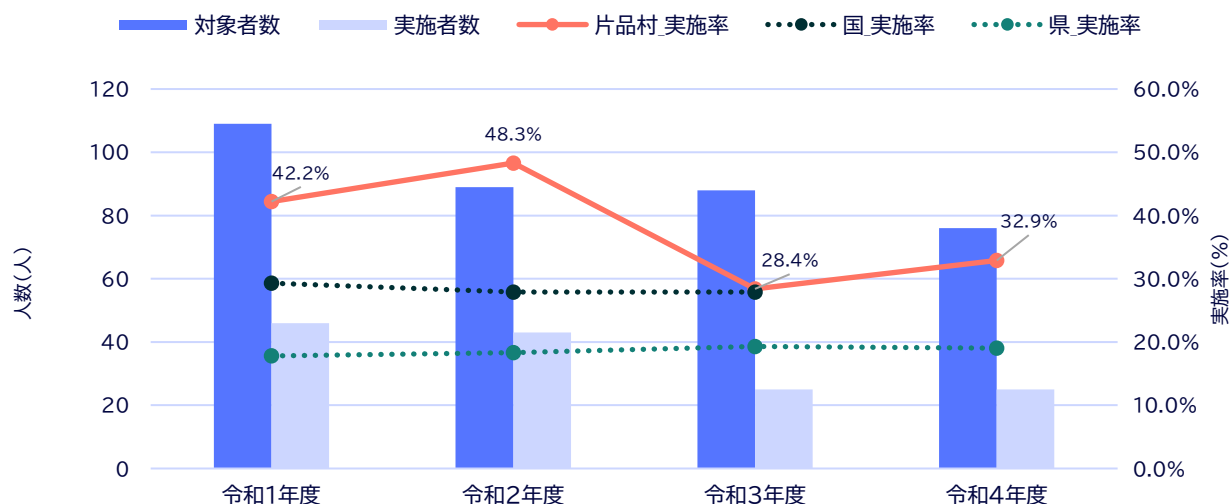
【出典】KDB帳票 S21\_025-厚生労働省様式（様式5-3） 令和4年度 年次

#### (4) 特定保健指導実施率

ここでは、特定保健指導の実施状況を概観する。特定保健指導とは、「特定健康診査の結果に基づき、主にメタボリックシンドロームの予防や解消を目的に行われる健康支援」（厚生労働省 生活習慣病予防のための健康情報サイトより引用）である。特定保健指導実施率をみることで、前述のメタボ該当者とメタボ予備群該当者のうち、どの程度の特定保健指導の対象者に対して支援できているのかわかる。

特定健診受診者のうち特定保健指導の対象者数は（図表3-4-4-1）、令和4年度の速報値では76人で、特定健診受診者656人中11.6%を占める。特定保健指導対象者のうち特定保健指導を終了した人の割合、すなわち特定保健指導実施率は32.9%で、令和1年度の実施率42.2%と比較すると9.3ポイント低下している。令和3年度までの実施率で見ると国・県より高い。

図表3-4-4-1：特定保健指導実施率（法定報告値）



	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和1年度と令和4年度の差	
特定健診受診者数 (人)	720	687	689	656	-64	
特定保健指導対象者数 (人)	109	89	88	76	-33	
特定保健指導該当者割合	15.1%	13.0%	12.8%	11.6%	-3.5	
特定保健指導実施者数 (人)	46	43	25	25	-21	
特定保健指導実施率	片品村	42.2%	48.3%	28.4%	32.9%	-9.3
	国	29.3%	27.9%	27.9%	-	-
	県	17.8%	18.3%	19.3%	19.0%	1.2

【出典】厚生労働省 2019年度から2021年度 特定健診・特定保健指導実施状況（保険者別）  
 公益社団法人 国民健康保険中央会 市町村国保特定健康診査・特定保健指導実施状況報告書 令和元年度から令和3年度

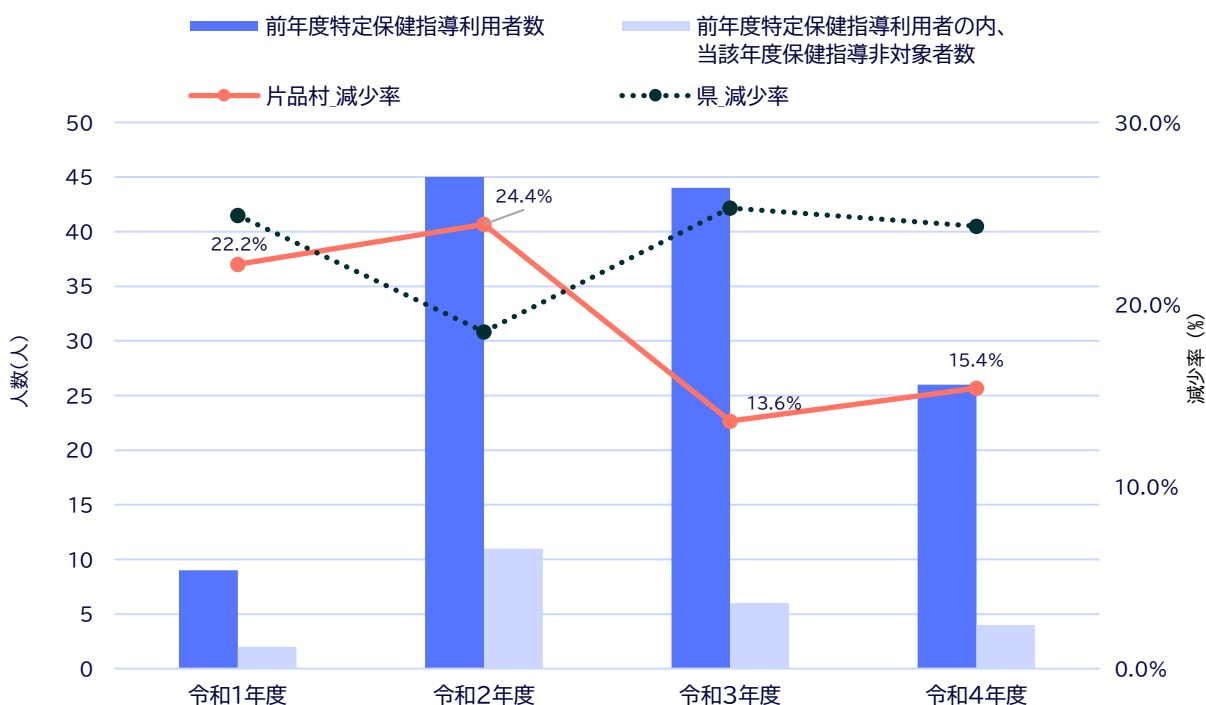
### (5) 特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率

ここでは、前年度の特定保健指導利用者のうち、当該年度に特定保健指導の対象ではなくなったものを概観することで、特定保健指導が適切に実施できているかが分かる。

令和4年度の速報値では前年度特定保健指導利用者（図表3-4-5-1）26人のうち当該年度に特定保健指導の対象ではなくなった者の数は4人で、特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率は15.4%であり、県より低い。

令和4年度の特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率は、令和1年度の22.2%と比較すると6.8ポイント減少している。

図表3-4-5-1：特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率（法定報告値）



	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和1年度と令和4年度の差	
前年度特定保健指導利用者数（人）	9	45	44	26	17	
前年度特定保健指導利用者の内、当該年度保健指導非対象者数（人）	2	11	6	4	2	
特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率	片品村	22.2%	24.4%	13.6%	15.4%	-6.8
	県	24.9%	18.5%	25.3%	24.3%	-0.6

【出典】特定健診等データ管理システム TKCA014 令和1年度から令和4年度

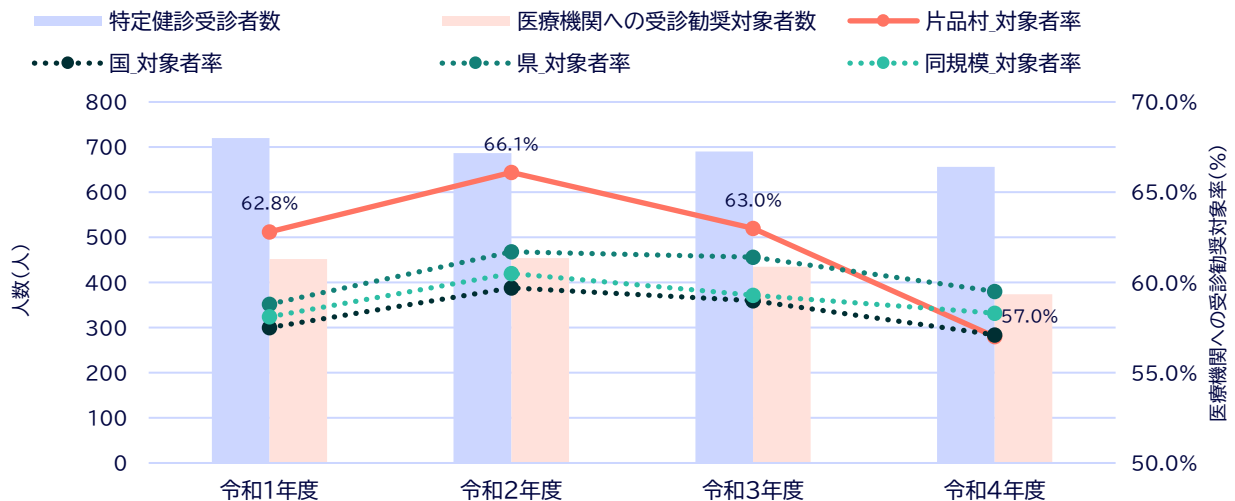
## (6) 受診勧奨対象者の状況

### ① 特定健診受診者における医療機関への受診勧奨対象者の割合

ここでは、特定健診受診者において、医療機関の受診を促す基準として設定されている受診勧奨判定値を超えるもの（受診勧奨対象者）の割合から、片品村の特定健診受診者において、受診勧奨対象者がどの程度存在するのかをみる。

受診勧奨対象者の割合をみると（図表3-4-6-1）、令和4年度における受診勧奨対象者数は374人で、特定健診受診者の57.0%を占めている。該当者割合は、国・県より低く、令和1年度と比較すると5.8ポイント減少している。なお、図表3-4-6-1における受診勧奨対象者は一項目でも受診勧奨判定値以上の項目があった人を指している。

図表3-4-6-1：特定健診受診者における医療機関への受診勧奨対象者の割合



	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和1年度と令和4年度の受診勧奨対象者率の差	
特定健診受診者数 (人)	720	687	690	656	-	
医療機関への受診勧奨対象者数 (人)	452	454	435	374	-	
受診勧奨対象者率	片品村	62.8%	66.1%	63.0%	57.0%	-5.8
	国	57.5%	59.7%	59.0%	57.1%	-0.4
	県	58.8%	61.7%	61.4%	59.5%	0.7
	同規模	58.1%	60.5%	59.3%	58.3%	0.2

【出典】KDB帳票 S21\_001-地域の全体像の把握 令和1年度から令和4年度 累計

参考：各健診項目における受診勧奨判定値

空腹時血糖	126mg/dL以上	中性脂肪	300mg/dL以上	AST	51U/L以上
HbA1c	6.5%以上	HDLコレステロール	34mg/dL以下	ALT	51U/L以上
随時血糖	126mg/dL以上	LDLコレステロール	140mg/dL以上	γ-GTP	101U/L以上
収縮期血圧	140mmHg以上	Non-HDLコレステロール	170mg/dL以上	eGFR	45ml/分/1.73m <sup>2</sup> 未満
拡張期血圧	90mmHg以上	ヘモグロビン	男性12.1g/dL未満、女性11.1g/dL未満		

※厚生労働省「標準的な健診・保健指導プログラム」に準拠

## ② 特定健診受診者における受診勧奨対象者の経年推移

血糖・血圧・脂質・腎機能の受診勧奨対象者の経年推移を検査値ごとにもみる（図表3-4-6-2）。

令和4年度において、血糖ではHbA1c6.5%以上の人は60人で特定健診受診者の9.1%を占めており、令和1年度と比較すると割合は減少している。

血圧では、Ⅰ度高血圧以上の人は194人で特定健診受診者の29.6%を占めており、令和1年度と比較すると割合は減少している。

脂質ではLDL-C140mg/dL以上の人は157人で特定健診受診者の23.9%を占めており、令和1年度と比較すると割合は減少している。

腎機能ではeGFR45ml/分/1.73m<sup>2</sup>未満の人は15人で特定健診受診者の2.3%を占めており、令和1年度と比較すると割合は増加している。

図表3-4-6-2：特定健診受診者における受診勧奨対象者（血糖・血圧・脂質・腎機能）の経年推移

		令和1年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
		人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合
特定健診受診者数		720	-	687	-	690	-	656	-
血糖 (HbA1c)	6.5%以上7.0%未満	32	4.4%	42	6.1%	37	5.4%	37	5.6%
	7.0%以上8.0%未満	35	4.9%	24	3.5%	22	3.2%	17	2.6%
	8.0%以上	4	0.6%	5	0.7%	5	0.7%	6	0.9%
	合計	71	9.9%	71	10.3%	64	9.3%	60	9.1%

		令和1年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
		人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合
特定健診受診者数		720	-	687	-	690	-	656	-
血圧	Ⅰ度高血圧	168	23.3%	201	29.3%	190	27.5%	144	22.0%
	Ⅱ度高血圧	57	7.9%	51	7.4%	42	6.1%	35	5.3%
	Ⅲ度高血圧	15	2.1%	19	2.8%	12	1.7%	15	2.3%
	合計	240	33.3%	271	39.4%	244	35.4%	194	29.6%

		令和1年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
		人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合
特定健診受診者数		720	-	687	-	690	-	656	-
脂質 (LDL-C)	140mg/dL以上160mg/dL未満	103	14.3%	99	14.4%	108	15.7%	93	14.2%
	160mg/dL以上180mg/dL未満	68	9.4%	55	8.0%	50	7.2%	46	7.0%
	180mg/dL以上	32	4.4%	27	3.9%	27	3.9%	18	2.7%
	合計	203	28.2%	181	26.3%	185	26.8%	157	23.9%

		令和1年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
		人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合
特定健診受診者数		720	-	687	-	690	-	656	-
腎機能 (eGFR)	30ml/分/1.73m <sup>2</sup> 以上 45ml/分/1.73m <sup>2</sup> 未満	9	1.3%	11	1.6%	14	2.0%	11	1.7%
	15ml/分/1.73m <sup>2</sup> 以上 30ml/分/1.73m <sup>2</sup> 未満	2	0.3%	2	0.3%	2	0.3%	3	0.5%
	15ml/分/1.73m <sup>2</sup> 未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%
	合計	11	1.5%	13	1.9%	16	2.3%	15	2.3%

【出典】KDB帳票 S21\_008-健診の状況 令和1年度から令和4年度 累計  
KDB帳票 S26\_005-保健指導対象者一覧（受診勧奨判定値の者） 令和1年度から令和4年度 累計

参考：Ⅰ度・Ⅱ度・Ⅲ度高血圧の定義

Ⅰ度高血圧	収縮期血圧140-159mmHg かつ/または 拡張期血圧90-99mmHg
Ⅱ度高血圧	収縮期血圧160-179mmHg かつ/または 拡張期血圧100-109mmHg
Ⅲ度高血圧	収縮期血圧180mmHg以上 かつ/または 拡張期血圧110mmHg以上

【出典】KDBシステム 各帳票等の項目にかかる集計要件



### ③ 受診勧奨対象者における医療機関の受診状況

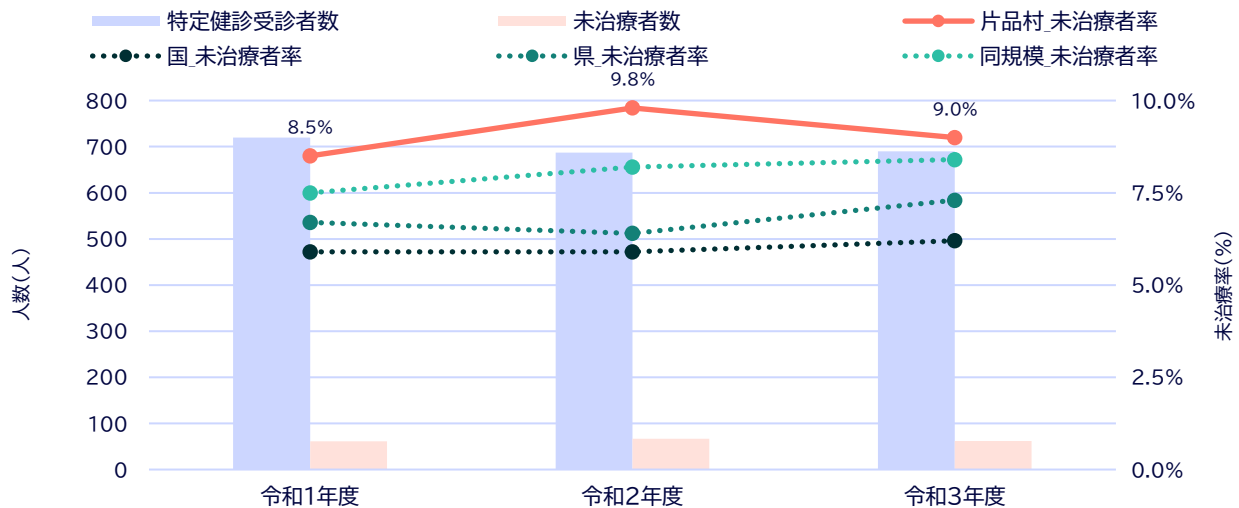
ここでは、受診勧奨対象者の医療機関受診状況について概観する。受診勧奨対象者のうち医療機関への受診が確認されない人（未治療者）の割合から、特定健診を受診し医療機関の受診が促されているにも関わらず医療機関への受診が確認されない人がどの程度存在するのか把握できる。

受診勧奨対象者の医療機関の受診状況をみると（図表3-4-6-3）、令和3年度の特定健診受診者690人のうち、医療機関の受診が確認されていない未治療者の割合は9.0%であり、国・県より高い。

未治療者率は、令和1年度と比較して0.5ポイント増加している。

※未治療者：特定健診受診者のうち、受診勧奨対象者かつ特定健診実施から6か月以内に医療機関を受診していない者

図表3-4-6-3：受診勧奨対象者における未治療者率



	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和1年度と令和3年度の未治療者率の差	
特定健診受診者数（人）	720	687	690	-	
（参考）医療機関への受診勧奨対象者数（人）	452	454	435	-	
未治療者数（人）	61	67	62	-	
未治療者率	片品村	8.5%	9.8%	9.0%	0.5
	国	5.9%	5.9%	6.2%	0.3
	県	6.7%	6.4%	7.3%	0.6
	同規模	7.5%	8.2%	8.4%	0.9

【出典】 KDB帳票 S21\_001-地域の全体像の把握 令和1年度から令和3年度 累計

#### ④ 受診勧奨対象者における服薬状況

次に、血糖、血圧、脂質及び腎機能の受診勧奨対象者について、検査値ごとに健診受診年度のレセプトにおける服薬状況をみる（図表3-4-6-4）。受診勧奨対象者のうち、特に検査値が高い者は服薬による治療が必要な可能性があり、レセプトから服薬が確認されない場合、医療機関の受診を促す必要がある。

令和4年度の健診において、血糖がHbA1c6.5%以上であった60人の21.7%が、血圧がⅠ度高血圧以上であった194人の46.4%が、脂質がLDL-C140mg/dL以上であった157人の83.4%が服薬をしていない。

また、腎機能については、eGFR45ml/分/1.73m<sup>2</sup>未満であった15人の6.7%が血糖や血圧などの薬剤の服薬をしていない。

図表3-4-6-4：特定健診受診者における受診勧奨対象者（血糖・血圧・脂質・腎機能）の服薬状況

血糖（HbA1c）	該当者数（人）	服薬なし_人数（人）	服薬なし_割合
6.5%以上7.0%未満	37	11	29.7%
7.0%以上8.0%未満	17	1	5.9%
8.0%以上	6	1	16.7%
合計	60	13	21.7%

血圧	該当者数（人）	服薬なし_人数（人）	服薬なし_割合
Ⅰ度高血圧	144	61	42.4%
Ⅱ度高血圧	35	19	54.3%
Ⅲ度高血圧	15	10	66.7%
合計	194	90	46.4%

脂質（LDL-C）	該当者数（人）	服薬なし_人数（人）	服薬なし_割合
140mg/dL以上160mg/dL未満	93	77	82.8%
160mg/dL以上180mg/dL未満	46	37	80.4%
180mg/dL以上	18	17	94.4%
合計	157	131	83.4%

腎機能（eGFR）	該当者数（人）	服薬なし_人数（人）	服薬なし_割合	服薬なしのうち、透析なし_人数（人）	該当者のうち、服薬なし_透析なし_割合
30ml/分/1.73m <sup>2</sup> 以上 45ml/分/1.73m <sup>2</sup> 未満	11	1	9.1%	1	9.1%
15ml/分/1.73m <sup>2</sup> 以上 30ml/分/1.73m <sup>2</sup> 未満	3	0	0.0%	0	0.0%
15ml/分/1.73m <sup>2</sup> 未満	1	0	0.0%	0	0.0%
合計	15	1	6.7%	1	6.7%

【出典】KDB帳票 S26\_005-保健指導対象者一覧（受診勧奨判定値の者） 令和4年度 累計

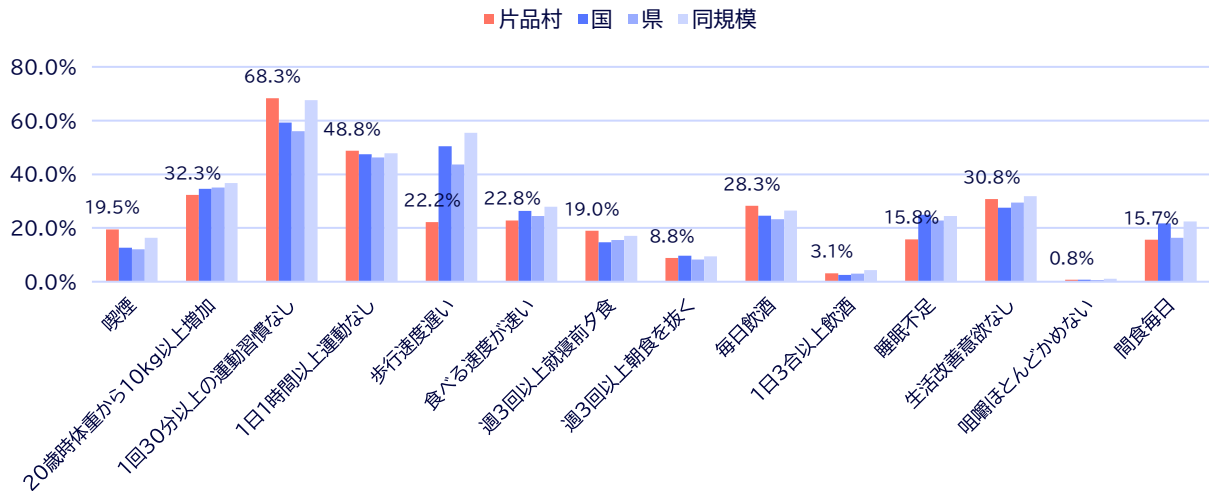
## (7) 質問票の状況

### ① 特定健診受診者における質問票の回答状況

ここでは、特定健診での質問票の回答状況から、片品村の特定健診受診者における喫煙や運動習慣、食事、睡眠などの生活習慣における傾向を概観する。

令和4年度の特定健診受診者の質問票から生活習慣の状況をみると（図表3-4-7-1）、国や県と比較して「喫煙」「1回30分以上の運動習慣なし」「1日1時間以上運動なし」「週3回以上就寝前夕食」「毎日飲酒」「3合以上」「生活改善意欲なし」の回答割合が高い。

図表3-4-7-1：特定健診受診者における質問票項目別回答者の割合



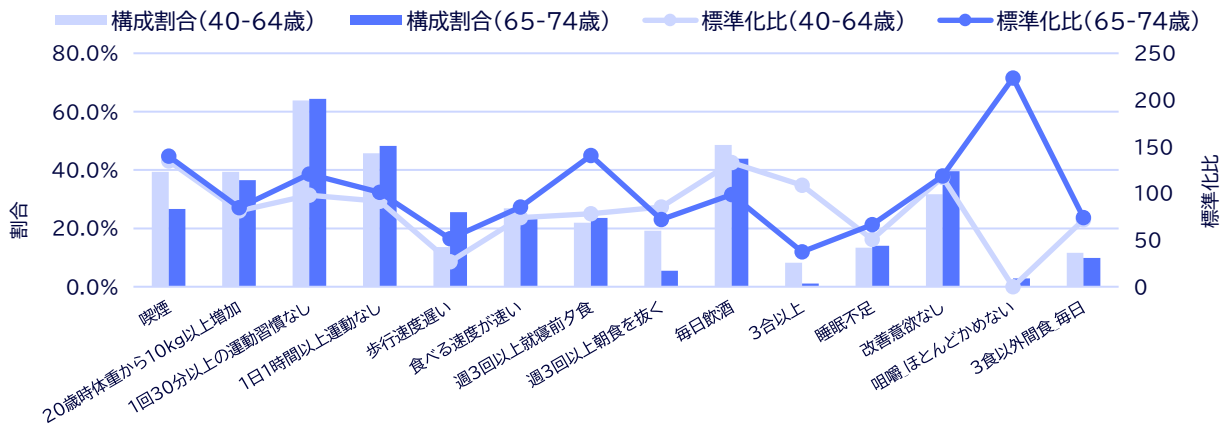
	喫煙	20歳時体重から10kg以上増加	1回30分以上の運動習慣なし	1日1時間以上運動なし	歩行速度遅い	食べる速度が速い	週3回以上就寝前夕食	週3回以上朝食を抜く	毎日飲酒	1日3合以上飲酒	睡眠不足	生活改善意欲なし	咀嚼ほとんどかめない	間食毎日
片品村	19.5%	32.3%	68.3%	48.8%	22.2%	22.8%	19.0%	8.8%	28.3%	3.1%	15.8%	30.8%	0.8%	15.7%
国	12.7%	34.6%	59.3%	47.5%	50.4%	26.4%	14.7%	9.7%	24.6%	2.5%	24.9%	27.5%	0.8%	21.7%
県	12.1%	35.1%	56.1%	46.3%	43.7%	24.5%	15.5%	8.2%	23.3%	3.0%	22.8%	29.5%	0.6%	16.3%
同規模	16.4%	36.7%	67.6%	47.8%	55.5%	27.9%	17.1%	9.4%	26.5%	4.3%	24.5%	31.8%	1.1%	22.4%

【出典】KDB帳票 S25\_001-質問票調査の経年比較 令和4年度 年次

② 特定健診受診者における年代別質問票の回答状況と標準化比

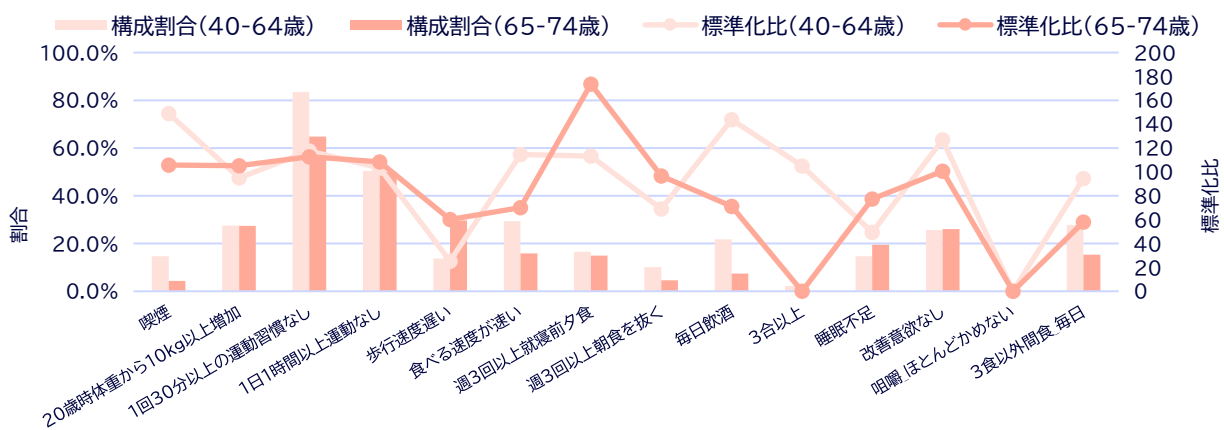
さらに、国における各設問への回答者割合を100とした標準化比を国立保健医療科学院のツールを使って算出し、年代別の回答者割合を国と比較すると（図表3-4-7-2・図表3-4-7-3）、男性では「喫煙」「生活改善意欲なし」の標準化比がいずれの年代においても高く、女性では「週3回以上就寝前夕食」「1回30分以上の運動習慣なし」「1日1時間以上運動なし」の標準化比がいずれの年代においても高い。

図表3-4-7-2：特定健診受診者における年代別質問項目回答者の割合・標準化比\_男性



		喫煙	20歳時 体重から 10kg 以上増加	1回30分 以上の運 動習慣 なし	1日 1時間 以上 運動なし	歩行速度 遅い	食べる 速度が 速い	週3回 以上 就寝前 夕食	週3回 以上 朝食を 抜く	毎日飲酒	3台以上	睡眠不足	生活 改善 意欲 なし	咀嚼 ほとんど かめない	間食 毎日
		回答割合	標準化比	回答割合	標準化比	回答割合	標準化比	回答割合	標準化比	回答割合	標準化比	回答割合	標準化比	回答割合	標準化比
40- 64歳	回答割合	39.4%	39.4%	63.8%	45.7%	13.6%	26.9%	21.9%	19.2%	48.6%	8.2%	13.3%	31.7%	0.0%	11.7%
	標準化比	134.7	81.1	98.1	91.4	26.8	74.0	78.3	85.5	132.9	108.6	50.8	117.1	0.0	71.5
65- 74歳	回答割合	26.6%	36.6%	64.4%	48.3%	25.5%	23.4%	23.6%	5.5%	43.8%	1.1%	14.1%	39.6%	2.8%	9.9%
	標準化比	139.9	84.6	120.7	101.0	51.5	85.3	140.4	71.9	98.8	37.4	66.6	118.7	223.6	74.0

図表3-4-7-3：特定健診受診者における年代別質問項目回答者の割合・標準化比\_女性



		喫煙	20歳時 体重から 10kg 以上増加	1回30分 以上の運 動習慣 なし	1日 1時間 以上 運動なし	歩行速度 遅い	食べる 速度が 速い	週3回 以上 就寝前 夕食	週3回 以上 朝食を 抜く	毎日飲酒	3台以上	睡眠不足	生活 改善 意欲 なし	咀嚼 ほとんど かめない	間食 毎日
		回答割合	標準化比	回答割合	標準化比	回答割合	標準化比	回答割合	標準化比	回答割合	標準化比	回答割合	標準化比	回答割合	標準化比
40- 64歳	回答割合	14.6%	27.5%	83.5%	50.5%	13.8%	29.4%	16.5%	10.1%	21.8%	2.1%	14.7%	25.7%	0.0%	27.8%
	標準化比	148.9	95.1	117.4	103.4	25.3	114.6	113.2	69.0	143.8	104.8	49.3	127.0	0.0	94.6
65- 74歳	回答割合	4.3%	27.4%	64.8%	50.0%	29.7%	15.9%	14.9%	4.6%	7.4%	0.0%	19.5%	26.0%	0.0%	15.3%
	標準化比	105.8	105.2	112.8	108.4	60.3	70.1	173.6	96.5	71.3	0.0	77.3	100.5	0.0	58.0

【出典】 KDB帳票 S21\_007-質問票調査の状況 令和4年度 累計

## 5 一体的実施に係る介護及び高齢者の状況

本項では、後期高齢者医療制度や介護保険との一体的実施との接続を踏まえ、介護及び高齢者に係るデータを分析する。

### (1) 保険種別（国民健康保険及び後期高齢者医療制度）の被保険者構成

保険種別の被保険者構成をみると（図表3-5-1-1）、国民健康保険（以下、国保という）の加入者数は1,451人、国保加入率は35.8%で、国・県より高い。後期高齢者医療制度（以下、後期高齢者という。）の加入者数は886人、後期高齢者加入率は21.9%で、国・県より高い。

図表3-5-1-1：保険種別の被保険者構成

	国保			後期高齢者		
	片品村	国	県	片品村	国	県
総人口	4,049	-	-	4,049	-	-
保険加入者数（人）	1,451	-	-	886	-	-
保険加入率	35.8%	19.7%	21.1%	21.9%	15.4%	16.3%

【出典】住民基本台帳 令和4年度  
KDB帳票 S21\_001-地域の全体像の把握 令和4年度 累計（国保・後期）

### (2) 年代別の要介護（要支援）認定者の有病状況

生活習慣病における重篤な疾患である「心臓病」「脳血管疾患」やフレイル予防という観点で「筋・骨格関連疾患」に焦点をあて、概観する。

年代別の要介護（要支援）認定者における有病状況（図表3-5-2-1）をみると、前期高齢者である65-74歳の有病割合の国との差は、「心臓病」（-2.3ポイント）、「脳血管疾患」（-6.2ポイント）、「筋・骨格関連疾患」（-3.7ポイント）である。75歳以上の認定者の有病割合の国との差は、「心臓病」（12.9ポイント）、「脳血管疾患」（8.3ポイント）、「筋・骨格関連疾患」（10.7ポイント）である。

図表3-5-2-1：年代別の要介護（要支援）認定者の有病状況

疾病名	65-74歳			75歳以上		
	片品村	国	国との差	片品村	国	国との差
糖尿病	22.7%	21.6%	1.1	21.3%	24.9%	-3.6
高血圧症	34.9%	35.3%	-0.4	68.6%	56.3%	12.3
脂質異常症	22.7%	24.2%	-1.5	27.8%	34.1%	-6.3
心臓病	37.8%	40.1%	-2.3	76.5%	63.6%	12.9
脳血管疾患	13.5%	19.7%	-6.2	31.4%	23.1%	8.3
筋・骨格関連疾患	32.2%	35.9%	-3.7	67.1%	56.4%	10.7
精神疾患	25.0%	25.5%	-0.5	43.1%	38.7%	4.4

【出典】KDB帳票 S25\_006-医療・介護の突合（有病状況） 令和4年度 年次

### (3) 保険種別の医療費の状況

#### ① 保険種別の一人当たり医療費と入院医療費の割合

国保及び後期高齢者の一人当たり月額医療費をみると（図表3-5-3-1）、国保の入院医療費は、国と比べて860円少なく、外来医療費は2,120円少ない。後期高齢者の入院医療費は、国と比べて17,800円多く、外来医療費は6,420円少ない。

また、医療費に占める入院医療費の割合は、国保では1.3ポイント高く、後期高齢者では14.5ポイント高い。

図表3-5-3-1：保険種別の一人当たり月額医療費及び入院医療費の状況

	国保			後期高齢者		
	片品村	国	国との差	片品村	国	国との差
入院_一人当たり医療費（円）	10,790	11,650	-860	54,620	36,820	17,800
外来_一人当たり医療費（円）	15,280	17,400	-2,120	27,920	34,340	-6,420
総医療費に占める入院医療費の割合	41.4%	40.1%	1.3	66.2%	51.7%	14.5

【出典】KDB帳票 S21\_001-地域の全体像の把握 令和4年度 累計（国保・後期）

#### ② 保険種別の医療費の疾病別構成

保険種別に医療費の疾病別構成割合をみると（図表3-5-3-2）、国保では「がん」の医療費が占める割合が最も高く、医療費の20.2%を占めており、国と比べて3.4ポイント高い。後期高齢者では「筋・骨格関連疾患」の医療費が占める割合が最も高く、医療費の18.1%を占めており、国と比べて5.7ポイント高い。

重篤な生活習慣病の医療費に絞って疾病別構成割合をみると、「脳出血」「脳梗塞」「狭心症」「心筋梗塞」「慢性腎臓病（透析あり）」の後期の総医療費に占める割合は、同疾患の国保の総医療費に占める割合と比べて大きい。

図表3-5-3-2：保険種別医療費の状況

疾病名	国保			後期高齢者		
	片品村	国	国との差	片品村	国	国との差
糖尿病	5.4%	5.4%	0.0	3.6%	4.1%	-0.5
高血圧症	3.8%	3.1%	0.7	2.7%	3.0%	-0.3
脂質異常症	2.2%	2.1%	0.1	0.9%	1.4%	-0.5
高尿酸血症	0.1%	0.0%	0.1	0.0%	0.0%	0.0
脂肪肝	0.1%	0.1%	0.0	0.0%	0.0%	0.0
動脈硬化症	0.0%	0.1%	-0.1	0.3%	0.2%	0.1
がん	20.2%	16.8%	3.4	6.7%	11.2%	-4.5
脳出血	0.1%	0.7%	-0.6	1.4%	0.7%	0.7
脳梗塞	1.0%	1.4%	-0.4	5.1%	3.2%	1.9
狭心症	1.2%	1.1%	0.1	1.3%	1.3%	0.0
心筋梗塞	0.0%	0.3%	-0.3	0.3%	0.3%	0.0
慢性腎臓病（透析あり）	4.6%	4.4%	0.2	4.9%	4.6%	0.3
慢性腎臓病（透析なし）	0.8%	0.3%	0.5	0.3%	0.5%	-0.2
精神疾患	5.3%	7.9%	-2.6	0.6%	3.6%	-3.0
筋・骨格関連疾患	8.9%	8.7%	0.2	18.1%	12.4%	5.7

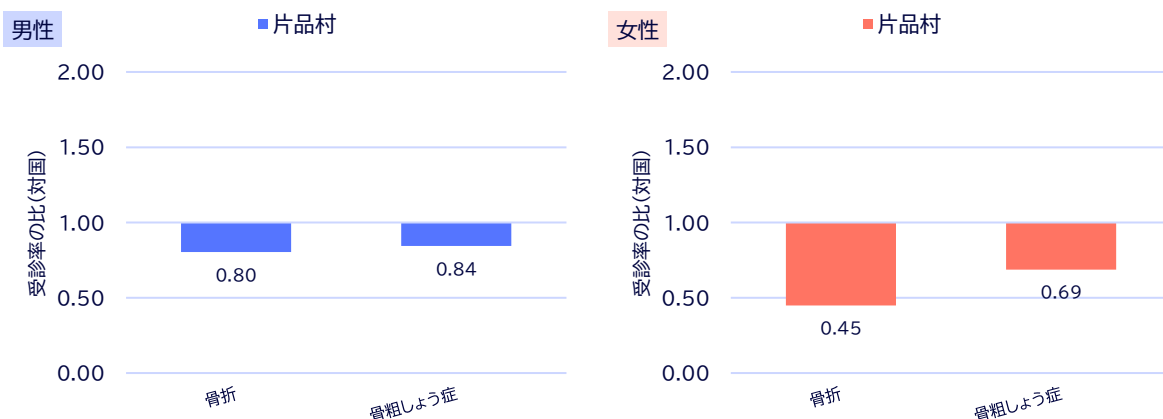
【出典】KDB帳票 S21\_001-地域の全体像の把握 令和4年度 累計（国保・後期）

※ここでは、総医療費に占める各疾病の医療費の割合を集計している

#### (4) 前期高齢者における骨折及び骨粗しょう症の受診率

前期高齢者における「骨折」及び「骨粗しょう症」の受診率（図表3-5-4-1）をみると、国と比べて、男女とも「骨折」「骨粗しょう症」の受診率は低い。

図表3-5-4-1：前期高齢者の骨折及び骨粗しょう症の受診率比較



【出典】KDB帳票 S23\_005-疾病別医療費分析（細小（82）分類） 令和4年度 累計

※表内の「骨折」は入院及び外来、「骨粗しょう症」は外来を集計している

#### (5) 後期高齢者の健診受診状況

健診受診の状況（図表3-5-5-1）をみると、後期高齢者の健診受診率は37.4%で、国と比べて12.6ポイント高い。続いて、健診受診者に占める受診勧奨対象者の割合をみると、後期高齢者の受診勧奨対象者率は69.6%で、国と比べて8.7ポイント高い。また、検査項目ごとの健診受診者に占める有所見者の割合を国と比べると、後期高齢者では「血压」「血糖・血压」「血糖・脂質」「血糖・血压・脂質」の該当割合が高い。

図表3-5-5-1：後期高齢者の健診状況

	後期高齢者			
	片品村	国	国との差	
健診受診率	37.4%	24.8%	12.6	
受診勧奨対象者率	69.6%	60.9%	8.7	
有所見者の状況	血糖	4.5%	5.7%	-1.2
	血压	33.7%	24.3%	9.4
	脂質	9.6%	10.8%	-1.2
	血糖・血压	6.6%	3.1%	3.5
	血糖・脂質	1.5%	1.3%	0.2
	血压・脂質	5.1%	6.9%	-1.8
	血糖・血压・脂質	2.1%	0.8%	1.3

【出典】KDB帳票 S21\_001-地域の全体像の把握 令和4年度 累計（後期）

参考：健診項目における受診勧奨判定値

空腹時血糖	126mg/dL以上	収縮期血压	140mmHg以上	中性脂肪	300mg/dL以上	LDLコレステロール	140mg/dL以上
HbA1c	6.5%以上	拡張期血压	90mmHg以上	HDLコレステロール	34mg/dL以下		

【出典】KDBシステム 各帳票等の項目にかかる集計要件



## (6) 後期高齢者における質問票の回答状況

後期高齢者における質問票の回答状況をみると（図表3-5-6-1）、国と比べて、「毎日の生活に「不満」「お茶や汁物等で「むせることがある」「6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少が「あった」「この1年間に「転倒したことがある」「ウォーキング等の運動を「週に1回以上していない」「周囲の人から「物忘れがあるとされたことがある」「今日が何月何日かわからない日がある」「週に1回以上外出して「いない」」の回答割合が高い。

図表3-5-6-1：後期高齢者における質問票の回答状況

カテゴリー	項目・回答	回答割合		
		片品村	国	国との差
健康状態	健康状態が「よくない」	1.0%	1.1%	-0.1
心の健康	毎日の生活に「不満」	2.0%	1.1%	0.9
食習慣	1日3食「食べていない」	3.2%	5.4%	-2.2
口腔・嚥下	半年前に比べて硬いものが「食べにくくなった」	23.8%	27.8%	-4.0
	お茶や汁物等で「むせることがある」	23.2%	20.9%	2.3
体重変化	6か月間で2～3kg以上の体重減少が「あった」	11.9%	11.7%	0.2
運動・転倒	以前に比べて「歩行速度が遅くなったと思う」	55.6%	59.1%	-3.5
	この1年間に「転倒したことがある」	25.7%	18.1%	7.6
	ウォーキング等の運動を「週に1回以上していない」	40.6%	37.1%	3.5
認知	周囲の人から「物忘れがあるとされたことがある」	24.1%	16.2%	7.9
	今日が何月何日かわからない日がある	30.3%	24.8%	5.5
喫煙	たばこを「吸っている」	4.8%	4.8%	0.0
社会参加	週に1回以上外出して「いない」	15.9%	9.4%	6.5
	ふだんから家族や友人との付き合いが「ない」	2.3%	5.6%	-3.3
ソーシャルサポート	体調が悪いときに、身近に相談できる人が「いない」	3.5%	4.9%	-1.4

【出典】KDB帳票 S21\_001-地域の全体像の把握 令和4年度 累計（後期）



## 6 その他の状況

### (1) 重複服薬の状況

重複服薬の状況を見ると（図表3-6-1-1）、重複処方該当者数は14人である。

※重複処方該当者：重複処方を受けた人のうち、3医療機関以上かつ複数の医療機関から重複処方が発生した薬効数が1以上、または2医療機関以上かつ複数の医療機関から重複処方が発生した薬効数が2以上に該当する者

図表3-6-1-1：重複服薬の状況（薬効分類単位で集計）

他医療機関との重複処方が発生した医療機関数（同一月内）		複数の医療機関から重複処方が発生した薬効数（同一月内）									
		1以上	2以上	3以上	4以上	5以上	6以上	7以上	8以上	9以上	10以上
重複処方を 受けた人	2医療機関以上	44	12	6	3	2	0	0	0	0	0
	3医療機関以上	2	1	1	1	1	0	0	0	0	
	4医療機関以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	5医療機関以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【出典】KDB帳票 S27\_013-重複・多剤処方の状況 令和5年3月診療分

### (2) 多剤服薬の状況

多剤服薬の状況を見ると（図表3-6-2-1）、多剤処方該当者数は2人である。

※多剤処方該当者：同一薬効に関する処方日数が1日以上かつ処方薬効数（同一月内）が15以上に該当する者

図表3-6-2-1：多剤服薬の状況（薬効分類単位で集計）

		処方薬効数（同一月内）											
		1以上	2以上	3以上	4以上	5以上	6以上	7以上	8以上	9以上	10以上	15以上	20以上
処方 日数	1日以上	694	578	440	329	229	154	95	60	37	19	2	1
	15日以上	621	540	421	321	225	153	94	60	37	19	2	1
	30日以上	562	490	385	300	214	144	90	59	37	19	2	1
	60日以上	285	258	208	176	126	92	57	35	20	10	2	1
	90日以上	137	125	103	88	65	45	29	19	10	6	2	1
	120日以上	58	57	49	41	33	20	13	8	4	4	2	1
	150日以上	26	25	23	20	14	8	4	3	1	1	0	0
	180日以上	21	20	18	16	11	7	4	3	1	1	0	0

【出典】KDB帳票 S27\_013-重複・多剤処方の状況 令和5年3月診療分

### (3) 後発医薬品の使用状況

令和4年9月時点の後発医薬品の使用割合は89.9%で、県の82.0%と比較して7.9ポイント高い（図表3-6-3-1）。

図表3-6-3-1：後発医薬品の使用状況

	令和1年9月	令和2年3月	令和2年9月	令和3年3月	令和3年9月	令和4年3月	令和4年9月
片品村	78.6%	84.2%	86.9%	87.9%	87.0%	86.6%	89.9%
県	77.3%	80.1%	80.8%	81.8%	81.6%	81.6%	82.0%

【出典】厚生労働省 保険者別の後発医薬品の使用割合

### (4) 5がん（胃がん・肺がん・大腸がん・子宮頸がん・乳がん）検診の受診率

国保被保険者におけるがん検診の受診状況をみると（図表3-6-4-1）、下表の5つのがんの検診平均受診率は31.3%で、国・県より高い。

図表3-6-4-1：国保被保険者におけるがん検診の受診状況

	胃がん	肺がん	大腸がん	子宮頸がん	乳がん	5がん平均
片品村	19.9%	40.0%	25.4%	30.7%	40.6%	31.3%
国	12.1%	15.2%	16.0%	16.2%	18.2%	15.5%
県	14.7%	19.4%	16.7%	18.2%	19.6%	17.7%

【出典】厚生労働省 地域保健・健康増進事業報告 令和3年度

## 7 健康課題の整理

### (1) 健康課題の全体像の整理

死亡・要介護状態	
平均余命 平均自立期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男性の平均余命は80.9年で、国・県より短い。国と比較すると、-0.8年である。女性の平均余命は89.6年で、国・県より長い。国と比較すると、+1.8年である。(図表2-1-2-1)</li> <li>・男性の平均自立期間は79.7年で、国・県より短い。国と比較すると、-0.4年である。女性の平均自立期間は86.2年で、国・県より長い。国と比較すると、+1.8年である。(図表2-1-2-1)</li> </ul>
死亡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健事業により予防可能な重篤な疾患について、令和3年の死因別の順位と割合をみると、「脳血管疾患」は第1位(10.8%)、「虚血性心疾患」は第10位(1.4%)、「腎不全」は第10位(1.4%)と、いずれも死因の上位に位置している。(図表3-1-1-1)</li> <li>・平成25年から平成29年までの重篤な疾患の標準化死亡比は、急性心筋梗塞73.3(男性)74.1(女性)、脳血管疾患110.2(男性)106.9(女性)、腎不全83.7(男性)77.9(女性)。(図表3-1-2-1・図表3-1-2-2)</li> </ul>
介護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平均余命と平均自立期間の差は、男性は1.2年、女性は3.4年となっている。(図表2-1-2-1)</li> <li>・介護認定者における有病割合をみると「心臓病」は72.8%、「脳血管疾患」は29.7%であり、これらの重篤な疾患に進行する可能性のある基礎疾患の有病割合は「糖尿病」(21.1%)、「高血圧症」(65.3%)、「脂質異常症」(27.0%)である。(図表3-2-3-1)</li> </ul>

生活習慣病重症化		
医療費	・入院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健事業により予防可能な疾患について入院医療費の上位をみると、「その他の脳血管疾患」が8位(3.8%)となっており、国の2.6倍となっている。(図表3-3-2-2・図表3-3-2-3)</li> <li>・「脳血管疾患」の受診率は国の0.66倍であり、「虚血性心疾患」の受診率は国の0.72倍となっている。(図表3-3-4-1)</li> <li>・重篤な疾患の患者は、基礎疾患(「糖尿病」「高血圧症」「脂質異常症」)を有している人が多い。(図表3-3-5-1)</li> </ul>
	・外来 (透析)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「腎不全」の外来医療費は、外来医療費全体の8.8%を占めている。(図表3-3-3-1)</li> <li>・生活習慣病における重篤な疾患のうち「慢性腎臓病(透析あり)」の受診率は国の0.80倍となっている。(図表3-3-4-1)</li> <li>・「慢性腎臓病(透析あり)」患者のうち、「糖尿病」を有している人は50.0%、「高血圧症」は100.0%、「脂質異常症」は50.0%となっている。(図表3-3-5-1)</li> </ul>
	・入院・外来	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重篤な生活習慣病の医療費に絞って疾病別構成割合をみると、「脳出血」「脳梗塞」「狭心症」「心筋梗塞」「慢性腎臓病(透析あり)」の後期の総医療費に占める割合は、同疾患の国保の総医療費に占める割合と比べて大きい。(図表3-5-3-2)</li> </ul>

#### ▲ 重症化予防

生活習慣病	
医療費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来</li> <li>・基礎疾患及び「慢性腎臓病(透析なし)」の外来受診率を国と比較すると、「糖尿病」1.07倍、「高血圧症」1.34倍、「脂質異常症」1.10倍、「慢性腎臓病(透析なし)」1.35倍となっている。(図表3-3-4-1)</li> <li>・令和4年度3月時点の被保険者における基礎疾患の有病者数及びその割合は、「糖尿病」が169人(11.6%)、「高血圧症」が378人(26.1%)、「脂質異常症」が269人(18.5%)である。(図表3-3-5-2)</li> </ul>
特定健診	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受診勧奨対象者数は374人で、特定健診受診者の57.0%となっており、5.8ポイント減少している。(図表3-4-6-1)</li> <li>・受診勧奨対象者のうち服薬が確認されていない人の割合は、血糖ではHbA1cが6.5%以上であった60人の21.7%、血圧ではⅠ度高血圧以上であった194人の46.4%、脂質ではLDL-Cが140mg/dL以上であった157人の83.4%、腎機能ではeGFRが45ml/分/1.73㎡未満であった15人の6.7%である。(図表3-4-6-4)</li> </ul>

#### ▲ 生活習慣病発症予防・保健指導

生活習慣病予備群・メタボリックシンドローム	
特定健診	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メタボ該当者</li> <li>・メタボ予備群該当者</li> <li>・特定健診有所見者</li> <li>・令和4年度のメタボ該当者は142人(21.6%)で増加しており、メタボ予備群該当者は91人(13.9%)で増加している。(図表3-4-3-2)</li> <li>・令和4年度の特定保健指導実施率は32.9%である。令和3年度では28.4%と令和2年度から減少しているが、国・県より高い。(図表3-4-4-1)</li> <li>・有所見該当者の割合について、国を100とした標準化比は、男性では「腹囲」「空腹時血糖」「収縮期血圧」「中性脂肪」「HDL-C」の標準化比がいずれの年代においても100を超えている。女性では「空腹時血糖」の標準化比がいずれの年代においても100を超えている。(図表3-4-2-2・図表3-4-2-3)</li> </ul>

▲ ◀早期発見・特定健診

不健康な生活習慣	
健康に関する意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度の特定健診受診率は61.0%である。令和3年度では61.0%と国・県より高い（図表3-4-1-1）</li> <li>令和4年度の特定健診未受診者のうち、生活習慣病のレセプトが出ていない人は165人で、特定健診対象者の15.3%となっている。（図表3-4-1-3）</li> </ul>
特定健診	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣           <ul style="list-style-type: none"> <li>特定健診受診者の質問票の回答割合について、国を100とした標準化比は、男性では「喫煙」「生活改善意欲なし」の標準化比がいずれの年代においても高く、女性では「週3回以上就寝前夕食」「1回30分以上の運動習慣なし」「1日1時間以上運動なし」の標準化比がいずれの年代においても高い。（図表3-4-7-2）</li> </ul> </li> </ul>

▲ ◀健康づくり ◀社会環境・体制整備

地域特性・背景	
片品村の特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢化率は41.9%で、国や県と比較すると、高い。（図表2-1-1-1）</li> <li>国保加入者数は1,451人で、65歳以上の被保険者の割合は42.0%となっている。（図表2-1-5-1）</li> </ul>
健康維持増進のための社会環境・体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人当たり医療費は減少している。（図表3-3-1-1）</li> <li>重複処方該当者数は14人であり、多剤処方該当者数は2人である。（図表3-6-1-1・図表3-6-2-1）</li> <li>後発医薬品の使用割合は89.9%であり、県と比較して7.9ポイント高い。（図表3-6-3-1）</li> </ul>
その他（がん）	<ul style="list-style-type: none"> <li>悪性新生物（「肝及び肝内胆管」「胃」「気管、気管支及び肺」）は死因の上位にある。（図表3-1-1-1）</li> <li>5がんの検診平均受診率は国・県より高い。（図表3-6-4-1）</li> </ul>

## (2) わがまちの生活習慣病に関する健康課題

考察	健康課題	評価指標
<p><b>◀重症化予防</b></p> <p>保健事業により予防可能な重篤疾患をみると、脳血管疾患・虚血性心疾患・腎不全はいずれも令和3年の死因の10位以内に位置している。発生頻度の観点から、予防可能な重篤疾患をみると、脳血管疾患の令和4年度の入院受診率は国の0.66倍と低いものの、令和3年の死因別の死亡者数では1位であり、かつ平成25～29年のSMRは男女ともに100を上回っている為、その発生頻度は国より高い可能性が考えられる。虚血性心疾患においては、急性心筋梗塞のSMRは男女ともに80を下回っており、令和4年度の入院受診率は国の0.72倍と低く、その発生頻度は国より低い可能性がある。腎不全においては、SMRは男女ともに90を下回っており、慢性腎臓病の外来受診率は透析ありが国の0.80倍と低く、透析なしは国の1.35倍と高いことから、腎機能が低下している人が一定数外来治療につながり死亡や人工透析導入といった重篤化が防げている可能性が考えられる。</p> <p>また、これらの重篤な疾患の原因となる動脈硬化を促進する糖尿病・高血圧・脂質異常症の外来受診率は、いずれも国と比較して高い傾向にあるものの、特定健診受診者においては、血糖・血圧・脂質に関して受診勧奨判定値を上回っているけれど当該疾患に関する服薬が出ていないものが、血糖では約2割、血圧では約5割、血中脂質では約8割存在しており、また、腎機能についてもeGFRが受診勧奨判定値に該当しているものの血糖や血圧の薬が出ていないものが約1割存在している。</p> <p>これらの事実から、片品村では基礎疾患や慢性腎臓病を有病しているものの、外来治療に至っていない者が一定数存在しており、より多くの基礎疾患や慢性腎臓病の有病者を適切に治療につなげることで、虚血性心疾患・脳血管疾患・腎不全といった重篤な疾患の発症を抑制できる可能性が考えられる。</p>	<p>#1 重篤な疾患の発症を防ぐことを目的に、健診を受診し受診勧奨判定値を超えたものに対して適切に医療機関の受診を促進することが必要。</p>	<p>【長期指標】 虚血性心疾患の入院受診率 脳血管疾患の入院受診率 年間新規透析導入患者数</p> <p>【中期指標】 特定健診受診者の内、 HbA1cが6.5%以上の人の割合 血圧がⅠ度高血圧以上の人の割合 LDL-Cが140mg/dl以上の人の割合 eGFRが45 ml/分/1.73m<sup>2</sup>未満の人の割合</p>
<p><b>◀生活習慣病発症予防・保健指導</b></p> <p>特定健診受診者の内、メタボ該当者の割合・予備群該当者の割合は増加傾向で推移している。一方特定保健指導実施率については令和3年度に減少しているものの、国・県と比べて高いことから保健指導を実施出来た対象者については悪化を防ぐことが出来ている可能性が考えられる。</p> <p>これらの事実・考察から、更に特定保健指導実施率の向上に力を入れることにより、メタボ該当者・予備群該当者を減少させ、糖尿病・高血圧・脂質異常症の発症予防につながる可能性が考えられる。</p>	<p>#2 メタボ該当者・予備群該当者の悪化を防ぎ、減少させることを目的に、特定保健指導実施率及び終了率の向上が必要。</p>	<p>【中期指標】 特定健診受診者の内、 メタボ該当者の割合 メタボ予備群該当者の割合</p> <p>【短期指標】 特定保健指導実施率 特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率</p>
<p><b>◀早期発見・特定健診</b></p> <p>特定健診受診率は国・県と比べて高く令和3年度には60.9%と、国・県より多くの対象者を健診で捉えることができている。一方で特定健診対象者の内、15.3%の人は健診未受診かつ生活習慣病の治療を受けていない健康状態が不明の状態にあることから、特定健診受診率の更なる向上により、本来医療機関受診勧奨や特定保健指導による介入が必要な人を特定健診で捉えることができる可能性が考えられる。</p>	<p>#3 適切に特定保健指導や重症化予防事業につなぐことを目的に、特定健診受診率の維持・向上が必要。</p>	<p>【短期指標】 特定健診受診率</p>
<p><b>◀健康づくり</b></p> <p>特定健診受診者における質問票の回答割合を見ると、1日30分以上の運動習慣がない人の割合が高い。このような運動習慣が継続した結果、高血糖や高血圧、脂質異常の状態に至り、動脈硬化が進行した結果、最終的に脳血管疾患・虚血性心疾患・腎不全の発症に至る者が一定数いる可能性が考えられる。</p>	<p>#4 生活習慣病の発症・進行、重篤疾患の発症を防ぐことを目的に、被保険者における運動習慣の改善が必要。また、望ましい生活習慣への意識の高揚や正しい知識の普及が必要。</p>	<p>※健康課題に対する事業は健康増進計画で実施</p>

### (3) 一体的実施及び社会環境・体制整備に関する課題

考察	健康課題	評価指標
<p>◀<b>介護予防・一体的実施</b></p> <p>介護認定者における有病割合を見ると、心臓病・脳血管疾患といった重篤な疾患は前期高齢者に比べ後期高齢者の方が多い。また、医療費の観点では、脳出血・脳梗塞・狭心症・心筋梗塞・慢性腎臓病（透析あり）の医療費が総医療費に占める割合が国保被保険者よりも後期高齢者の方が高い。</p> <p>これらの事実から、国保被保険者への生活習慣病の重症化予防が、後期高齢者における重篤疾患発症の予防につながる可能性が考えられる。</p>	<p>#5 将来の重篤な疾患の予防のために国保世代への重症化予防が必要。</p>	<p>※重症化予防に記載の指標と共通</p>
<p>◀<b>社会環境・体制整備</b></p> <p>重複服薬者が14人、多剤服薬者が2人存在することから、医療費適正化・健康増進の観点で服薬を適正化すべき人が一定数存在する可能性がある。</p>	<p>#6 重複・多剤服薬者に対して服薬の適正化が必要。</p>	<p>【短期指標】 重複服薬者の人数</p>
<p>◀<b>その他（がん）</b></p> <p>悪性新生物は死因の上位に位置している。</p> <p>5がん検診の平均受診率は国よりも高く、それぞれの受診率をみると全てのがん検診において受診率は国よりも高いが、さらにはがん検診の受診率を向上し、早期発見・早期治療につなげることで、死亡者数・死亡率を抑制できる可能性が考えられる。</p>	<p>#7 がん検診の受診率を向上させることが必要。</p>	<p>※健康課題に対する事業は健康増進計画で実施</p>

## 第4章 データヘルス計画の目的・目標

第3期データヘルス計画の目的、並びにそれを達成するための目標の整理をした。

～ 県標準化評価指標及び健康課題を解決することで達成したい姿（データヘルス計画の目的）～
平均自立期間の延伸（開始時：男性79.5・女性84.7）

### 群馬県 標準化評価指標

	アウトプット（短期目標）	アウトカム（短期目標）	アウトカム（中・長期目標）
特定健康診査	特定健康診査受診率	特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率	1. 脳血管疾患・虚血性心疾患の入院受診率 2. 健診受診者における収縮期血圧の有所見者割合 3. 健診受診者におけるLDL160mg/dl以上の者の割合 4. 健診受診者におけるHbA1c6.5以上の者の割合
特定保健指導	特定保健指導実施率		
糖尿病性腎臓病重症化予防（受診勧奨）	受診勧奨者の受診率	1. 健診受診者におけるHbA1c8.0以上の者の割合 2. 健診受診者における収縮期血圧の有所見割合 3. 健診受診者におけるLDL160mg/dl以上の者の割合 4. 健診受診者におけるBMI有所見者割合 5. 健診受診者における質問票の喫煙回答割合	年間新規透析導入患者数
糖尿病性腎臓病重症化予防（保健指導）	今回は標準化しないが、各市町村で設定		
	例： プログラムに基づいた保健指導実施者数	例： 1. 健診受診者におけるHbA1c8.0以上の者の割合 2. 健診受診者における収縮期血圧の有所見割合 3. 健診受診者におけるLDL160mg/dl以上の者の割合 4. 健診受診者におけるBMI有所見者割合 5. 健診受診者における質問票の喫煙回答割合	例： 年間新規透析導入患者数

※この評価指標は、健康日本21(第3次)で示されている目標を元に作成されている。

※ストラクチャ及びプロセスの指標は市町村独自に設定する指標であるが、糖尿病性腎臓病重症化予防（保健指導）においては、  
①医療機関との連携体制を整える、②かかりつけ医等の方針を把握する、ことが挙げられている。

### 群馬県 標準化評価指標 開始時の数値一覧

#	指標	該当する事業・分類	開始時 県	開始時 村
①	特定健康診査受診率	特定健康診査・アウトプット（短期）	41.1%	61.0%
②	特定保健指導実施率	特定保健指導・アウトプット（短期）	19.3%	32.9%
③	特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率	特定健康診査・アウトカム（短期） 特定保健指導・アウトカム（短期）	25.3%	15.4%
④	健診受診者におけるHbA1c6.5以上の者の割合	特定健康診査・アウトカム（中長期） 特定保健指導・アウトカム（中長期）	10.6%	9.1%
⑤	脳血管疾患の入院受診率		10.6	6.7
⑥	虚血性心疾患の入院受診率		5.8	3.4
⑦	健診受診者における収縮期血圧の有所見者割合	特定健康診査・アウトカム（中長期）	53.4%	48.6%
⑧	健診受診者におけるLDL160mg/dl以上の者の割合	特定保健指導・アウトカム（中長期） 糖尿病性腎臓病重症化予防・アウトカム（短期）	12.1%	9.8%
⑨	年間新規透析導入患者	糖尿病性腎臓病重症化予防・アウトカム（中長期）	424人	3人
⑩	健診受診者におけるHbA1c8.0以上の者の割合	糖尿病性腎臓病重症化予防・アウトカム（短期）	1.3%	0.9%
⑪	健診受診者におけるBMI有所見者割合		27.6%	29.0%
⑫	健診受診者における質問票の喫煙回答割合		12.1%	19.5%

※開始時の数値はいずれも令和4年度の数値を記載（健診関連の数値について、①②③は法定報告値（速報値）、その他は令和5年9月時点のKDB帳票の数値）

片品村\_評価指標・目標

#	長期指標	開始時	目標値	目標値基準
①	虚血性心疾患の入院受診率	3.4	減少	—
②	脳血管疾患の入院受診率	6.7	減少	—
③	年間新規透析導入患者数	3人	0人	村独自に策定
	中期指標	開始時	目標値	目標値基準
④	特定健診受診者の内、HbA1cが6.5%以上の人の割合	9.1%	減少	—
⑤	特定健診受診者の内、血圧がⅠ度高血圧以上の人の割合	29.6%	減少	—
⑥	特定健診受診者の内、LDL-Cが140mg/dl以上の人の割合	23.9%	減少	—
⑦	特定健診受診者の内、eGFRが45 ml/分/1.73m <sup>2</sup> 未満の人の割合	2.3%	減少	—
⑧	特定健診受診者の内、メタボ該当者の割合	21.6%	20.6%	国・令和4年度
⑨	特定健診受診者の内、メタボ予備群該当者の割合	13.9%	11.1%	国・令和4年度
	短期指標	開始時	目標値	目標値基準
⑩	特定健診受診率	61.0%	70%	村独自に策定
⑪	特定保健指導実施率	32.9%	45%	村独自に策定
⑫	特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率	15.4%	24.3%	県・令和4年度
⑬	重複服薬者の人数	14人	3人	村独自に策定

※⑩特定保健指導実施率は国の目標値60.0%に対し、村独自で達成しうる挑戦可能な数値として設定している



## 第5章 保健事業の内容

### 1 保健事業の整理

第2期に実施した保健事業の振り返りを行った上で、第3期データヘルス計画における目的・目標を達成するための保健事業を整理した。

#### (1) 重症化予防

##### ① 糖尿病性腎臓病重症化予防事業

実施計画	
事業概要	<p>〈目的〉 糖尿病が重症化するリスクの高い未受診者などを、適切な治療に結びつけるとともに、糖尿病で通院している重症化リスクの高い者に対して保健指導を行うことにより、重症化を防ぐ。</p> <p>〈事業内容〉県の糖尿病性腎臓病重症化プログラムに準じて実施。 受診勧奨 特定健診のデータ及びレセプトデータにより、対象者を年2回抽出する。 医療機関未受診者には、医療機関への受診を促す通知により勧奨を行う。 受診勧奨連絡票により医療機関との連携を行い、医師からの返信とレセプトにより受診を確認。 体制が整い次第、受診が確認できない場合は、電話や訪問等で再勧奨を行い、医師からの返信とレセプトで受診を確認。また、受診者には必要に応じて受診後の治療中断防止のためのフォローを行い、受診勧奨を強化する。</p> <p>保健指導 糖尿病にて治療中の患者を主治医から紹介していただき、対象者の状況に応じて、食事・運動生活等の保健指導を初回及び3ヶ月後に継続して実施。主治医と治療内容を共有し保健指導を3回実施する。 今までで医療機関が抽出する対象者がおらず、実施ができなかったため、今後は体制が整い次第、村が対象者抽出を行い、保健指導を実施していきたい。</p>
対象者	<p>受診勧奨対象者 <b>特定健診受診者</b> 健診データ及びレセプトデータから、次のアとイいずれにも該当する者。アについては、①と②のいずれにも該当する場合と、利根沼田地区独自の①のみ該当する者も対象者として抽出する。 ア 健診データ ①「空腹時血糖126mg/dl（随時血糖200mg/dl）以上」または「HbA1c6.5%以上」 ②「尿蛋白（+）以上」又は「eGFR60ml/分/1.73m<sup>2</sup>未満」 イ レセプトデータ 直近1年間に糖尿病の受診歴のない者 <b>特定健診未受診者</b> レセプトデータから、過去に糖尿病受診歴があるが、直近1年間に糖尿病受診歴がない者。</p> <p>保健指導対象者 <b>保険者が抽出する場合</b> 健診データ及びレセプトデータから、次の①と②いずれにも該当し、本人及び主治医の同意が得られた者。 ①「空腹時血糖126mg/dl（随時血糖200mg/dl）以上」または「HbA1c6.5%以上」 ②「尿蛋白（+）以上」又は「eGFR60ml/分/1.73m<sup>2</sup>未満」 <b>医療機関が抽出する場合</b> 糖尿病治療中に、糖尿病性腎臓病と診断された者のうち、かかりつけ医が生活指導や食事指導により病状の維持・改善の可能性がある者と判断した者。</p>
ストラクチャー	<p>&lt;実施体制&gt; 保健福祉課保健係：保健師（対象者の抽出、受診勧奨通知の発送、受診勧奨のための訪問、保健指導・手順書の作成・事業の効果検証）、栄養士（栄養指導）、保健福祉課国保係（効果検証） &lt;関係機関&gt; 沼田利根医師会</p>
プロセス	<p>&lt;実施方法&gt;レセプトを活用した対象者の抽出、通知・電話等による医療機関受診勧奨、電話・訪問による保健指導 &lt;対象者&gt;上記対象者</p>

評価指標・目標値							
ストラクチャー	係内の事業の役割分担や、課内の連携・協力は得られたか。 医師会への事業周知・説明の実施は行えたか。 保健指導が実施できる体制が構築できているか。 事業実施のための予算を確保することができたか。 プログラム実施手順書等の作成や沼田利根医師会への事業説明・協力依頼のための打ち合わせを年1回設けることにより、実施内容を共有する仕組みが構築できたか。						
プロセス	事業実施にかかる対象者の抽出、受診勧奨、保健指導、評価等の一連の過程は計画通りに実施できたか。						
事業アウトプット	【項目名】受診勧奨実施率（再勧奨含む）						
	開始時	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	保健指導実施者数						
開始時	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	
0人	1人	2人	3人	3人	3人	3人	
事業アウトカム	【項目名】受診勧奨者の医療機関受診率（連絡票とレセプトにて把握）						
	開始時	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
	60%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	保健指導実施（終了）者の改善状況（HbA1c、血糖値）						
開始時	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	
—	60%	60%	60%	60%	60%	60%	
評価時期	年度末						

## ② 受診勧奨判定値対象者の受診勧奨事業

実施計画															
事業概要	<p>〈目的〉 基礎疾患や慢性腎臓病の有病者を適切に治療につなげることで、虚血性心疾患・脳血管疾患といった重篤な疾患の発症を抑制するため、新規事業を実施する。特定健診受診者のうち受診勧奨判定値に該当する方に、早期受診を促し疾病の発症や重症化を防ぐことを目的とする。令和7年度の事業開始に向け、令和6年度に体制を構築する。医師会等関係機関と事業実施方法や対象者に関する次の内容について協議の上、手順書を作成し実施する。</p> <p>〈事業内容〉 特定健診の結果から、受診勧奨判定値に該当する受診者をレセプトから抽出する。 一定期間ごとにレセプトや連絡票により医療機関受診状況を確認する。 未医療者に対し、通知による受診勧奨を4ヶ月に1回程度行う。</p>														
対象者	<p>特定健診受診者の内、血圧、脂質異常の項目において、受診勧奨判定値に該当した者 〈受診勧奨判定値〉 収縮期血圧 160mmHg以上 又は 拡張期血圧 100mmHg以上（Ⅱ度高血圧） LDLコレステロール 160mg/dℓ以上の者。</p>														
ストラクチャー	<p>〈実施体制〉保健係（対象者抽出、通知による受診勧奨、手順書の作成、効果検証） 〈関係機関〉沼田利根医師会、健康づくり財団</p>														
プロセス	<p>〈実施方法〉レセプトを活用した対象者の抽出、通知による医療機関受診勧奨 〈対象者〉 上記対象者</p>														
評価指標・目標値															
ストラクチャー	<p>医師会への事業周知・説明・報告は行えたか。 課内の連携・協力は得られたか。</p>														
プロセス	<p>対象者抽出は適切に行えたか。 受診勧奨の方法は効果的であったか。</p>														
事業アウトプット	<p>【項目名】 受診勧奨実施率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開始時</th> <th>令和6年度</th> <th>令和7年度</th> <th>令和8年度</th> <th>令和9年度</th> <th>令和10年度</th> <th>令和11年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	開始時	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	—	—	100%	100%	100%	100%	100%
開始時	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度									
—	—	100%	100%	100%	100%	100%									
事業アウトカム	<p>【項目名】 受診勧奨を実施した人の医療機関受診率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開始時</th> <th>令和6年度</th> <th>令和7年度</th> <th>令和8年度</th> <th>令和9年度</th> <th>令和10年度</th> <th>令和11年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	開始時	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	—	—	100%	100%	100%	100%	100%
開始時	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度									
—	—	100%	100%	100%	100%	100%									
評価時期	年度末														

## (2) 生活習慣病発症予防・保健指導

### ① 特定保健指導

実施計画							
事業概要	<p>〈目的〉 特定健診結果に基づき、メタボ該当者及び予備群の悪化を防ぎ減少させるために特定保健指導を実施する。</p> <p>〈事業内容〉 集団健診受診対象者は、委託により健診当日分割実施する。その後電話や文章による継続支援を行い評価する。 それ以外の対象者については、直営にて体制が整い次第実施する。健診結果を一定期間ごとに階層化し、勧奨通知を発送し保健指導を実施する。ドック受診者は、窓口で費用助成申請の際に保健指導を促す。 終了者へはジム、スパ利用券等のインセンティブを発送する。</p>						
対象者	特定保健指導対象者						
ストラクチャー	<p>〈実施体制〉保健福祉課保健係（対象者の抽出、対象者への勧奨、中途脱落者への連絡、インセンティブの発送等、効果検証） 保健福祉課国保係（予算編成、業務委託に係る費用の支払い、受診券の発行等、効果検証）</p> <p>〈関係機関〉沼田利根医師会 健康づくり財団（対象者の抽出、特定保健指導の実施）</p>						
プロセス	<p>〈実施方法〉 集団健診対象者は健診当日分割実施 その他の対象者は直営にて実施予定</p> <p>〈対象者〉 特定保健指導対象者</p>						
評価指標・目標値							
ストラクチャー	<p>課内の連携・協力は得られたか。 予算の確保は適切に行えたか。 委託先関係機関と協議、連携ができたか。 指導スケジュール、指導内容の把握ができたか</p>						
プロセス	<p>住民の満足度を確認できたか。 保健指導ツール・指導方法の検討及び見直しが見直しができたか。</p>						
事業アウトプット	【項目名】 特定保健指導実施率						
	開始時	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
	32.9%	35%	35%	40%	40%	45%	45%
事業アウトカム	【項目名】 特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率						
	開始時	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
	—	増加	増加	増加	増加	増加	増加
評価時期	翌年度の7月頃（委託の特定保健指導が終了する時期） 法定報告時						

### (3) 早期発見・特定健診

#### ① 特定健康診査受診率向上支援事業

実施計画							
事業概要	〈目的〉 特定保健指導や重症化予防事業につなぐことを目的に、特定健診受診率の維持・向上を行う。 〈事業内容〉 特定健診の事業内容は第10章第4期特定健康診査等実施計画の実施方法による。過去の特定健診の受診歴や性格特性を分析し、数種類の受診勧奨通知を各特性や受診歴等の対象者に発送する。年3回発送。						
対象者	対象者抽出時点で未受診の者。						
ストラクチャー	〈実施体制〉保健係（対象者除外者データ作成、対象者抽出、通知作成、発送、事業の進捗状況や効果検証等の評価） 〈関係機関〉群馬県国保連合会、委託業者						
プロセス	〈実施方法〉通知による受診勧奨通知を年3回発送する。 〈対象者〉上記対象者						
評価指標・目標値							
ストラクチャー	関係機関との打ち合わせは適切に行えたか。課内の連携・協力は得られたか。事業実施のための予算を確保することができたか。						
プロセス	対象者の抽出、勧奨通知の内容、評価等は適切であったか。						
事業アウトプット	【項目名】受診勧奨通知率（受診勧奨者／本事業対象者）						
	開始時	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
	72%	70%	70%	70%	70%	70%	70%
事業アウトカム	【項目別】受診勧奨者の受診率						
	開始時	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
	13.6%	15%	18%	20%	22%	23%	25%
	【項目名】特定健診受診率						
	開始時	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
61.0%	65%	65%	65%	70%	70%	70%	
評価時期	年度末・法定報告の時期						

#### (4) 社会環境・体制整備

##### ① 重複服薬保健指導事業

実施計画							
事業概要	<p>&lt;目的&gt; 重複服薬による薬物相互作用及び飲み忘れ・飲み間違いによる健康被害を防ぎ健康の保持・増進を図るために、保健指導を実施し服薬の適正化を図る。</p> <p>&lt;事業内容&gt; 対象者に適正服薬を呼びかける通知を送送する。 重複処方が多い対象者を訪問し、適切な受診や服薬を促すための服薬指導を実施する。訪問実施後6ヶ月後にレセプトで改善状況の評価を行う。</p>						
対象者	同一月内に2医療機関以上で同一薬効の薬剤を2種類以上重複処方を受けている者。						
ストラクチャー	<p>&lt;実施体制&gt;保健福祉課保健係：保健師（対象者の抽出、通知の発送、服薬指導のための訪問、事業の効果検証）、保健福祉課国保係の協力 関係機関：沼田利根医師会</p>						
プロセス	<p>&lt;実施方法&gt;レセプトを活用し対象者を抽出する。 適正服薬を呼びかける通知の発送を行う。 対象者の内、指導が必要と考えられる人に訪問による服薬指導を行う。</p> <p>&lt;対象者&gt;同一月内に2医療機関以上で2種類以上の重複処方を受けている者に通知発送を行う。 レセプトを確認し、訪問による指導が必要と考えられる人に対し、保健師が訪問指導を行う。</p>						
評価指標・目標値							
ストラクチャー	係内の事業の役割分担や、課内の連携・協力は得られたか。						
プロセス	対象者の抽出、服薬指導、評価等、事業実施にかかる一連の過程は計画通りに実施できたか。関係機関への説明、協力の要請など行えたか。						
事業アウトプット	【項目名】通知発送率						
	開始時	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
	—	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	【項目名】服薬訪問指導実施人数						
開始時	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	
—	1人	2人	3人	4人	5人	5人	
事業アウトカム	【項目名】重複服薬者の人数						
	開始時	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
	11人	9人	7人	5人	3人	3人	3人
評価時期	年度末						

## 第6章 計画の評価・見直し

第6章から第9章はデータヘルス計画策定の手引きに従った運用とする。以下、手引きより抜粋する。

### 1 評価の時期

#### (1) 個別事業計画の評価・見直し

個別の保健事業の評価は年度ごとに行うことを基本として、計画策定時に設定した保健事業ごとの評価指標に基づき、事業の効果や目標の達成状況を確認する。目標の達成状況が想定に達していない場合は、ストラクチャーやプロセスが適切であったか等を確認の上、目標を達成できなかった原因や事業の必要性等を検討して、次年度の保健事業の実施やデータヘルス計画の見直しに反映させる。

#### (2) データヘルス計画の評価・見直し

設定した評価指標に基づき、計画の最終年度のみならず、中間時点等計画期間の途中で進捗確認及び中間評価を実施する。また、計画の最終年度においては、その次の期の計画の策定を円滑に行うため、当該最終年度の上半期に仮評価を行う。

### 2 評価方法・体制

計画は、中長期的な計画運営を行うものであることを踏まえ、短期では評価が難しいアウトカム（成果）指標を中心とした評価指標による評価を行う。評価に当たっては、市町村国保における保健事業の評価を広域連合と連携して行うなど、必要に応じ他の保険者等との連携・協力体制を整備する。

## 第7章 計画の公表・周知

本計画は、被保険者や保健医療関係者等が容易に知り得るべきものとするのが重要であり、このため、国指針において、公表するものとされている。具体的には、ホームページや広報誌を通じた周知のほか、都道府県、国保連、保健医療関係者経由で医療機関等に周知し、配布する。また、これらの公表・配布に当たっては、被保険者、保健医療関係者の理解を促進するため、計画の要旨等をまとめた概要版を策定し併せて公表する。

## 第8章 個人情報の取扱い

計画の策定に当たっては、活用するデータの種類や活用方法が多岐にわたり、特にKDBシステムを活用する場合等には、健診結果やレセプトデータ情報を突合し加工した統計情報と、個別の個人情報とが存在する。

特に、健診データやレセプトに関する個人情報は、一般的には「個人情報の保護に関する法律」（平成15年法律第57号。以下「個人情報保護法」という。）に定める要配慮個人情報に該当するため、慎重に取扱う。片品村では、個人情報の保護に関する各種法令とガイドラインに基づき、庁内等での利用、外部委託事業者への業務委託等の各場面で、その保有する個人情報の適切な取扱いが確保されるよう措置を講じる。

## 第9章 地域包括ケアに係る取組及びその他の留意事項

市町村国保では、介護保険サービスを利用する被保険者が相対的に多いという特性があることから、本計画では、国保及び後期高齢者の課題について一体的実施の観点を踏まえながら分析を行い、対象者に対する保健事業の実施や計画の評価を行う。また、関係機関と連携を実施しながら、被保険者を支えるための地域づくりや人材育成を推進する。



## 第10章 第4期 特定健康診査等実施計画

### 1 計画の背景・趣旨

#### (1) 計画策定の背景・趣旨

生活習慣病の発症や重症化予防により、国民の健康保持及び医療費適正化を達成することを目的に、保険者においては平成20年度より「高齢者の医療の確保に関する法律」（昭和57年法律第80号）に基づき、特定健康診査（以下「特定健診」という。）及び特定保健指導の実施が義務付けられてきた。

片品村においても、同法律に基づき作成された特定健康診査等基本方針に基づき、実施計画を策定し、特定健診の受診率及び特定保健指導の実施率の向上に取り組んできたところである。

近年、全世代型社会保障の構築に向け、生活習慣病の発症や重症化予防の重要性は一層高まっており、より効率的かつ効果的な特定健診及び特定保健指導の実施が求められている。令和5年3月に発表された「特定健康診査等実施計画作成の手引き（第4版）」「特定健康診査・特定保健指導の円滑な実施に向けた手引き（第4版）」では、成果を重視した特定保健指導の評価体系の見直し、特定保健指導の成果等の見える化の推進などの新たな方向性が示され、成果（アウトカム）に着目したより効率的かつ効果的な事業運営が求められることとなった。

本計画は、第3期計画期間（平成30年度から令和5年度）が終了することから、国での方針の見直しの内容を踏まえ、片品村の現状を考慮した事業の運営を図ることを目的に策定するものである。

## (2) 特定健診・特定保健指導を巡る国の動向

### ① エビデンスに基づく効率的かつ効果的な特定健診・特定保健指導の推進

わが国においては、厳しい財政状況の中、より効率的かつ効果的な財政運営が必要とされており、国を挙げてエビデンスに基づく政策運営が進められている。

特定健診及び特定保健指導に関しても、第3期中に、大規模実証事業や特定保健指導のモデル実施の効果検証を通じたエビデンスの構築、並びにエビデンスに基づく効果的な特定健診及び特定保健指導が推進されてきたところである。

「特定健康診査等実施計画作成の手引き（第4版）」「特定健康診査・特定保健指導の円滑な実施に向けた手引き（第4版）」においても、特定健診及び特定保健指導の第一の目的は生活習慣病に移行させないことであることに立ち返り、対象者の行動変容につながり成果が出たことを評価するという方針で、成果の見える化と事業の効果分析に基づいた効果的な特定健診及び特定保健指導が求められることとなった。

### ② 第4期特定健診・特定保健指導の見直しの方向性

令和5年3月に発表された「特定健康診査・特定保健指導の円滑な実施に向けた手引き（第4版）」での主な変更点は図表10-1-2-1のとおりである。

片品村においても、これらの変更点を踏まえて第4期特定健診及び特定保健指導を実施していく。

図表10-1-2-1：第4期特定健診・特定保健指導の主な変更点

区分	変更点の概要	
特定健診	基本的な健診の項目	・ 血中脂質検査の中性脂肪は、やむを得ない場合は随時中性脂肪での測定を可とする。
	標準的な質問票	・ 喫煙や飲酒の項目は、より正確にリスクを把握するために詳細な選択肢へ修正。 ・ 特定保健指導の項目は、利用意向から利用歴を確認する内容へ修正。
特定保健指導	評価体系	・ 実績評価にアウトカム評価を導入。主要達成目標を腹囲2cm・体重2kg減、その他目標を生活習慣病予防につながる行動変容（食習慣・運動習慣・喫煙習慣・休養習慣・その他生活習慣の改善）や腹囲1cm・体重1kg減と設定。 ・ プロセス評価は、個別支援、グループ支援、電話及び電子メール等とする。時間に比例したポイント設定ではなく介入1回ごとの評価とし、支援Aと支援Bの区別は廃止。ICTを活用した場合も同水準の評価。特定健診実施後の特定保健指導の早期実施を新たに評価。 ・ モデル実施は廃止。
	その他	①初回面接の分割実施の条件緩和 ・ 初回面接は、特定健診実施日から1週間以内であれば初回面接の分割実施と取り扱う。 ②生活習慣病に係る服薬を開始した場合の実施率の考え方 ・ 特定健診または特定保健指導開始後に服薬開始の場合、特定保健指導の対象者として分母に含めないことを可能とする。 ③生活習慣病に係る服薬中の者への服薬状況の確認、及び特定保健指導対象者からの除外 ・ 服薬中の者の特定保健指導対象者からの除外に当たり、確認する医薬品の種類、確認手順等を保険者があらかじめ定めている場合は、専門職以外でも事実関係の再確認と同意取得を行うことを可能とする。 ④運用の改善 ・ 看護師が特定保健指導を行える暫定期間を第4期期間においても延長する。

【出典】特定健康診査・特定保健指導の円滑な実施に向けた手引き（第4版） 改変

## (3) 計画期間

本計画の期間は、令和6年度（2024年）から令和11年度（2029年）までの6年間である。

## 2 第3期計画における目標達成状況

### (1) 全国の状況

特定健診及び特定保健指導の目標としては、特定健診受診率及び特定保健指導実施率の向上、並びにメタボリックシンドローム該当者及びメタボリックシンドローム予備群該当者（以下、それぞれメタボ該当者、及びメタボ予備群該当者という。）の減少が掲げられている。

第3期計画においては、全保険者で特定健診受診率を令和5年度までに70.0%まで、特定保健指導実施率を45.0%まで引き上げることが目標とされていたが、令和3年度時点で全保険者の特定健診平均受診率は56.5%、特定保健指導平均実施率は24.6%となっており、目標値から大きく乖離して目標達成が困難な状況にある（図表10-2-1-1）。市町村国保の特定健診受診率及び特定保健指導実施率も、全保険者と同様の傾向となっている。

図表10-2-1-1：第3期計画における全保険者及び市町村国保の特定健診受診率・特定保健指導実施率の目標値及び実績

	全保険者		市町村国保				
	令和5年度 目標値	令和3年度 実績	令和5年度 目標値	令和3年度 実績			
				全体	特定健診対象者数		
				10万人以上	5千人以上 10万人未満	5千人未満	
特定健診平均受診率	70.0%	56.5%	60.0%	36.4%	28.2%	37.6%	42.5%
特定保健指導平均実施率	45.0%	24.6%	60.0%	27.9%	13.9%	27.7%	44.9%

【出典】厚生労働省 特定健康診査等実施計画作成の手引き（第4版）  
厚生労働省 2021年度 特定健康診査・特定保健指導の実施状況

メタボ該当者及びメタボ予備群該当者の減少率は、令和5年度までに平成20年度比25.0%以上減が目標として設定されていたが、令和3年度時点では13.8%減となっており、目標達成が厳しい状況にある（図表10-2-1-2）。

なお、メタボ該当者及びメタボ予備群該当者の減少率は、保険者ごとに目標設定されているものではなく、特定保健指導の効果を検証するための指標として保険者が活用することを推奨されているものである。

図表10-2-1-2：第3期計画におけるメタボ該当者・メタボ予備群該当者の減少率の目標値及び実績

	令和5年度 目標値 全保険者	令和3年度 実績 全保険者
メタボ該当者・メタボ予備群該当者の減少率（平成20年度比）	25.0%	13.8%

【出典】厚生労働省 特定健康診査等実施計画作成の手引き（第4版）  
厚生労働省 2021年度 特定健康診査・特定保健指導の実施状況

※平成20年度と令和3年度の推定数の差分を平成20年度の推定数で除して算出

※推定数は、特定健診の実施率及び年齢構成比の変化による影響を排除するため、性・年齢階層別に各年度の特定健診受診者に占める出現割合に各年度の住民基本台帳の人口を乗じて算出

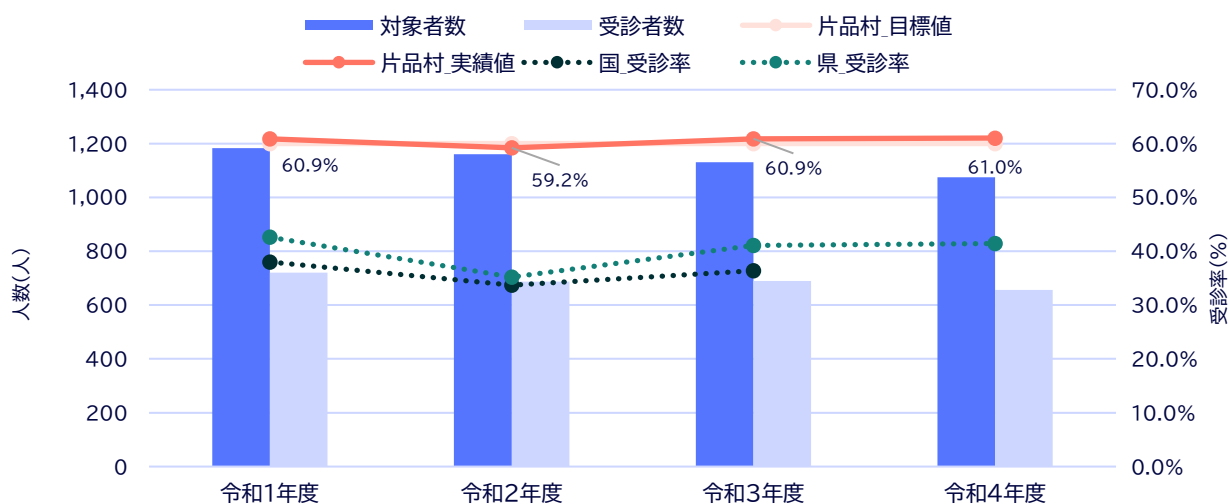
## (2) 片品村の状況

### ① 特定健診受診率

第3期計画における特定健診の受診状況をみると（図表10-2-2-1）、特定健診受診率は、前期計画終了年度にあたる令和5年度の目標値を60.0%としていたが、令和4年度の速報値では61.0%となっており、令和1年度の特定健診受診率60.9%と比較すると0.1ポイント上昇している。令和3年度までで国や県の推移をみると、令和1年度と比較して令和3年度の特定健診受診率は低下している。

男女別及び年代別における令和1年度と令和4年度の特定健診受診率をみると（図表10-2-2-2・図表10-2-2-3）、男性では60-64歳で最も伸びており、50-54歳で最も低下している。女性では60-64歳で最も伸びており、40-44歳で最も低下している。

図表10-2-2-1：第3期計画における特定健診の受診状況（法定報告値）



		令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
特定健診受診率	片品村_目標値	60.0%	60.0%	60.0%	60.0%	60.0%
	片品村_実績値	60.9%	59.2%	60.9%	61.0%	-
	国	38.0%	33.7%	36.4%	-	-
	県	42.6%	35.2%	41.1%	41.4%	-
特定健診対象者数（人）		1,183	1,160	1,131	1,075	-
特定健診受診者数（人）		720	687	689	656	-

【出典】目標値：前期計画

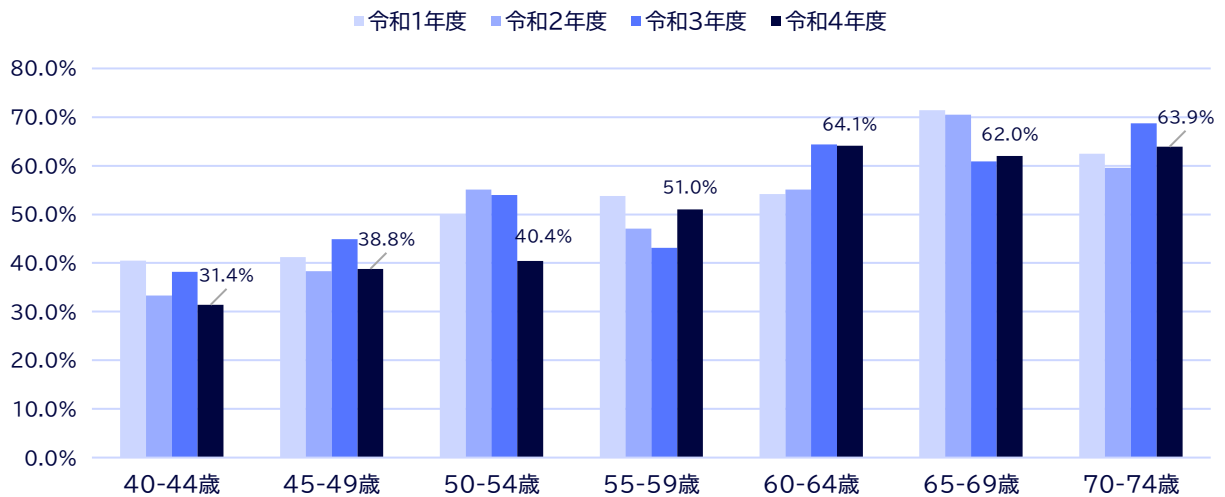
実績値：厚生労働省 2019年度から2021年度 特定健診・特定保健指導の実施状況（保険者別）

公益社団法人 国民健康保険中央会 市町村国保特定健康診査・特定保健指導実施状況報告書 令和元年度から令和3年度

※表内の「国」とは、市町村国保全体を指す（以下同様）

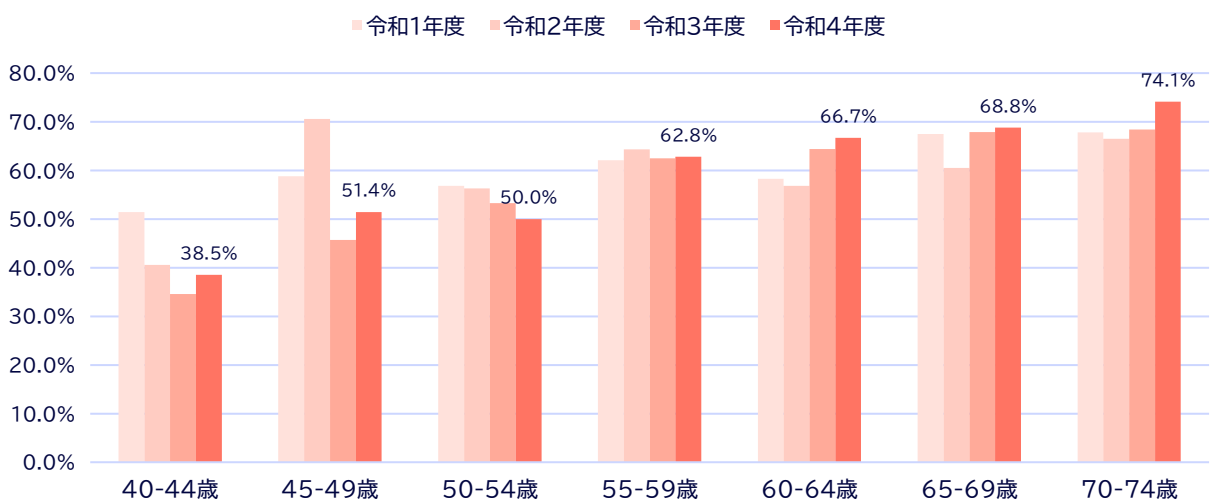
※令和4年度の国の法定報告値及び令和5年度法定報告値は令和5年11月時点で未公表のため、表・グラフは「-」と表記している

図表10-2-2-2：年齢階層別\_特定健診受診率\_男性



	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
令和1年度	40.5%	41.2%	50.0%	53.8%	54.2%	71.4%	62.5%
令和2年度	33.3%	38.3%	55.1%	47.1%	55.1%	70.5%	59.6%
令和3年度	38.2%	44.9%	54.0%	43.1%	64.4%	60.9%	68.7%
令和4年度	31.4%	38.8%	40.4%	51.0%	64.1%	62.0%	63.9%
令和1年度と令和4年度の差	-9.1	-2.4	-9.6	-2.8	9.9	-9.4	1.4

図表10-2-2-3：年齢階層別\_特定健診受診率\_女性



	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
令和1年度	51.4%	58.8%	56.8%	62.1%	58.3%	67.5%	67.8%
令和2年度	40.6%	70.6%	56.3%	64.3%	56.8%	60.5%	66.5%
令和3年度	34.6%	45.7%	53.3%	62.5%	64.4%	67.9%	68.4%
令和4年度	38.5%	51.4%	50.0%	62.8%	66.7%	68.8%	74.1%
令和1年度と令和4年度の差	-12.9	-7.4	-6.8	0.7	8.4	1.3	6.3

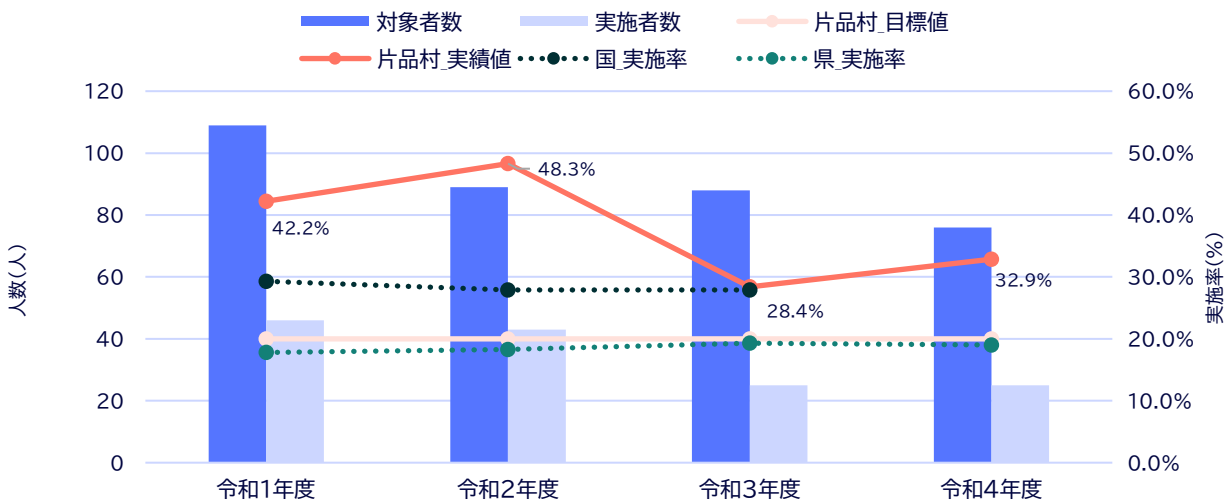
【出典】KDB帳票 S21\_008-健診の状況 令和1年度から令和4年度 累計

## ② 特定保健指導実施率

第3期計画における特定保健指導の実施状況をみると（図表10-2-2-4）、特定保健指導実施率は、前期計画終了年度にあたる令和5年度の目標値を20.0%としていたが、令和4年度の速報値では32.9%となっており、令和1年度の実施率42.2%と比較すると9.3ポイント低下している。令和3年度までの実施率でみると国・県より高い。

支援区分別での特定保健指導実施率の推移をみると（図表10-2-2-5）、積極的支援では令和4年度は33.3%で、令和1年度の実施率42.5%と比較して9.2ポイント低下している。動機付け支援では令和4年度は32.7%で、令和1年度の実施率42.0%と比較して9.3ポイント低下している。

図表10-2-2-4：第3期計画における特定保健指導の実施状況（法定報告値）



		令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
特定保健指導 実施率	片品村_目標値	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%
	片品村_実績値	42.2%	48.3%	28.4%	32.9%	-
	国	29.3%	27.9%	27.9%	-	-
	県	17.8%	18.3%	19.3%	19.0%	-
特定保健指導対象者数（人）		109	89	88	76	-
特定保健指導実施者数（人）		46	43	25	25	-

【出典】目標値：前期計画

実績値：厚生労働省 2019年度から2021年度 特定健診・特定保健指導の実施状況（保険者別）

公益社団法人 国民健康保険中央会 市町村国保特定健康診査・特定保健指導実施状況報告書 令和元年度から令和3年度

※令和4年度の国の法定報告値及び令和5年度法定報告値は令和5年11月時点で未公表のため、表・グラフは「-」と表記している

図表10-2-2-5：支援区分別特定保健指導の実施率・対象者数・実施者数

		令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
積極的支援	実施率	42.5%	51.5%	14.3%	33.3%
	対象者数（人）	40	33	28	27
	実施者数（人）	17	17	4	9
動機付け支援	実施率	42.0%	46.4%	35.0%	32.7%
	対象者数（人）	69	56	60	49
	実施者数（人）	29	26	21	16

【出典】特定健診等データ管理システム TKCA015 令和1年度から令和4年度

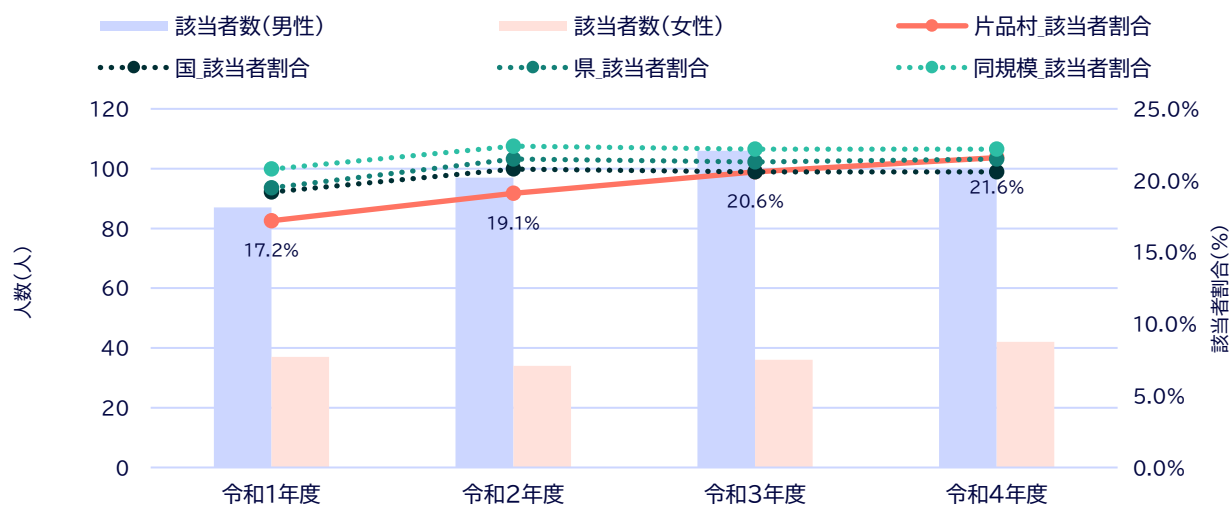
### ③ メタボリックシンドロームの該当者数・予備群該当者数

特定健診受診者におけるメタボ該当者数の数を見ると（図表10-2-2-6）、令和4年度におけるメタボ該当者数は142人で、特定健診受診者の21.6%であり、国・県より高い。

前期計画中の推移をみると、メタボ該当者数は増加しており、特定健診受診者に占める該当割合は上昇している。

男女別にみると、メタボ該当者数はいずれの年度においても男性の方が多く、特定健診受診者に占める該当割合はいずれの年度においても男性の方が高い。

図表10-2-2-6：特定健診受診者におけるメタボ該当者数・割合



メタボ該当者	令和1年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	該当者数 (人)	割合	該当者数 (人)	割合	該当者数 (人)	割合	該当者数 (人)	割合
片品村	124	17.2%	131	19.1%	142	20.6%	142	21.6%
男性	87	23.8%	97	27.9%	106	30.3%	100	31.7%
女性	37	10.5%	34	10.0%	36	10.6%	42	12.3%
国	-	19.2%	-	20.8%	-	20.6%	-	20.6%
県	-	19.5%	-	21.5%	-	21.3%	-	21.5%
同規模	-	20.8%	-	22.4%	-	22.2%	-	22.2%

【出典】 KDB帳票 S21\_001-地域の全体像の把握 令和1年度から令和4年度 累計

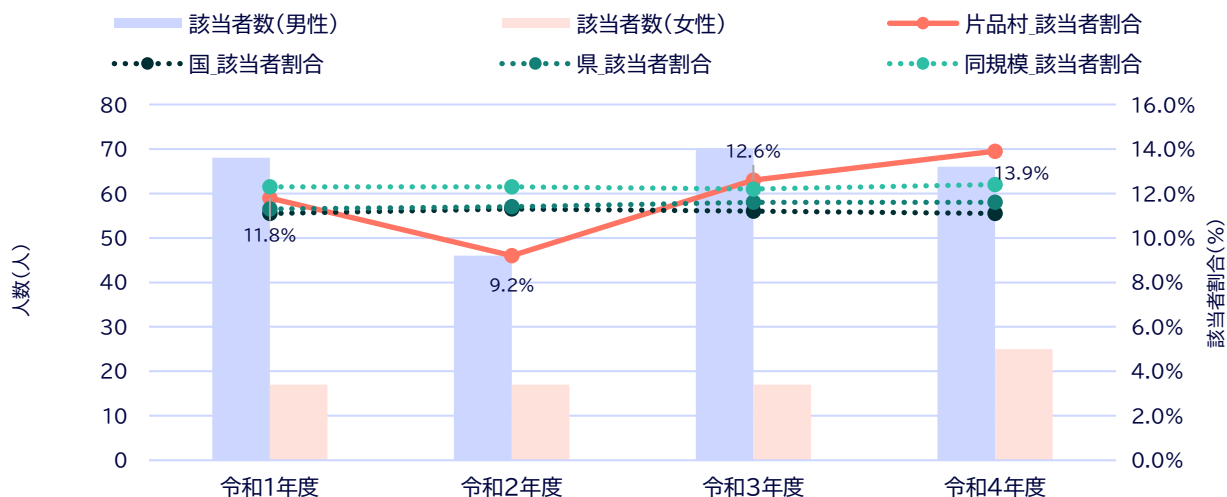


特定健診受診者におけるメタボ予備群該当者数をみると（図表10-2-2-7）、令和4年度におけるメタボ予備群該当者数は91人で、特定健診受診者における該当割合は13.9%で、国・県より高い。

前期計画中の推移をみると、メタボ予備群該当者数は増加しており、特定健診受診者における該当割合は上昇している。

男女別にみると、メタボ予備群該当者数はいずれの年度においても男性の方が多く、特定健診受診者における該当割合はいずれの年度においても男性の方が高い。

図表10-2-2-7：特定健診受診者におけるメタボ予備群該当者数・割合



メタボ予備群 該当者	令和1年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	該当者数(人)	割合	該当者数(人)	割合	該当者数(人)	割合	該当者数(人)	割合
片品村	85	11.8%	63	9.2%	87	12.6%	91	13.9%
男性	68	18.6%	46	13.2%	70	20.0%	66	21.0%
女性	17	4.8%	17	5.0%	17	5.0%	25	7.3%
国	-	11.1%	-	11.3%	-	11.2%	-	11.1%
県	-	11.3%	-	11.4%	-	11.6%	-	11.6%
同規模	-	12.3%	-	12.3%	-	12.2%	-	12.4%

【出典】 KDB帳票 S21\_001-地域の全体像の把握 令和1年度から令和4年度 累計

参考：メタボリックシンドローム判定値の定義

メタボ該当者	腹囲	以下の追加リスクのうち2つ以上該当
メタボ予備群該当者	85cm(男性)	以下の追加リスクのうち1つ該当
	90cm(女性)以上	
追加リスク	血糖	空腹時血糖110mg/dL以上(空腹時血糖の結果値が存在しない場合、HbA1c 6.0%以上)
	血圧	収縮期血圧130mmHg以上、または拡張期血圧85mmHg以上
	脂質	中性脂肪150mg/dL以上、またはHDLコレステロール40mg/dL未満

【出典】 厚生労働省 メタボリックシンドロームの診断基準



### (3) 国の示す目標

第4期計画においては図表10-2-3-1のとおりであり、令和11年度までに特定健診の全国平均受診率70%以上、特定保健指導の全国平均実施率45%以上を達成することが設定されている。目標値は、第3期計画目標の目標値から変更されていない。市町村国保における目標値も第3期からの変更はなく、特定健診受診率及び特定保健指導実施率のいずれも60%以上と設定されている。

また、メタボ該当者及びメタボ予備群の減少率についても、第3期に引き続き、平成20年度比25%以上減と設定されている。

図表10-2-3-1：第4期計画における国が設定した目標値

	全国（令和11年度）	市町村国保（令和11年度）
特定健診受診率	70%以上	60%以上
特定保健指導の実施率	45%以上	60%以上
メタボ該当者・メタボ予備群該当者の減少率（平成20年度比）	25%以上減	

【出典】厚生労働省 第4期特定健康診査等実施計画期間における保険者種別の目標値について

### (4) 片品村の目標

特定健診受診率及び特定保健指導実施率の目標値は図表10-2-4-1のとおりであり、令和11年度までに特定健診受診率を70.0%、特定保健指導実施率を45.0%まで引き上げるように設定する。

特定健診対象者及び特定保健指導実施者の見込み数については、図表10-2-4-2のとおりである。

図表10-2-4-1：特定健診受診率・特定保健指導実施率の目標値

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
特定健診受診率	65.0%	65.0%	65.0%	70.0%	70.0%	70.0%
特定保健指導実施率	35.0%	35.0%	40.0%	40.0%	45.0%	45.0%

図表10-2-4-2：特定健診対象者・特定保健指導実施者の見込み数

		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	
特定健診	対象者数（人）	1,040	1,007	973	939	905	872	
	受診者数（人）	676	655	632	657	634	610	
特定保健指導	対象者数（人）	合計	78	76	73	76	73	71
		積極的支援	28	27	26	27	26	25
		動機付け支援	50	49	47	49	47	46
	実施者数（人）	合計	28	26	29	31	33	32
		積極的支援	10	9	10	11	12	11
		動機付け支援	18	17	19	20	21	21

※各見込み数の算出方法

特定健診対象者数：40-64歳、65-74歳の推計人口に令和4年度の各層の国保加入率を乗じて算出

特定健診受診者数：特定健診対象者数に特定健診受診率の目標値を乗じて算出

特定保健指導対象者数：合計値は、特定健診受診者数に令和4年度の特定保健指導該当者割合を乗じて算出

支援区分別対象者数は、合計値に令和4年度の対象者割合を乗じて算出

特定保健指導実施者数：特定保健指導対象者数に特定保健指導実施率の目標値を乗じて算出

### 3 特定健診・特定保健指導の実施方法

#### (1) 特定健診

##### ① 実施目的・対象者

「特定健康診査及び特定保健指導の適切かつ有効な実施を図るための基本的な指針」（以下、基本指針）にあるとおり、特定健診は、糖尿病等の生活習慣病の発症や重症化を予防することを目的として、メタボリックシンドロームに着目し、生活習慣を改善するための特定保健指導を必要とする者を的確に抽出するために行う。

対象者は、片品村国民健康保険加入者で、当該年度に40歳から74歳となる人に実施する。

##### ② 実施期間・実施場所

集団健診は、6月と11月に各3日間実施する。実施場所は、特定健診を受ける人の利便性を考慮し、選定する。

個別健診は、6月から12月にかけて実施する。

集団健診、個別健診ともに具体的な会場については、特定健診実施時期にあわせて周知する。

##### ③ 実施項目

「高齢者の医療の確保に関する法律」に基づく「特定健康診査及び特定保健指導の実施に関する基準」で定められた項目に従い、特定健診受診者全員に図表10-3-1-1の「基本的な健診項目」を実施する。また、一定の基準のもと医師が必要と判断した場合には、「詳細な健診項目」を実施する。

図表10-3-1-1：特定健診の健診項目

	項目
基本的な健診項目	<ul style="list-style-type: none"><li>・診察（既往歴（服薬歴、喫煙歴を含む）、自覚症状）</li><li>・身体計測（身長、体重、腹囲、BMI）</li><li>・血圧</li><li>・血中脂質検査（空腹時中性脂肪（やむを得ない場合には随時中性脂肪）、HDLコレステロール、LDLコレステロール（Non-HDLコレステロール））</li><li>・肝機能検査（AST（GOT）、ALT（GPT）、<math>\gamma</math>-GT（<math>\gamma</math>-GTP））</li><li>・血糖検査（HbA1c、空腹時血糖、やむを得ない場合には随時血糖）</li><li>・尿検査（尿糖、尿蛋白）</li></ul>
詳細な健診項目	<ul style="list-style-type: none"><li>・心電図検査</li><li>・眼底検査</li><li>・貧血検査</li><li>・血清クレアチニン検査</li></ul>

【出典】厚生労働省 標準的な健診・保健指導プログラム（令和6年度版）

##### ④ 実施体制

健診の委託に際しては、利用者の利便性を考慮するとともに、健診の質の担保のために適切な精度管理維持が求められるため、国の委託基準（「特定健康診査及び特定保健指導の実施に関する基準第16条第1項の規定に基づき厚生労働大臣が定める者」）を満たす健診機関を選定する。詳細は契約書及び仕様書で定める。

##### ⑤ 健診結果の通知方法

集団の特定健診受診者については、健診結果説明会を開催し、対象者に結果通知表を手渡す。健診結果説明会に出席が困難な対象者については、結果通知表を郵送する。

個別の特定健診受診者については、実施医療機関が対象者に結果通知表を郵送する。

#### ⑥ 事業者健診等の健診データ収集方法

片品村国民健康保険被保険者が「労働安全衛生法」に基づく健康診断や人間ドックを受診した場合は、本人から健診結果データを提供してもらい、特定健診受診率に反映する。

また、定期的に医療機関で検査をしている者などが、特定健診と同等の検査項目を検査済の場合、本人同意のもと、医療機関からデータ提供を受け、特定健診受診率に反映する。

## (2) 特定保健指導

### ① 実施目的・対象者階層化の基準

基本指針にあるとおり、特定保健指導は、内臓脂肪型肥満に着目し、生活習慣を改善するための保健指導を行うことにより、対象者が自らの生活習慣における課題を認識して行動変容と自己管理を行うとともに健康的な生活の維持ができるようになることを通じて、糖尿病等の生活習慣病を予防することを目的とするものである。

特定保健指導は、特定健診結果を腹囲、リスクの高さ、喫煙歴、年齢により階層化し、積極的支援対象者及び動機付け支援対象者に実施する。なお、特定健診の質問票において服薬中であることが判別できた者については、既に主治医の指導を受けていることから特定保健指導対象外とする。また、2年連続して積極的支援対象者に該当した対象者のうち、1年目に比べ2年目の状態が改善している場合、2年目は、動機付け支援相当の支援を実施した場合であっても、特定保健指導を実施したこととなる。

図表10-3-2-1：特定保健指導階層化の基準

腹囲	追加リスク	喫煙歴	対象年齢	
	(血糖・血圧・脂質)		40-64歳	65歳-
男性≧85cm 女性≧90cm	2つ以上該当	なし/あり	積極的支援	動機付け支援
	1つ該当	あり		
上記以外で BMI ≧25kg/m <sup>2</sup>		1つ該当	なし	
	3つ該当		なし/あり	
	2つ該当	あり	動機付け支援	
		なし		
	1つ該当	なし/あり		

参考：追加リスクの判定基準

追加リスク	血糖	空腹時血糖100mg/dL以上、またはHbA1c5.6%以上
	血圧	収縮期血圧130mmHg以上、または拡張期血圧85mmHg以上
	脂質	空腹時中性脂肪150mg/dL以上（やむを得ない場合には随時中性脂肪175mg/dL以上）、またはHDLコレステロール40mg/dL未満

【出典】厚生労働省 標準的な健診・保健指導プログラム（令和6年度版）

### ② 重点対象

対象者全員に特定保健指導を実施するが、効率的、効果的な特定保健指導を実施するため、特に支援が必要な層及び効果が期待できる層に重点的に特定保健指導の利用勧奨を行う。具体的には、65歳以下の積極的支援対象者を重点対象とする。

### ③ 実施期間・内容

特定保健指導は通年実施する。

積極的支援及び動機付け支援ともに初回面接では、医師、保健師または管理栄養士の指導のもと、生活習慣改善のための行動計画を設定する。

積極的支援は、原則年1回の初回面接後、3か月間、定期的に電話や訪問で継続支援を実施する。初回面接から1か月後に中間評価を実施し、3か月後に体重、腹囲の変化や生活習慣の改善状況について最終評価を行う。中間評価時に、体重2kg及び腹囲2cm減少を達成した対象者については、その時点で支援を終了する。

動機付け支援は、原則年1回の初回面接後、3か月間後に体重、腹囲の変化や生活習慣の改善状況について実績評価を行う。

#### ④ 実施体制

特定保健指導の委託に際しては、特定健診と同様に国の委託基準を満たす機関を選定する。詳細は契約書及び仕様書で定める。利用者の利便性を考慮するとともに、保健指導の質を確保するなど適正な事業実施に努める。

また、特定保健指導実施機関が少ない地域や一部の対象者については、直営で指導を実施する。

## 4 特定健診受診率・特定保健指導実施率向上に向けた主な取組

### (1) 特定健診

取組項目	取組内容	取組概要
新たなツールを活用した受診勧奨	広報による受診案内、防災無線での周知	健診の受け方に関する案内を、広報に掲載し全戸に周知を行う。防災無線を活用し集団健診の前夜と当日朝に放送する。
利便性の向上	自己負担額の軽減/がん検診との同時実施/送迎の実施/村内3カ所、計3日間での集団健診の実施/個別健診の窓口申請の撤廃	受診率向上のために特定健診の自己負担を無くしている。 集団健診では特定健診と各種がん検診を同時実施し、総合健診として行っている。 個別健診の窓口申請を撤廃し、受診希望調査における希望者に個別健診用の受診票を発送する。
関係機関との連携	健康診査の委託	集団健診は健診機関に委託し実施している。個別健診は、県医師会との集合契約により実施している。村内医療機関からの個別健診の受診勧奨の協力も得られている。
健診データ収集	KDBの活用	KDBから健診データの情報を得ている。
早期啓発	若年者健診の実施	35歳から39歳の国保加入者を対象に特定健診と同じ項目の健診（尿酸値検査以外）（詳細項目は対象外）を実施している。
インセンティブの付与	ヘルスポイントの付与	健診の受診率向上を目的に地域通貨おぜだっペイの付与を予定している。

### (2) 特定保健指導

取組項目	取組内容	取組概要
利便性の向上	健診会場での初回面接の実施	特定保健指導の参加率を向上させるため、対象者には当日健診会場で初回面接を実施する。
内容・質の向上	特定保健指導対象者全員への実施、対象者の拡大	現在特定保健指導の実施対象に血糖・中性脂肪の該当者を含められていないため、全数の実施を目標とする。
業務の効率化	保健指導の委託	集団健診受診者の内、初回面談分割実施により面談を受けた方の保健指導は、健診を委託している健診機関に委託し実施している。
早期介入	健診会場での初回面接の実施	特定保健指導の参加率を向上させるため、対象者には当日健診会場で初回面接を実施する。
関係機関との連携	保健指導の委託	集団健診受診者の内、初回面談分割実施により面談を受けた方の保健指導は、健診を委託している健診機関に委託し実施している。
インセンティブの付与	運動施設、温泉施設、ヘルシー志向のレストランの利用券	隣接した市の複合施設と提携し、終了者に運動施設、温泉施設、ヘルシー志向のレストランの利用券を配布している。

## 5 その他

### (1) 計画の公表・周知

本計画については、高齢者の医療の確保に関する法律第19条第3項に基づき、作成及び変更時は、片品村のホームページ等により公表し、広く内容等の周知を行う。

また、特定健診及び特定保健指導については、片品村のホームページ等への掲載、啓発用ポスターの掲示などにより、普及啓発に努める。

### (2) 個人情報の保護

特定健診及び特定保健指導の記録の保存に当たっては、「特定健康診査・特定保健指導の円滑な実施に向けた手引き（第4版）」を参考に、個人の健康情報を漏えいしないよう、厳格に管理した上で適切に活用する。

個人情報の取扱いに関しては、個人情報保護法に基づくガイドライン等（「健康保険組合等における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス」「国民健康保険組合における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス」等）を遵守し、情報の保存及び管理体制を確保する。外部への委託に際しては、委託先との契約書に個人情報の厳重な管理や目的外使用の禁止等を定めるとともに、委託先の契約遵守状況を適切に管理する。

### (3) 実施計画の評価・見直し

特定健診の受診率及び特定保健指導の実施率、並びにメタボ該当者及びメタボ予備群の減少率については、本計画の最終年度（令和11年度）に評価を行う。

実施中は、設定した目標値の達成状況を1年ごとに点検し、評価の結果を活用して、必要に応じて実施計画の記載内容の見直しを行う。

## 参考資料 用語集

行	No.	用語	解説
あ行	1	eGFR	血清クレアチニン値と年齢・性別からGFRを推算したもの。GFRは腎臓の中にある毛細血管の集合体である「糸球体」が1分間にどれくらいの血液を濾過して尿を作れるかを示す値であり、GFRが1分間に60ml未満の状態または尿たんぱくが3か月以上続くとCKD（慢性腎臓病：腎機能が慢性的に低下し、尿たんぱくが継続して出る状態）と診断される。
	2	医療費の3要素	医療費の比較には、医療費総額を被保険者数で割った1人当たり医療費を用いる。一人当たり医療費は以下の3つの要素に分解でき、これを医療費の3要素という。 受診率：被保険者千人当たりのレセプト件数 1件当たり日数：受診した日数/レセプト件数 一日当たり医療費：総医療費/受診した日数
	3	HDL-C	余分なコレステロールを回収して動脈硬化を抑える、善玉コレステロール。
	4	ALT	アミノ酸をつくり出す酵素で大部分が肝細胞に含まれている。肝臓の細胞が障害を受けるとALTが血液中に流れ出し血中濃度が上がるため、ALTの数値が高い場合は、肝臓の病気が疑われる。
	5	LDL-C	肝臓で作られたコレステロールを全身へ運ぶ役割を担っており、増えすぎると動脈硬化を起こして心筋梗塞や脳梗塞を発症させる、悪玉コレステロール。
か行	6	拡張期血圧	血圧は一般的には動脈内部の圧力のことを指し、心臓の収縮に伴って大きく変動する。最小となる血圧は心臓が拡張したときの血圧で拡張期血圧と呼ばれる。
	7	虚血性心疾患	虚血性心疾患には、狭心症や心筋梗塞がある。狭心症は動脈硬化などによって心臓の血管（冠動脈）が狭くなり、血液の流れが悪くなった状態。一方、心筋梗塞は、動脈硬化によって心臓の血管に血栓（血液の固まり）ができて血管が詰まり、血液が流れなくなって心筋の細胞が壊れてしまう病気。
	8	空腹時血糖	血糖値は、血液に含まれるブドウ糖（グルコース）の濃度のこと、食前食後で変動する。空腹時血糖は食後10時間以上経過した時点での血糖値。
	9	KDBシステム	国保連合会が保険者の委託を受けて行う各種業務を通じて管理する「特定健診・特定保健指導」「医療（後期高齢者医療含む）」「介護保険」等の情報を活用し、統計情報や「個人の健康に関する情報」を提供し、保険者の効率的かつ効果的な保健事業の実施をサポートすることを目的として構築されたシステム。
	10	血清クレアチニン	たんぱく質が分解・代謝されてできた老廃物。通常は尿とともに排泄されるが、腎機能が低下すると排泄できず血液中に増えていく。
	11	健康寿命	世界保健機関（WHO）が提唱した新しい指標で、平均寿命から寝たきりや認知症など介護状態の期間を差し引いた期間。
	12	後期高齢者医療制度	公的医療保険制度の1つで、75歳以上の人、そして65歳から74歳までで一定の障害の状態にあると後期高齢者医療広域連合から認定を受けた人が加入する医療保険。
	13	高血圧症	高血圧は、血圧が高いという病態。高血圧症とは、繰り返し測っても血圧が正常より高い場合をいう。
	14	後発医薬品 （ジェネリック医薬品）	先発医薬品の特許期間終了後に、先発医薬品と品質・有効性・安全性が同等であるものとして厚生労働大臣が承認を行っているもの。
	15	高齢化率	全人口に占める65歳以上人口の割合。
さ行	16	脂質異常症	中性脂肪やコレステロールなどの脂質代謝に異常をきたした状態。
	17	疾病分類	世界保健機関（WHO）により公表されている「疾病及び関連保健問題の国際統計分類」（略称、国際疾病分類：ICD）に準じて定めたものであり、社会保険の分野で疾病統計を作成する際の統一的基準として、広く用いられているもの。
	18	収縮期血圧	血圧は一般的には動脈内部の圧力のことを指し、心臓の収縮に伴って大きく変動する。最大となる血圧は心臓が収縮したときの血圧で収縮期血圧と呼ばれる。
	19	受診勧奨対象者	特定健診受診者のうち、医療機関の受診を促す基準として設定されている受診勧奨判定値を超える者。
	20	人工透析	機能が著しく低下した腎臓に代わり、機械で老廃物を取り除くこと。一般的に行われている「血液透析」は、患者の腕の血管から血液を取り出し、老廃物を除去する。



行	No.	用語	解説
	21	腎不全	腎臓の中にある毛細血管の集合体で、血液を濾過する「糸球体」の網の目が詰まり、腎臓の機能が落ち、老廃物を十分排泄できなくなる状態。
	22	診療報酬明細書 (レセプト)	病院などが患者に対して治療を行った際、費用（医療費）を保険者に請求するとき使用する書類のこと。病院などは受診した患者ごとに毎月1枚作成する。
	23	生活習慣病	食事や運動・喫煙・飲酒・ストレスなどの生活習慣が原因で起こる疾患の総称。重篤な疾患の要因となる。日本人の3大死因であるがん・脳血管疾患・心疾患、更に脳血管疾患や心疾患の危険因子となる動脈硬化症・糖尿病・高血圧症・脂質異常症などはいずれも生活習慣病であるとされている。
	24	積極的支援	腹囲とBMIから、内臓脂肪蓄積のリスクありと判定された者のうち、血圧高値・脂質異常・血糖高値・喫煙ありの追加リスクに2又は3以上該当した者に対して実施する特定保健指導。65歳以上75歳未満の者については「積極的支援」の対象となった場合でも「動機付け支援」とする。
た行	25	中性脂肪	肉や魚・食用油など食品中の脂質や、体脂肪の大部分を占める物質。単に脂肪とも呼ばれる。
	26	動機付け支援	腹囲とBMIから、内臓脂肪蓄積のリスクありと判定された者のうち、血圧高値・脂質異常・血糖高値・喫煙ありの追加リスクに1又は2つ該当した者に対して実施する特定保健指導。
	27	糖尿病	インスリンの作用不足により高血糖が慢性的に続く病気。網膜症・腎症・神経障害の3大合併症をしばしば伴う。
	28	糖尿病性腎症	糖尿病の合併症の一つ。高血糖状態が継続したことで腎臓の濾過装置である糸球体が障害され、腎機能の著しい低下を認める。一度低下した腎機能の回復は難しく、進行すると人工透析が必要となる場合も多い。
	29	特定健康診査	高齢者の医療の確保に関する法律に基づき、40歳～74歳の方を対象として、保険者が実施することになっている健診。メタボリックシンドロームの対策が目的の一つとなっているために、俗に「メタボ健診」と言われることもある。
	30	特定健康診査等実施計画	保険者が特定健診・特定保健指導の実施に当たって、その規模、加入者の年齢構成、保健事業の体制・人材等のリソース、地域条件等を考慮し、あらかじめ実施率目標や実施方法を定めることで、事業を効率的・効果的に実施し、その実施状況の評価ができるよう、作成する計画。
	31	特定保健指導	特定健康診査の結果に基づき、主にメタボリックシンドロームの予防や解消を目的に行われる健康支援のこと。メタボリックシンドロームの人には「積極的支援」、その予備群には「動機付け支援」、それ以外の受診者には「情報提供」が行われる。
な行	32	日本再興戦略	平成25年6月に閣議決定された、規制緩和等によって、民間企業や個人が真の実力を発揮するための方策をまとめたものであり、日本経済を持続的成長に導く道筋を示す戦略。
	33	尿酸	細胞内の核に含まれるプリン体が分解される際に生じる老廃物。
	34	脳血管疾患	脳の動脈硬化が進み、脳の血管が詰まったり破れたりする病気の総称。
は行	35	BMI	体格指数の一つで、肥満度を表す指標として国際的に用いられている。肥満や低体重（やせ）の判定に用いられ、体重（kg）/身長（m <sup>2</sup> ）で算出される。
	36	PDCAサイクル	「Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（改善）」という一連のプロセスを繰り返し行うことで、業務の改善や効率化を図る手法の一つ。

行	No.	用語	解説
	37	標準化死亡比 (SMR)	基準死亡率（人口10万対の死者数）を対象地域に当てはめた場合に、計算により求められる期待される死者数と実際に観察された死者数を比較するもの。国の平均を100としており、標準化死亡比が100以上の場合は国の平均より死亡率が高いと判断され、100以下の場合は死亡率が低いと判断される。
	38	腹囲	ハその高さで計る腰回りの大きさ。内臓脂肪の蓄積の目安とされ、メタボリックシンドロームを診断する指標の一つ。
	39	平均自立期間	要介護2以上を「不健康」と定義して、平均余命からこの不健康期間を除いたもので、0歳の人が必要介護2の状態になるまでの期間。
	40	平均余命	ある年齢の人々が、その後何年生きられるかの期待値であり、本計画書では0歳での平均余命を示している。
	41	HbA1c	赤血球の中にあるヘモグロビンA (HbA) にグルコース（血糖）が非酵素的に結合したものである。糖尿病の過去1～3か月のコントロール状態の評価を行う上での重要な指標。
ま行	42	未治療者	健診受診者のうち、受診勧奨対象者かつ健診実施から6か月以内に医療機関を受診していない者。
	43	メタボリックシンドローム	内臓肥満に高血圧・高血糖・脂質代謝異常が組み合わさることにより、心臓病や脳卒中などになりやすい病態のこと。単に腹囲が大きいただけでは、メタボリックシンドロームには当てはまらない。
や行	44	有所見者	特定健診受診者のうち、異常の所見のあった者。